

市原市地域医療調査報告書

2024年4月

序章（調査の目的、調査結果概要）

- 1. 調査の背景 ……P.4
- 2. 調査の概要 ……P.7
- 3. 調査結果のまとめ ……P.8

第1章（市原保健医療圏、対象病院の概要）

- 1. 市原保健医療圏について ……P.10
- 2. 対象病院（帝京大学ちば総合医療センター）について ……P.16

第2章（影響範囲の医療ニーズ・資源調査）

- 1. 入院 ……P.22
- 2. 外来 ……P.54
- 3. 救急 ……P.68

終章（今後の取り組み）

- 1. 調査結果総括 ……P.73
- 2. 今後の取り組み ……P.74

用語の説明 ……P.76

序章（調査の目的、調査結果概要）

1 調査の背景

(1) 調査の目的

この調査は、帝京大学ちば総合医療センター(以下、「対象病院」という。)が現在立地する姉崎地区からちはら台へ移転することを決定したことを契機に、この移転が本市の地域医療に与える影響を捉え、将来の地域医療体制の適正化を検討するうえで必要な基礎データを収集することを目的に調査するものです。

(2) 市原保健医療圏について

市原保健医療圏は県内9つある保健医療圏のうち千葉市と並んで単一自治体で保健医療圏を構成しています。

病院数は13施設あり、うち2次救急医療機関が8施設、うち3次救急医療機関が1施設あります。

高度救急医療について、特徴的な事項として、対象病院(3次・災害拠点)、千葉労災病院(2次・災害拠点)、千葉県循環器病センター(2次・災害拠点)の3病院がそれぞれ、西部、東部、南部にバランスよく配置されている状況にあります。

しかしながら、対象病院が計画どおり、ちはら台に移転すると本市東部に医療資源が偏在する状況が生まれ、救急医療、入院、外来といった医療需要に少なからぬ影響を与える可能性があります。

調査データの諸元

本調査を実施するにあたって、医療制度や制度改革の取組等に関する資料を厚生労働省のオープンデータ、千葉県のホームページ等から千葉県保健医療計画、病床機能報告等を収集し整理を行いました。

また、対象病院からは受療動向や救急搬送状況等のデータ提供について御協力を頂き、医療需要の現状把握や医療提供体制の分析を行っています。

1 調査の背景

(3) 対象病院の誘致に関する経過

昭和55年頃、市原市は急激な人口増に対応した医療サービスの提供が急務であるとし、総合病院誘致の方針を決定しました。誘致の場所は、総合病院の空白地帯である姉崎地区とし、誘致活動を進めたところ、学校法人帝京大学(以下「帝京大学」という。)から進出の意向が示されました。この後、用地の確保(無償譲渡)、周辺道路、下水道整備を市が行う内容で、帝京大学と市の間で病院設置に関する協定を締結しました。

- ・昭和55年11月10日 総合病院の新設に関する基本協定書
- ・昭和61年5月1日 開院(診療科目13、病床数315)

(4) 対象病院の移転決定

令和5年、帝京大学から市に対し、現在の対象病院をちはら台地区に移転する旨の通知がありました。経過は以下の通りです。

- 6月26日 帝京大学から市へ、移転建て替え計画について通知
- 7月5日 市から帝京大学へ、現在地ないし現在地近傍での建て替えを検討するよう要請
- 12月11日 帝京大学から市へ、移転を正式決定した旨通知

なお、現時点の計画では移転開院は2029年頃としています。

1 調査の背景

(5) 移転に対する本市の対応

対象病院の移転に伴い、以下の影響があるものと考えられます。

- ・市西部地区が総合病院の空白地帯となること
- ・ちはら台に立地する総合病院は、千葉市側からの利用が見込まれ、市原保健医療圏の病床需要を満たさない恐れがあること

このことから、市は病床配分に関する権限を有する千葉県に対し、要望書を提出しました。

- ・令和6年1月10日 要望主旨:「姉崎地区において公共用地等を活用するなどして、二次救急を担うことを想定した病院を設置ないし誘致したいので、次期千葉県保健医療計画の計画期間において、病院の整備が可能となるよう要望する」

2 調査の概要

(1) 調査範囲

調査の範囲は市原保健医療圏とし、人口、医療資源、患者動向を概括した後に、対象病院の移転の影響と移転後、市西部地区において必要な医療資源について検討していきます。

- ・対象病院が位置する市原保健医療圏の現状把握及び将来医療機能・需給量の推計
- ・対象病院の移転による市原市(特に市原市西部地区)の医療体制への影響調査
- ・対象病院の移転による市原市(特に市原市西部地区)の救急医療体制の影響調査
- ・対象病院周辺の患者に対する医療的資源確保に向けた具体的な診療機能・規模等の把握

(2) 定義

入院、外来の患者のアクセス範囲を考慮し、対象病院の移転にかかる影響範囲(対象エリア)を以下定義します。





入院・救急


入院及び救急については、対象病院から半径10kmを影響範囲とします。

外来

外来については、半径5kmを影響範囲とします。

3 調査結果のまとめ

項目	各項目の調査概要	今後の方向性
入院/ 診療科目	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院の入院患者は、<u>内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科</u>で入院の約8割を占めており、対象エリア内で重要な役割を担っていることがわかります。 特に、産婦人科は対象エリア内で唯一の病院であり、<u>対象病院移転により地域の病院において、産婦人科系疾患の受け皿が不足することが懸念されます。</u>(飯島マザーズクリニック、有秋台医院は有床診療所として医療機能を提供) 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆入院/診療科目 <ul style="list-style-type: none"> 内科系、外科系について総合病院が一般的にもつ機能が望まれます。
入院/ 病床機能	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院から10km圏内には9病院あり、うち急性期一般入院基本料を算定しているのは4病院のみです。 対象病院は高度急性期、急性期機能がメインの病院です。 対象病院の1日入院患者数に対して、対象病院を中心に半径10km圏内に居住する患者割合、移転前後で診療圏が重複する範囲に居住する患者割合、大学病院の高度な医療を必要とする患者割合、を除いた、想定1日入院患者数を算出し、稼働率を想定した病床数を算出すると、<u>200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。</u> 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆入院/病床機能 <ul style="list-style-type: none"> コロナ前後の対象病院の実績から、対象病院移転後、必要とされる医療機能を試算すると、200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。
外来	<ul style="list-style-type: none"> <u>退院後の経過観察を目的とした通院もあることから、半径10km圏内に住む患者が約8割を占め、入院と同様の診療科目の確保が望まれます。</u> <u>2035年以降、全疾患で患者が減少する見込みです。</u> <u>市原保健医療圏は診療所が少なく、対象病院が標榜している科目を引き続き対応することは地域ニーズがあると考えられます。</u> 対象病院の1日平均外来患者数から、半径5km圏内の患者を抽出し、高度な医療を必要とする患者を除いて、外来需要を試算すると、<u>200～250名/日程度の需要があるものと考えられます。</u> 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆外来 <ul style="list-style-type: none"> 退院後の経過観察等で通院する患者も多く、入院に紐づいた診療科目が望まれます。 規模としては、1日200～250名/日程度の需要があるものと考えられます。
救急	<ul style="list-style-type: none"> <u>対象病院は三次救急に対応しているものの、半径10km圏内の対象エリアからの搬送が70%を超えており、主な対応範囲と考えられます。</u>対象病院は、<u>周辺エリア(姉崎地区など)の救急対応において重要な役割を担っており、対象病院が移転することで地域医療に影響が生じることが考えられます。</u> 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆救急 <ul style="list-style-type: none"> 市原保健医療圏における、二次救急体制の再構築が求められます。

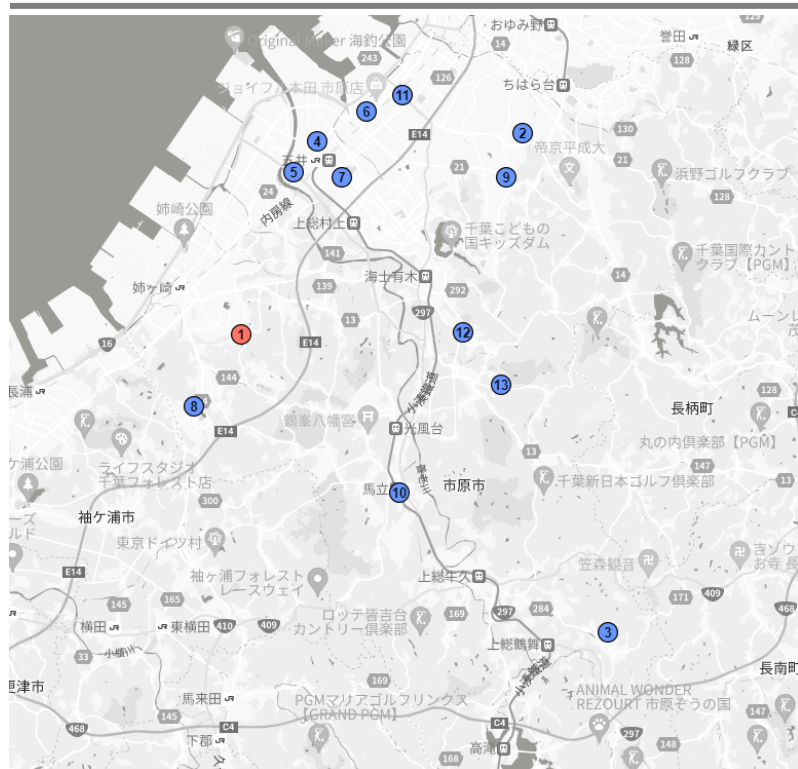


第1章（市原保健医療圏、対象病院の概要）

(1) 病院

- 市原保健医療圏には13病院(精神病院を除くと11病院)あります。
- 対象病院は医療圏でトップの病床数で、医療圏で唯一の三次救急医療機関です。

市原保健医療圏における病院一覧



No.	病院名称	機能区分	入院基本料・特定入院料	病床数	救急告示病院	二次救急医療施設	三次救急医療施設
1	帝京大学ちば総合医療センター	高度急性期	救命救急入院料1	12	○	○	○
		高度急性期	特定集中治療室管理料3	8			
		急性期	急性期一般入院料1	407			
		休棟中		48			
	合計		475				
2	千葉労災病院	高度急性期	急性期一般入院料1	50	○	○	×
		高度急性期	ハイケアユニット入院医療管理料1	12			
		高度急性期	特定集中治療室管理料1	6			
		急性期	急性期一般入院料1	299			
	休棟中		33				
	合計		400				
3	千葉県循環器病センター	高度急性期	特定集中治療室管理料3	20	○	○	×
		急性期	急性期一般入院料1	160			
		回復期	地域包括ケア病棟入院料2	40			
	合計		220				
4	五井病院	急性期	急性期一般入院料6	106	○	○	×
		回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料1	50			
		回復期	地域包括ケア病棟入院料2	24			
		慢性期	療養病棟入院料1	34			
	合計		214				
5	鎗田病院	急性期	急性期一般入院料4	159	○	○	×
		慢性期	療養病棟入院料1	40			
		合計		199			
6	白金整形外科病院	急性期	急性期一般入院料4	50	×	×	×
		回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料3	78			
		合計		128			
7	リハビリテーション病院さらしな	回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料1	120	×	×	×
		合計		120			
8	姉崎病院	慢性期	療養病棟入院料1	99	×	×	×
		合計		99			
9	辰巳病院	回復期	急性期一般入院料4	56	○	○	×
		慢性期	療養病棟入院料1	25			
		合計		81			
10	永野病院	回復期	地域一般入院料3	60	×	×	×
		合計		60			
11	長谷川病院	急性期	地域一般入院料3	37	○	○	×
		合計		37			
				合計病床数	2,033 ※休棟中の病床(81床)を含む		

No.	病院名称	機能区分	病床数
12	市原鶴岡病院	精神	205
13	磯ヶ谷病院	精神	164
			合計病床数 369

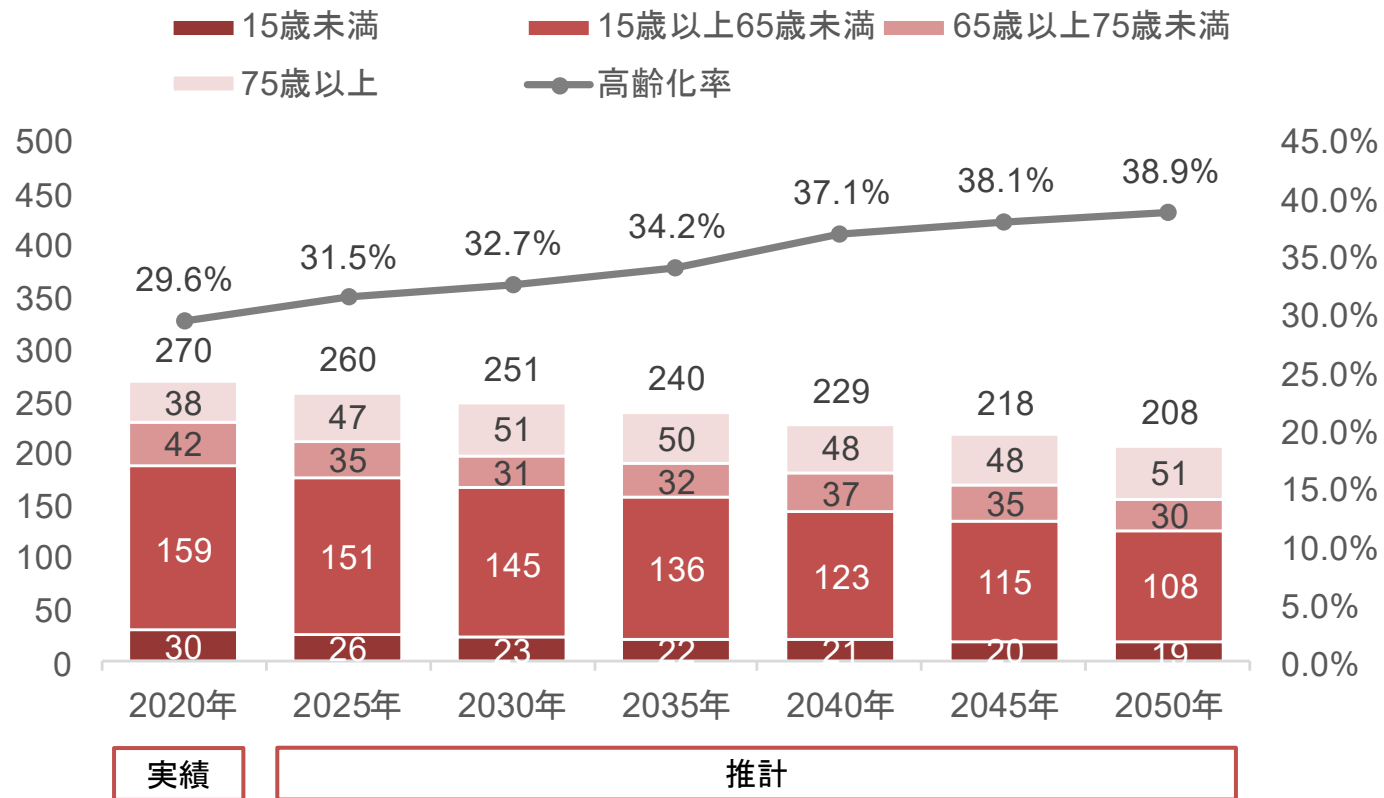
※上記一覧以外に、白金整形外科クリニック(診療所)が二次救急を担当

(2) 人口推計

- 市原保健医療圏の総人口は、年々減少していきます。
- 2020年の高齢化率は29.6%ですが、2050年の高齢化率は38.9%まで上がります。

将来人口推計と高齢化率

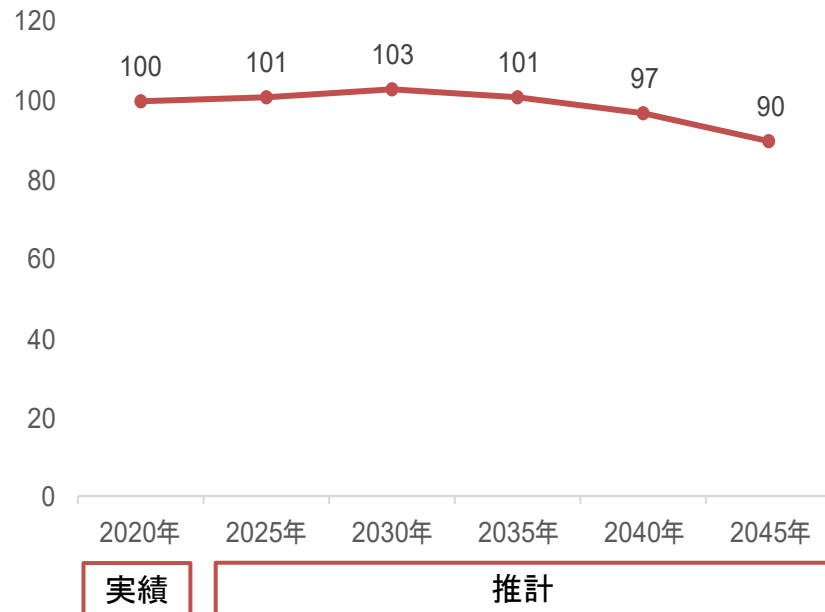
単位:千人



(3) 医療需要予測と入院患者数推移

- 医療需要予測を見ると、2020年と比較して、2045年の需要は減少します。
- 一方で、入院患者数の推移をみると、2013年と比較して、2040年の入院患者数は微増しており、2025年の推計値と比較してもほぼ同等の入院患者数があると推計されています。

医療需要予測指数(2020年実績を100とする)



入院患者数の推移

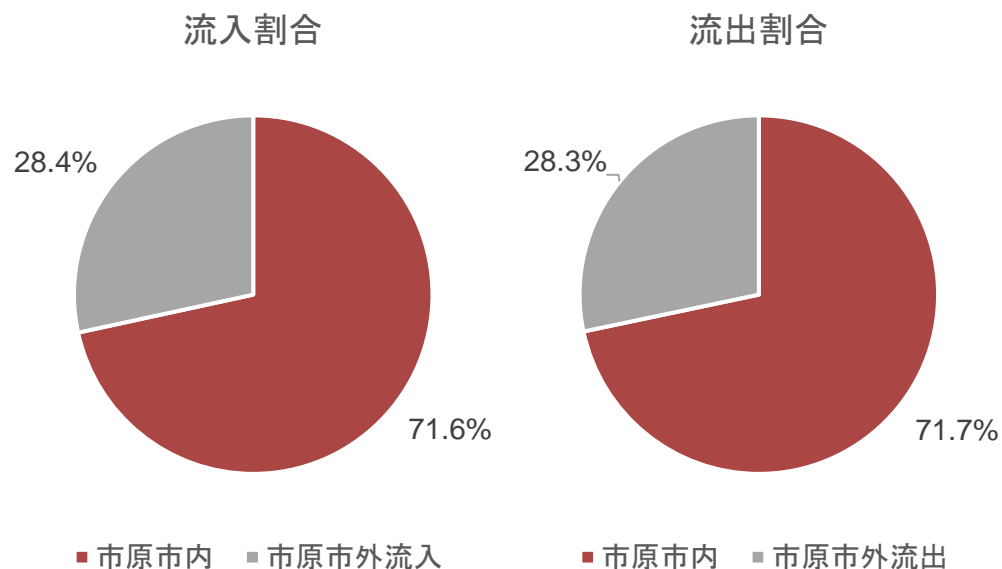
単位:人



(4) 患者動向

- 市原市の患者動向について、流入流出ともに70%以上が市内にとどまっています。
- 流入は山武長生夷隅医療圏が13.7%で最も多く、流出は千葉保健医療圏が16.8%で最も多いです。

市原市流出入割合



市原市流出入内訳

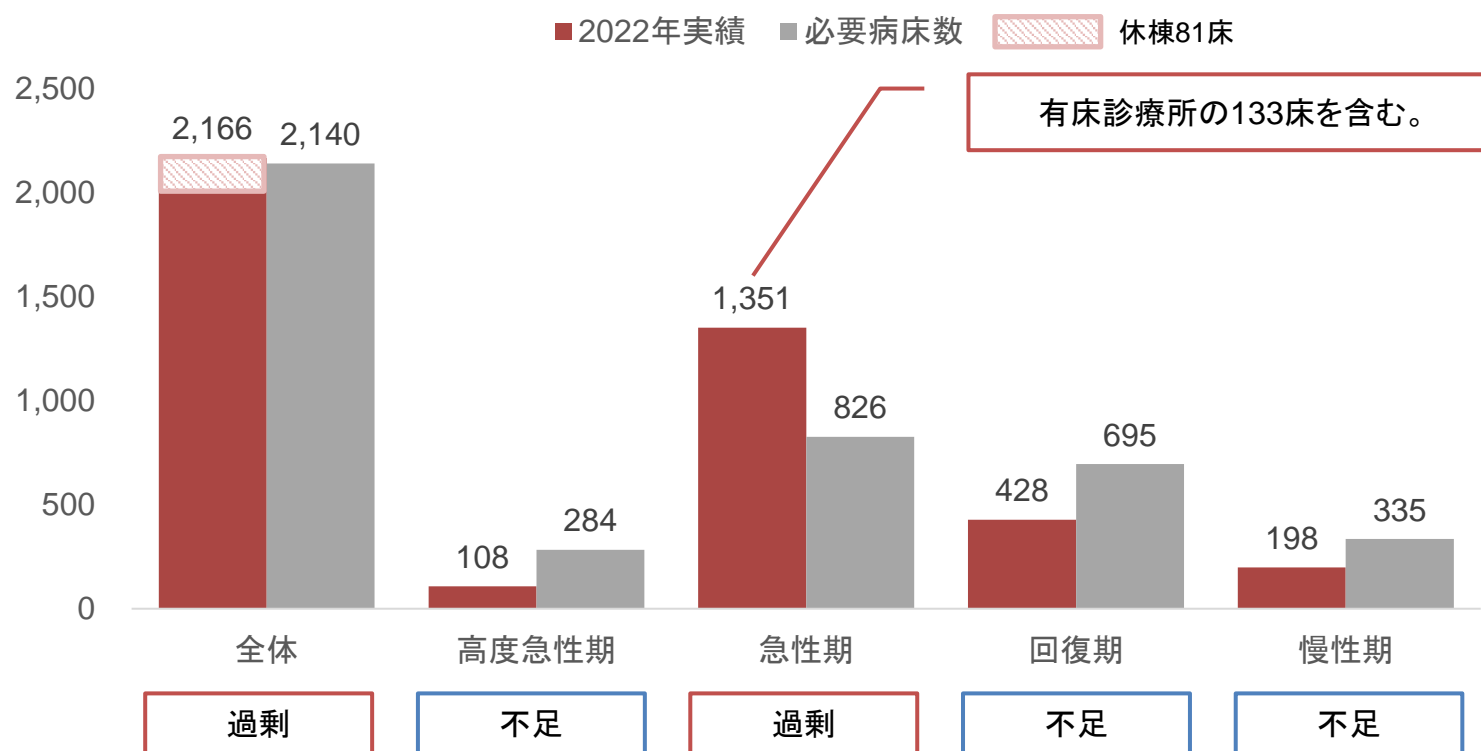
流入先		流出先	
山武長生夷隅保健医療圏	13.7%	千葉保健医療圏	16.8%
君津保健医療圏	5.2%	県外	3.3%
千葉保健医療圏	4.9%	山武長生夷隅保健医療圏	3.0%
その他	4.5%	その他	5.3%

(5) 必要病床数

- 市原保健医療圏における現在の病床数は、休棟81床を除くと2025年に必要な病床数に対し、全体で不足しています。
- 急性期が過剰である一方、高度急性期、回復期、慢性期が不足する見込みです。

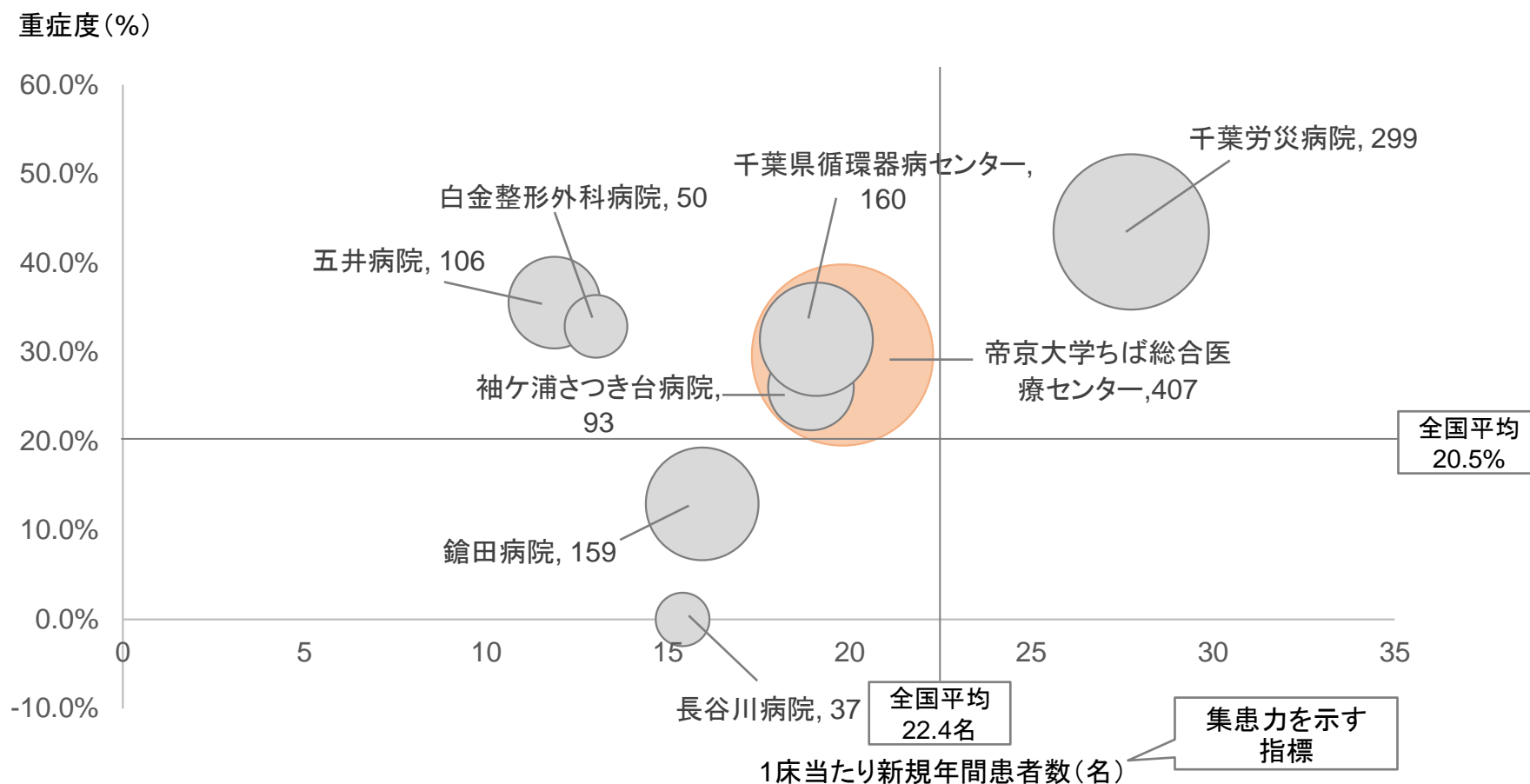
市原保健医療圏における必要病床数

単位：床



【参考】急性期病院比較_重症度、医療・看護必要度、集患力比較

急性期病院の重症度、医療・看護必要度及び集患力の比較(市原保健医療圏・半径10km圏内)



※グラフの円の大きさは病床数を表す

※重症(%)は、重症度、医療・看護必要度のうち、A得点が2点以上かつC得点が3点以上またはA得点が3点以上またはC得点が1点以上の患者割合について、各病棟の公表データの平均数値を示す

出典：令和4年度病症機能報告より作成

(1) 概要

施設名	帝京大学ちば総合医療センター		
所在地	千葉県市原市姉崎3426-3		
病床数	475床		
理事長	冲永 佳史		
院長	井上 大輔		
標榜診療科	内科・循環器内科・脳神経内科・消化器内科・外科・消化器外科・整形外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・メンタルヘルス科・放射線科・脳神経外科・麻酔科・リハビリテーション科・心臓血管外科・形成外科・歯科口腔外科・病理診断科・救急科		
届出入院料	急性期一般入院基本料1 救命救急入院料1 特定集中治療室管理料4 小児入院医療管理料4		
従業員数 (常勤換算)	医師	142.6人	薬剤師 33.2人
	歯科医師	3.1人	診療放射線技師 23人
	看護師	364.1人	理学療法士 11.9人
	准看護師	2人	作業療法士 6.2人
	助産師	25.2人	言語聴覚士 4人

沿革	昭和61年	3月病院開設許可(許可病床数315床) 4月病院使用許可
		5月 病院開設(診療科:内科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・精神科・放射線科・脳神経外科・麻酔科)
	平成元年	11月総合病院名称使用承認 2月理学診療科新設 3月救急告示病院認定
	平成4年	8月病院変更使用許可 185床増床(一般467床・精神33床) 4月千葉県救急基幹センター指定 9月神経内科新設
	平成7年	8月病院変更使用許可 50床増床(一般517床・精神33床)
	平成8年	8月災害拠点病院指定 12月心臓血管外科新設
	平成10年	3月老人性認知症センター指定
	平成15年	3月循環器科新設 財団法人日本医療機能評価機構認定(一般病院種別B)
	平成16年	4月ヘリポート開設
	平成17年	4月千葉県難病相談・支援センター指定
	平成18年	8月帝京大学ちば総合医療センターに名称変更 12月病院変更使用許可 33床減床(一般517床)
	平成20年	3月財団法人日本医療機能評価機構認定(審査体制区分4 Ver.5.0)
	平成23年	12月千葉県がん診療連携協力病院(胃がん・大腸がん・乳がん)指定
	平成24年	7月消化器外科新設
	平成25年	8月財団法人日本医療機能評価機構認定(審査体制区分4 ver6.0)
	平成26年	4月病理診断科新設 7月消化器内科新設
	平成29年	4月地域救命救急センター指定 5月救急科新設
	平成30年	9月病院変更使用許可42床減床(一般475床) 4月地域支援病院指定
		6月財団法人日本医療機能評価機構認定(一般病院2 3rdG:Ver.1.1)
	令和5年	6月財団法人日本医療機能評価機構認定(一般病院2 3rdG:Ver.2.0)

(2) 移転先

- 2029年に移転を予定している帝京平成大学ちはら台キャンパスへは、車で約40分程度です。(※)
- 移転前エリア周辺の地域住民に対して影響があることが考えられます。



(3) 影響範囲の説明【入院・救急】

- 入院・救急の影響範囲は対象病院から半径10km圏内とし、以下10病院(対象病院含む)を対象医療機関としています。

半径10km圏内または市原保健医療圏の病院一覧



No.	対象病院からの直線距離 (km)	病院名称
1	-	帝京大学ちば総合医療センター
2	2.6	姉崎病院
3	5.1	鎗田病院
4	5.6	袖ヶ浦さつき台病院
5	5.6	リハビリテーション病院さらしな
6	6.3	五井病院
7	6.8	永野病院
8	7.7	白金整形外科病院
9	8.7	長谷川病院
10	9.3	辰巳病院
11	10.7	千葉労災病院
12	14.3	千葉県循環器病センター
13	6.8	市原鶴岡病院
14	8.1	磯ヶ谷病院

- …対象病院
- …対象病院より10km圏内
- …対象病院より10km圏外
- …調査対象外(精神病院のため)

本調査の入院部門における対象
(千葉労災病院、千葉県循環器病センター、市原鶴岡病院、磯ヶ谷病院を除く10病院)

※病院は市原市内の病院と、半径10km圏内の病院のみ抽出

(3) 影響範囲の説明【外来】

- 外来の影響範囲は半径5km圏内としています。

半径5km圏内の病院、診療所



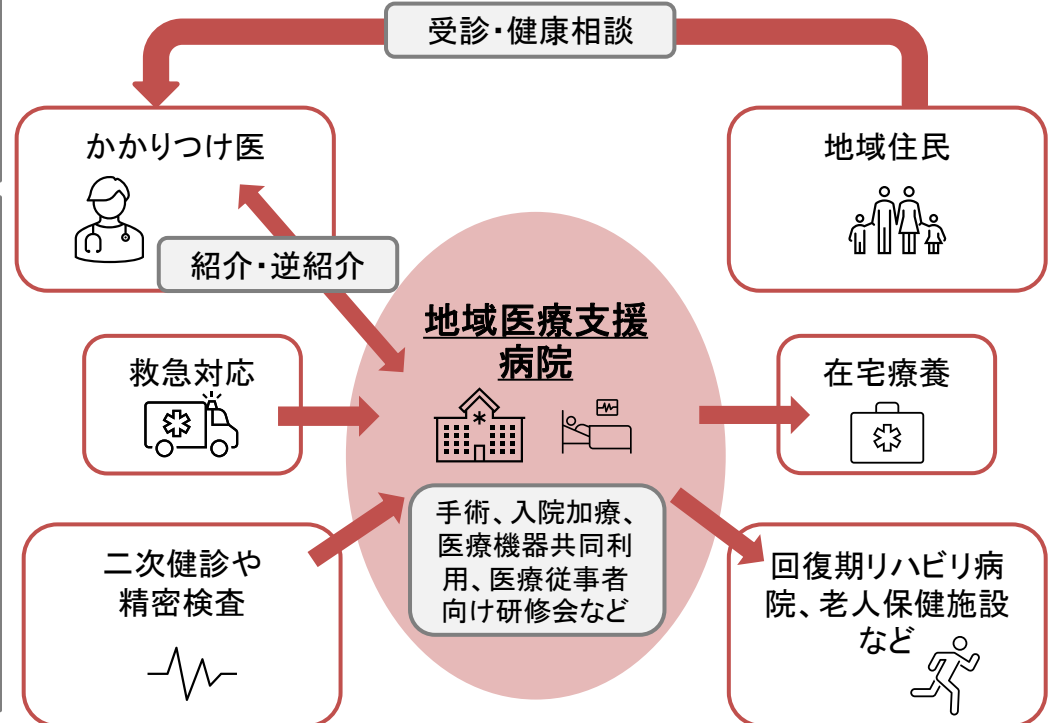
【参考】地域医療支援病院としての役割

- 対象病院は、『地域医療支援病院』として承認されています。
- 地域医療支援病院は、かかりつけ医からの紹介患者に対する医療提供や救急医療の提供等、地域の医療機関との連携強化に向けて幅広い役割を担っています。

地域医療支援病院が地域に求められている役割

概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を行い、かかりつけ医等への支援を通じて地域医療の確保を図る病院として、平成9年の医療法改正において創設
指定病院 (一部)	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年9月1日現在で700医療機関が承認されています。 ● 千葉県の場合: 総合病院国保旭中央病院(989床)、医療法人鉄蕉会亀田総合病院(917床)、順天堂大学医学部附属浦安病院(785床)、成田赤十字病院(716床)、東京慈恵会医科大学附属柏病院(664床)など大学病院、公的病院といった急性期医療機関が該当します。
主な機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 紹介患者に対する医療の提供(かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む) ● 医療機器の共同利用の実施 ● 救急医療の提供 ● 地域の医療従事者に対する研修の実施
要件	<ul style="list-style-type: none"> ● 開設主体: 原則として国、都道府県、市町村、社会医療法人、医療法人等 ● 紹介患者中心の医療を提供していること。具体的には、次のいずれかの場合に該当すること。ア) 紹介率が80%以上であること イ) 紹介率が65%以上であり、かつ、逆紹介率が40%以上であること ウ) 紹介率が50%以上であり、かつ、逆紹介率が70%以上であること ● 救急医療を提供する能力を有すること ● 建物、設備、機器等を地域の医師等が利用できる体制を確保していること ● 地域医療従事者に対する研修を行っていること ● 原則として200床以上の病床、及び地域医療支援病院としてふさわしい施設を有すること等

【イメージ図】



第2章（影響範囲の医療ニーズ・資源調査）

(1) 入院/診療科目に関する調査まとめ

対象病院 MDC分類別のエリア内シェア、エリア内患者数、患者成長率

MDCコード	MDC分類名	エリア内シェア	エリア内患者数	患者数成長率
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	100.0%	911	▲10.0%
2	眼科系疾患	100.0%	488	▲3.0%
14	新生児疾患、先天性奇形	100.0%	103	▲6.7%
18	その他の疾患	100.0%	84	5.8%
15	小児疾患	100.0%	18	▲9.1%
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	88.4%	1,018	7.7%
8	皮膚・皮下組織の疾患	86.9%	133	9.5%
1	神経系疾患	85.6%	659	10.2%
5	循環器系疾患	80.8%	649	18.0%
7	筋骨格系疾患	69.3%	289	4.0%
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	67.0%	67	4.3%
3	耳鼻咽喉科系疾患	61.4%	213	▲1.4%
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	51.1%	216	12.3%
4	呼吸器系疾患	46.1%	445	15.9%
16	外傷・熱傷・中毒	40.9%	288	12.7%
6	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	40.8%	1,149	3.4%
9	乳房の疾患	0.0%	0	▲16.0%
17	精神疾患	0.0%	0	▲4.8%
平均		67.7%	374	2.9%

総合評価

- MDC分類別の対象病院のシェア率、エリア内患者数、患者数成長率(2025年から2035年にかけての増減比率)を整理しています。
- 朱色のMDC分類について、対象エリア内で半分以上のシェアがあり、必要な医療機能であることが考えられます。
- 特に、産婦人科系は、対象エリア内の患者数が相対的に多く、地域医療において重要な役割を担っていると考えられます。(有床診療所として運営する飯島マザーズクリニック、有秋台医院を除き、唯一の病院機能)

※調査対象とする医療機関は対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、白金整形外科病院、辰巳病院の6病院

※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーション病院さらしなはDPC対象病院ではないため除外

※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

※エリア内シェアは、対象エリア内において、MDC別の治療実績合計の対象病院の割合を指す

(対象病院の該当MDC別の治療実績÷該当MDC別の対象エリア内の総治療実績より算出)

※エリア内患者数は、半径10km圏内の対象疾患の入院患者数を示す

※患者数成長率は2025年から2035年の患者増減率を示す(「(2035年患者数÷2025年患者数)-1」より算出)

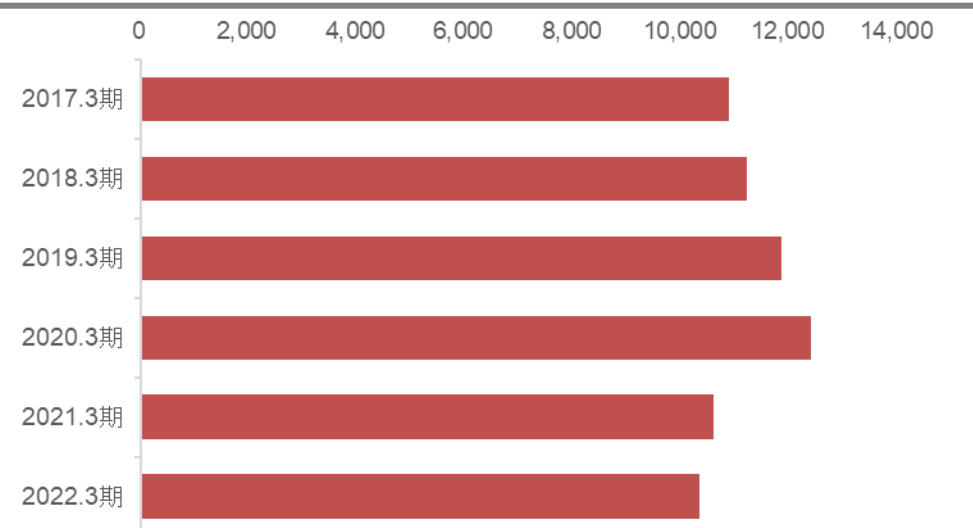
※表中のハイライトについて、エリア内シェアが50%以上で、対象エリア内で特に必要とされている医療機能を示す

(2) 近隣病院比較_MDC分類合計 全診療科合計

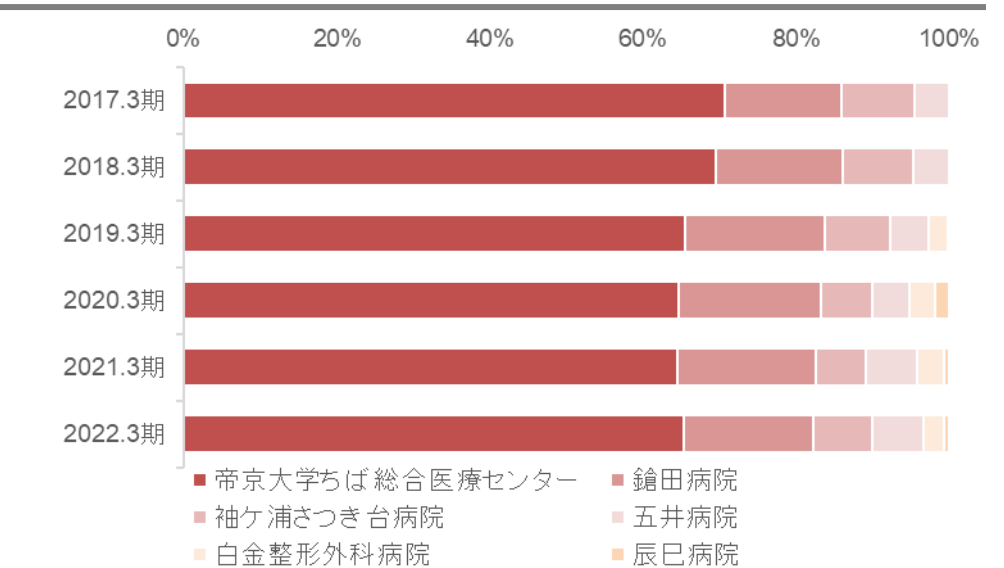
- 対象エリアに立地する6病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、17.3期以後は対象病院と鎗田病院で全体の8割をシェアしています。

※6病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、白金整形外科病院、辰巳病院を指す。

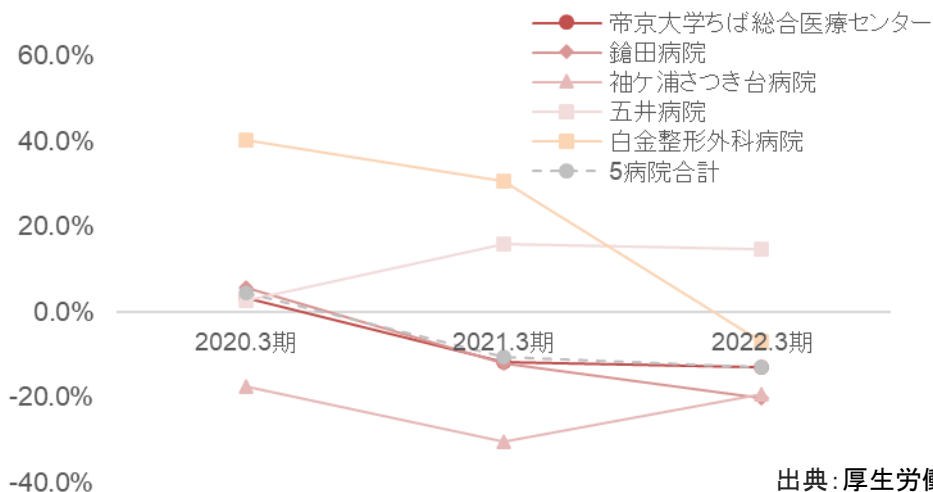
MDC件数推移(6病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(19.3期を起点とした場合)



- 対象病院は20.3期をピークに減少していますが、6割強のシェアを保持しています。
- 対象病院と鎗田病院で全体の8割をシェアしています。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

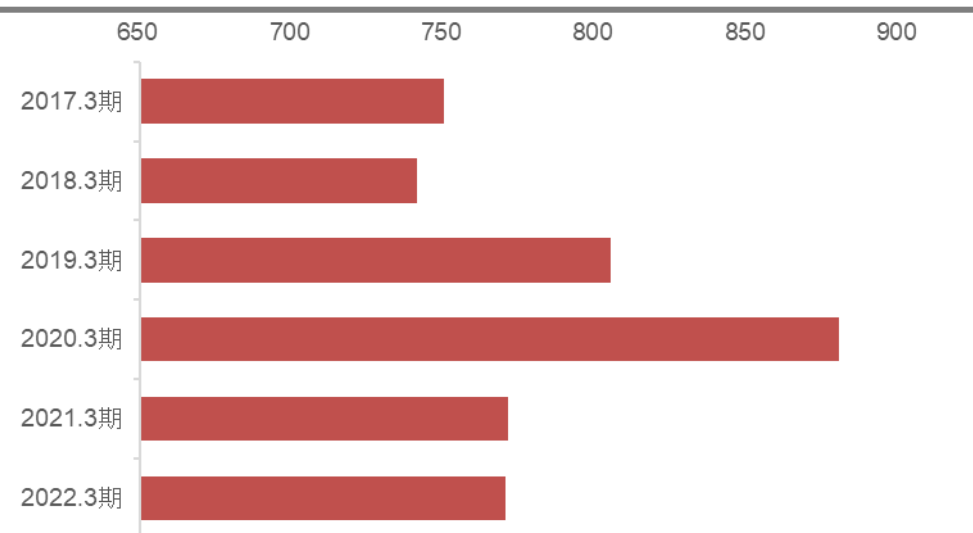
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外
 ※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類01 神経系疾患

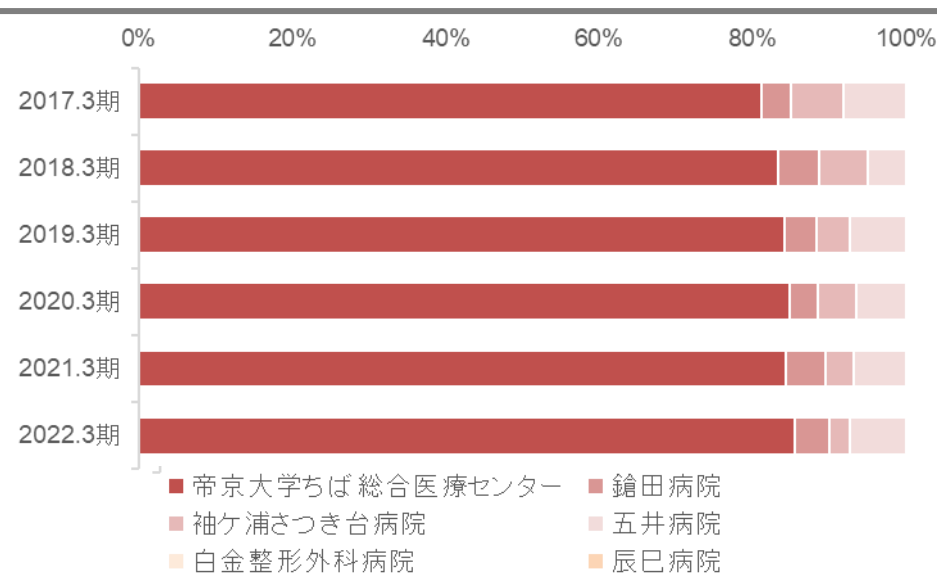
- 対象エリアに立地する4病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、対象病院は20.3期をピークに減少しているものの、8割以上のシェアを保持しています。

※4病院:対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院を指す。

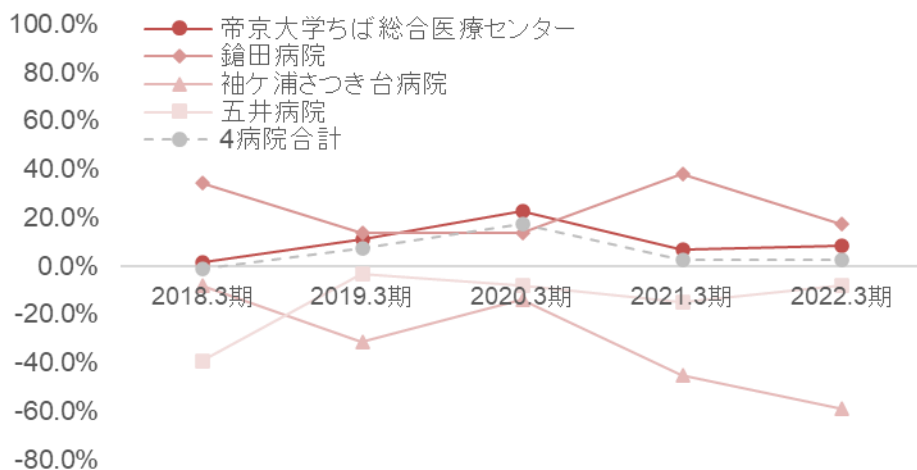
MDC件数推移(4病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



➤ 17.3期から22.3期は対象病院が8割強のシェアを占めている状況です。

出典:厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

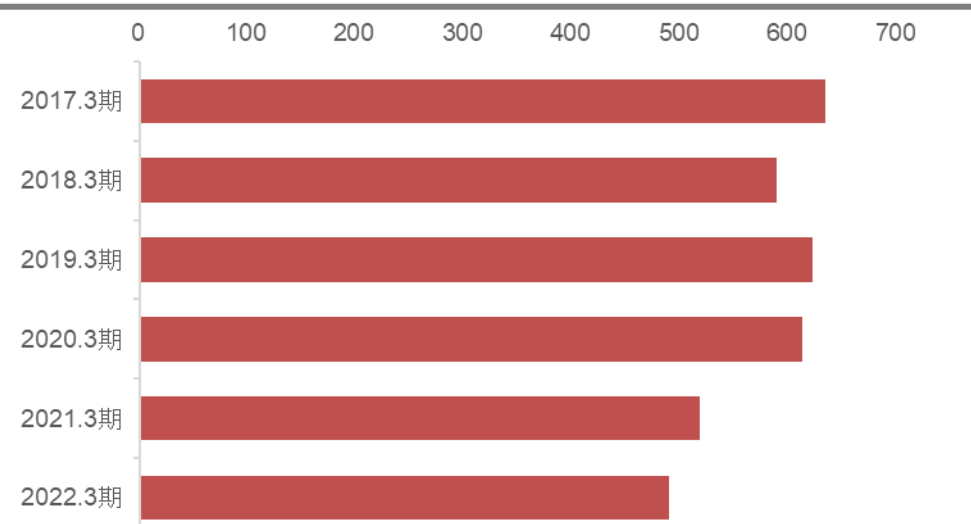
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外 23

(2) 近隣病院比較_MDC分類02 眼科系疾患

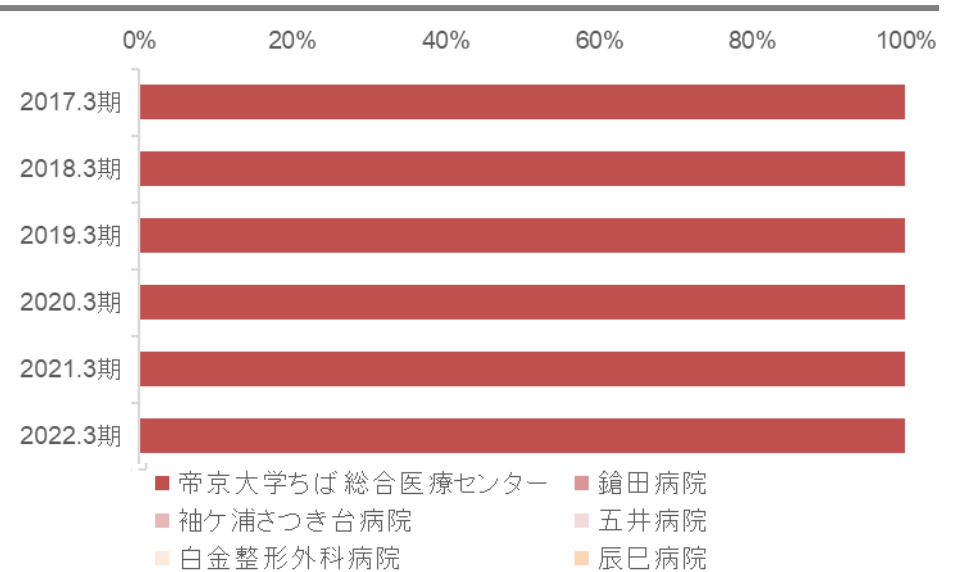
- 対象病院が独占状態であることが伺えます。
- 19.3期以後は減少傾向にあります。

※1病院: 対象病院を指す。

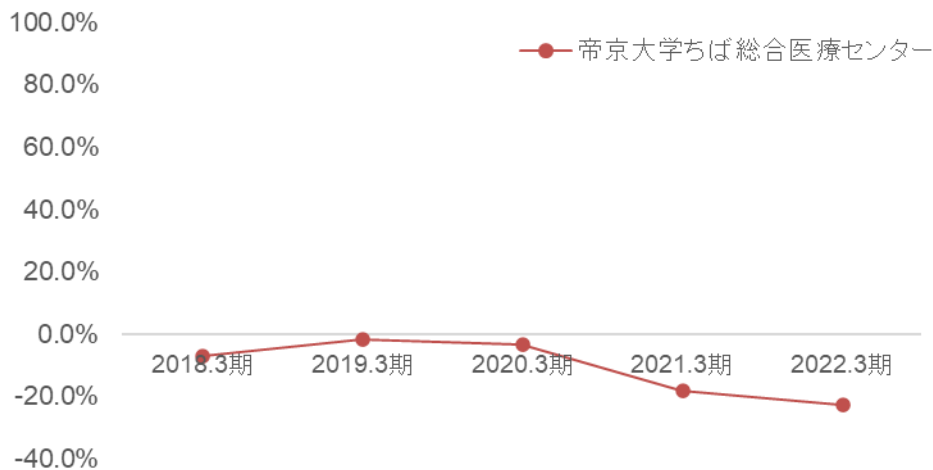
MDC件数推移(1病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 対象病院が独占状態であることが伺えます。
- 件数の増減率は減少傾向にあります。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

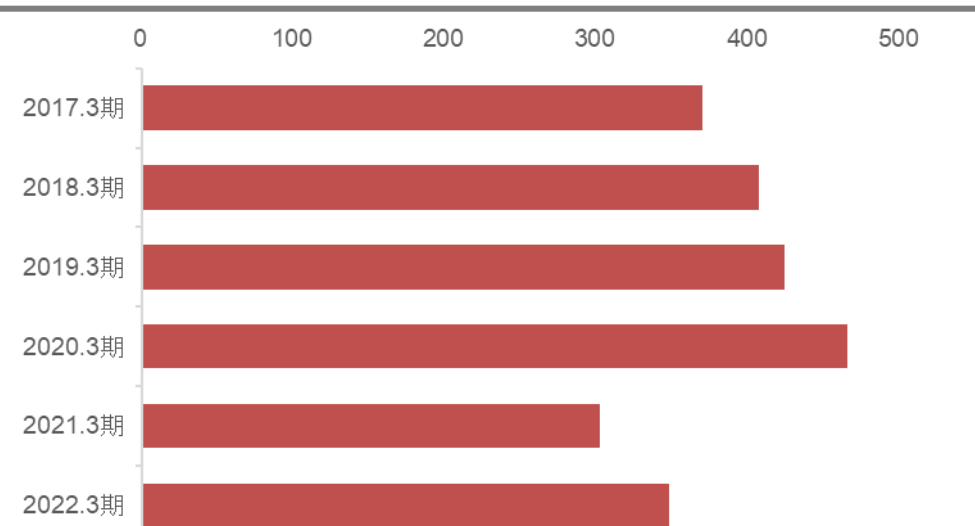
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外 24

(2) 近隣病院比較_MDC分類03 耳鼻咽喉科系疾患

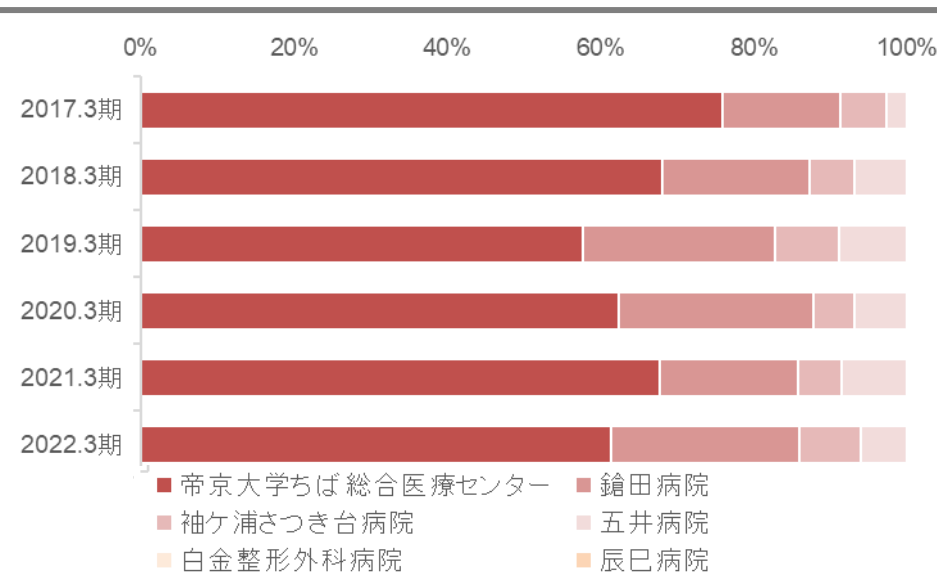
- 対象エリアに立地する4病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、対象病院と鎗田病院で8割弱のシェアを占めています。

※4病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院を指す。

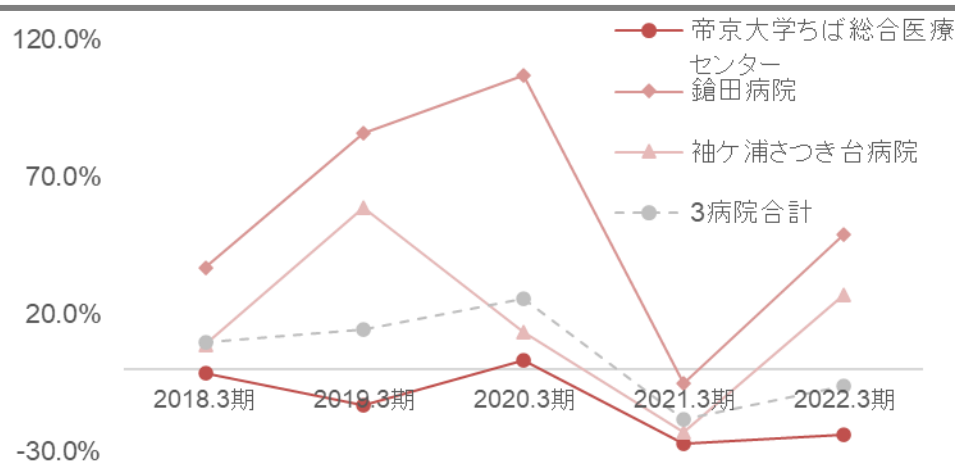
MDC件数推移(4病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 17.3期には対象病院が約7割半ばのシェアを占めていましたが、22.3期には6割程度まで減少しています。
- 22.3期の増減率は、鎗田病院と袖ヶ浦さつき台病院が大きく増加しています。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外

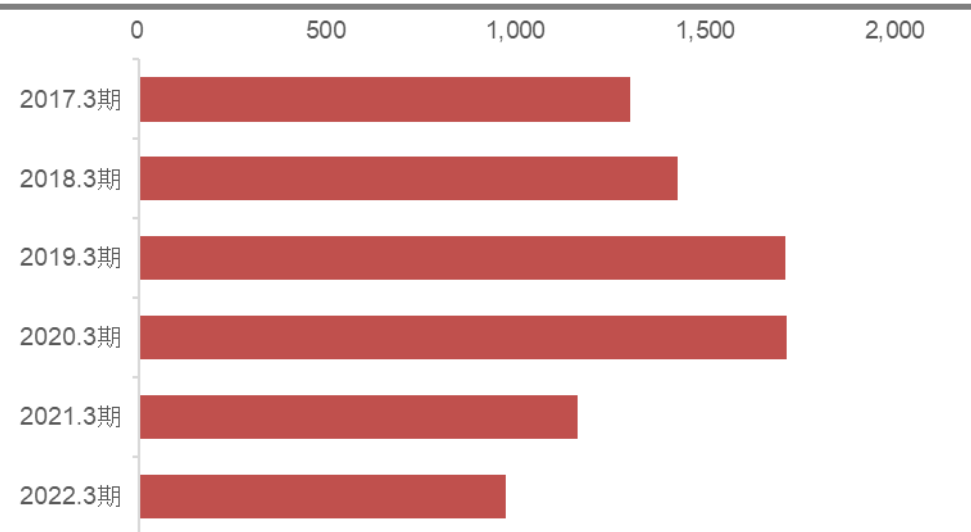
※五井病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類04 呼吸器系疾患

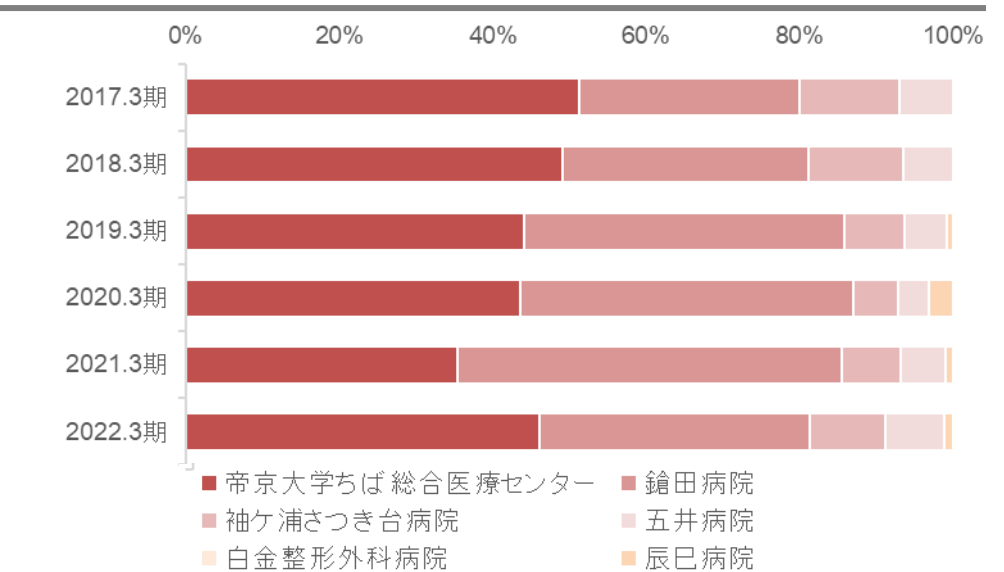
- 対象エリアに立地する5病院(※)の患者数は、20.3期以後減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、直近の22.3期に対象病院と鎗田病院が同等程度のシェアを占めています。

※5病院:対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、辰巳病院を指す。

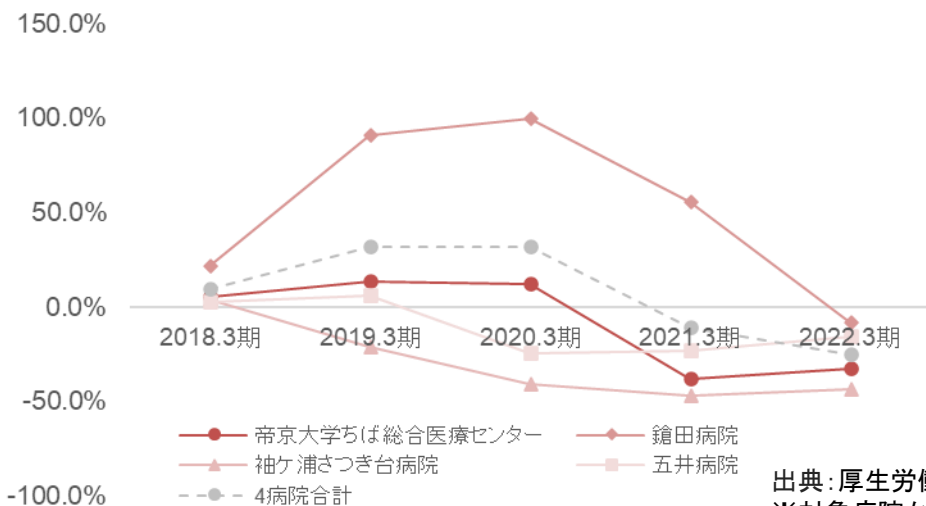
MDC件数推移(5病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



➤ 対象病院と鎗田病院で全体の8割程度のシェアを占めています。

出典:厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外

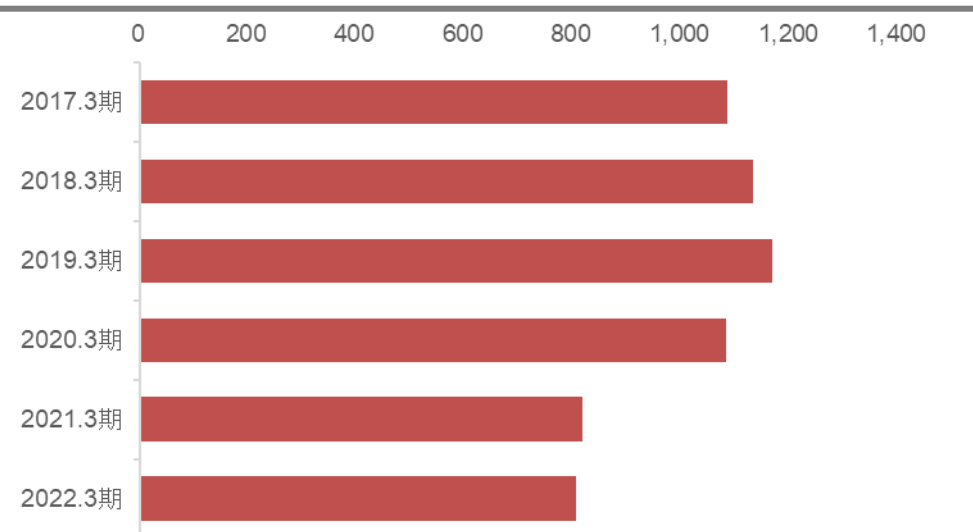
※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類05 循環器系疾患

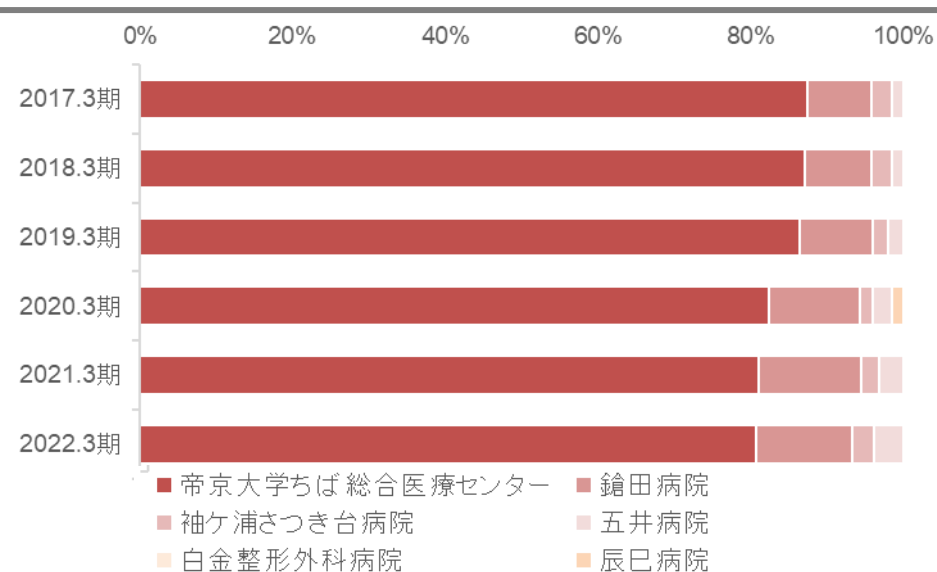
- 対象エリアに立地する5病院(※)の患者数は、19.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、対象病院が8割強のシェアを占めています。

※5病院：対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、辰巳病院を指す。

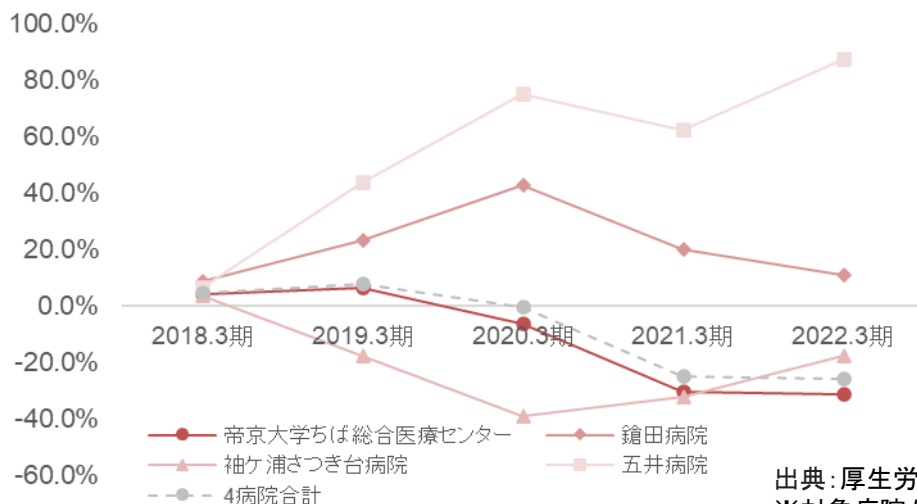
MDC件数推移(5病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 対象病院が8割のシェアを占めている一方で、増減率は減少傾向にあります。
- 22.3期の増減率は、鎗田病院と五井病院が増加傾向にあります。

出典：厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

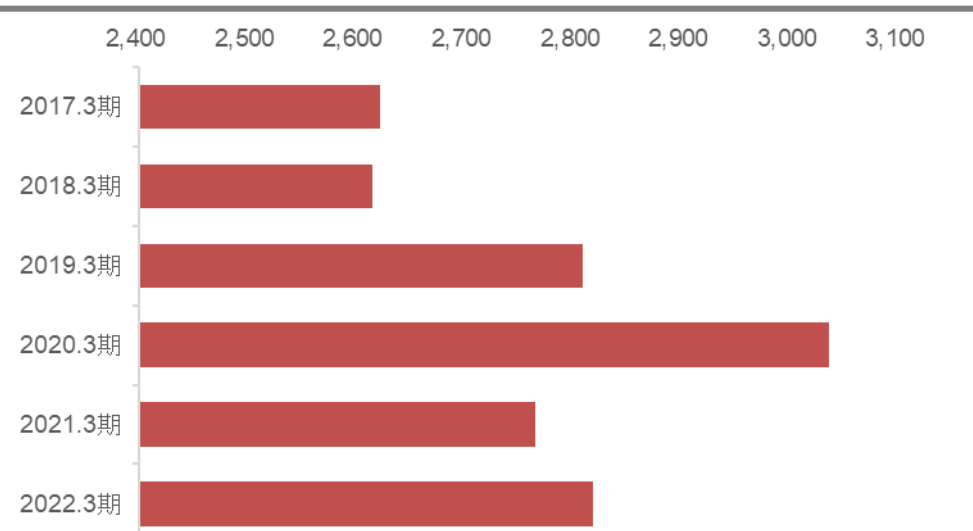
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外
 ※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類06 消化器系疾患

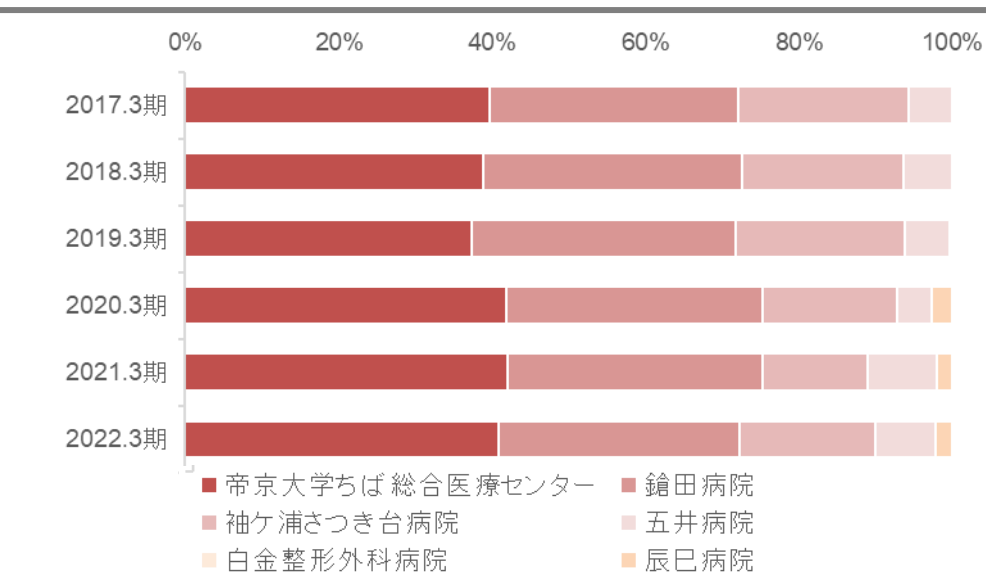
- 対象エリアに立地する5病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、直近の22.3期では対象病院と鎗田病院が同等程度のシェアを占めています。

※5病院:対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、辰巳病院を指す。

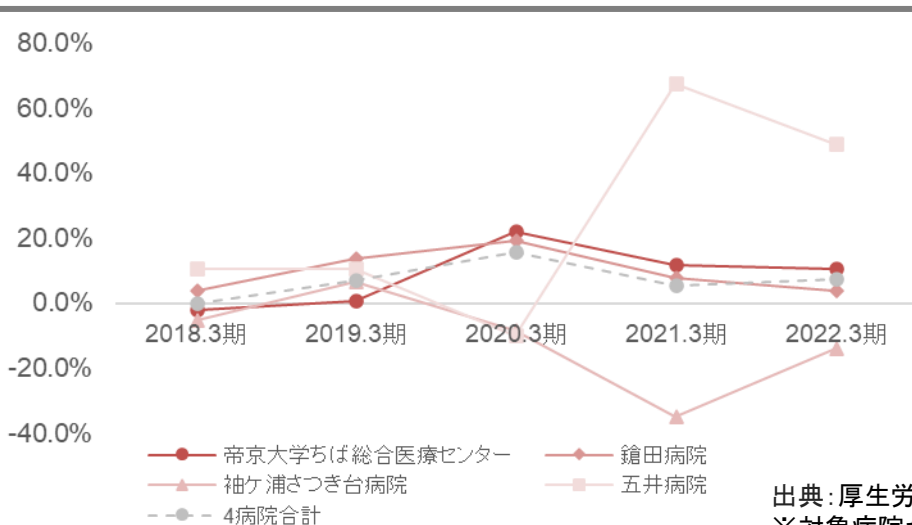
MDC件数推移(5病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 対象病院と鎗田病院で全体の7割程度のシェアを占めています。
- 対象病院の増減率は、20.3期以後は減少傾向にあります。

出典:厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

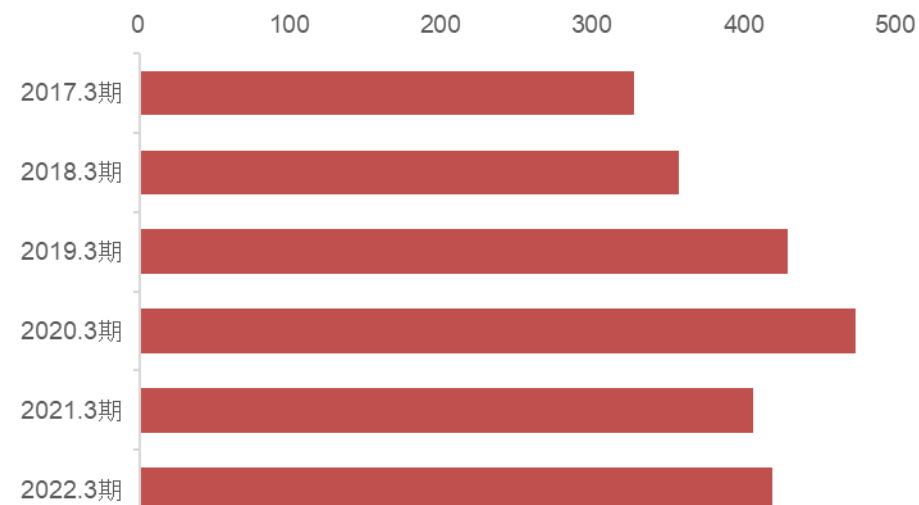
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外
 ※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類07 筋骨格系疾患

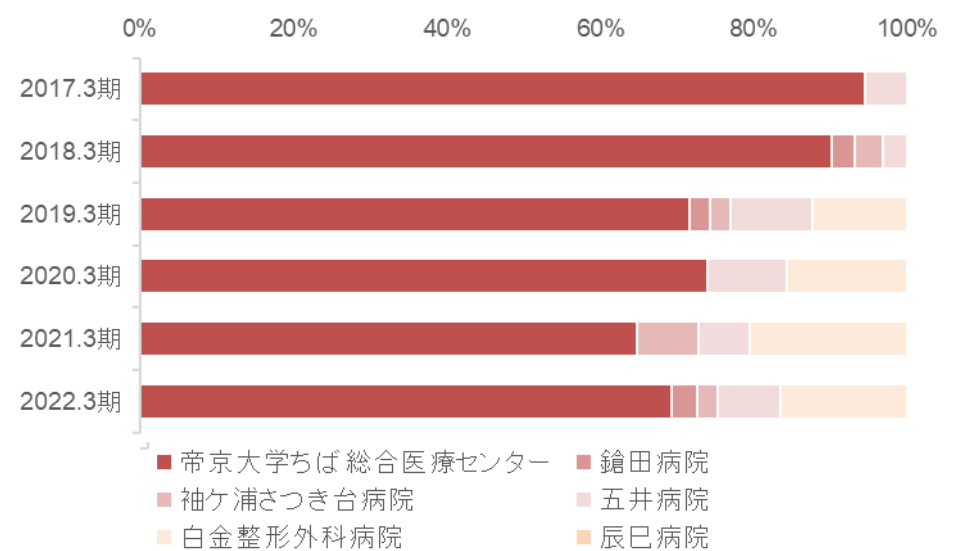
- 対象エリアに立地する5病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、対象病院が7~9割のシェアを占めています。

※5病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、辰巳病院を指す。

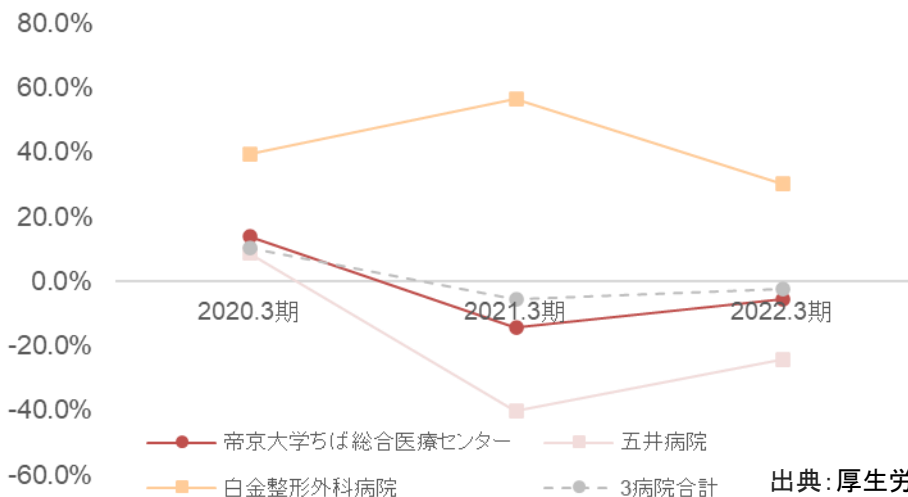
MDC件数推移(5病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(19.3期を起点とした場合)



➤ 対象病院が7~9割程度のシェアを占めています。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

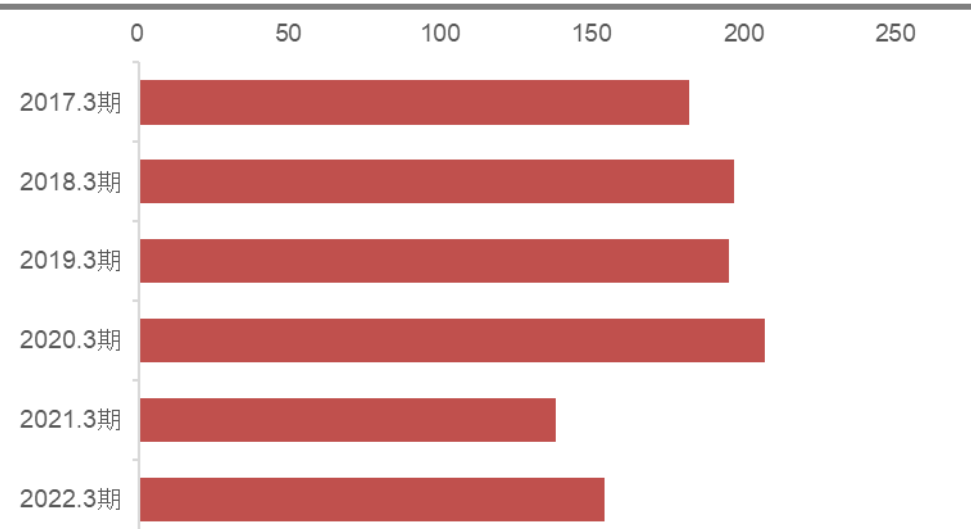
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外
 ※鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類08 皮膚・皮下組織系疾患

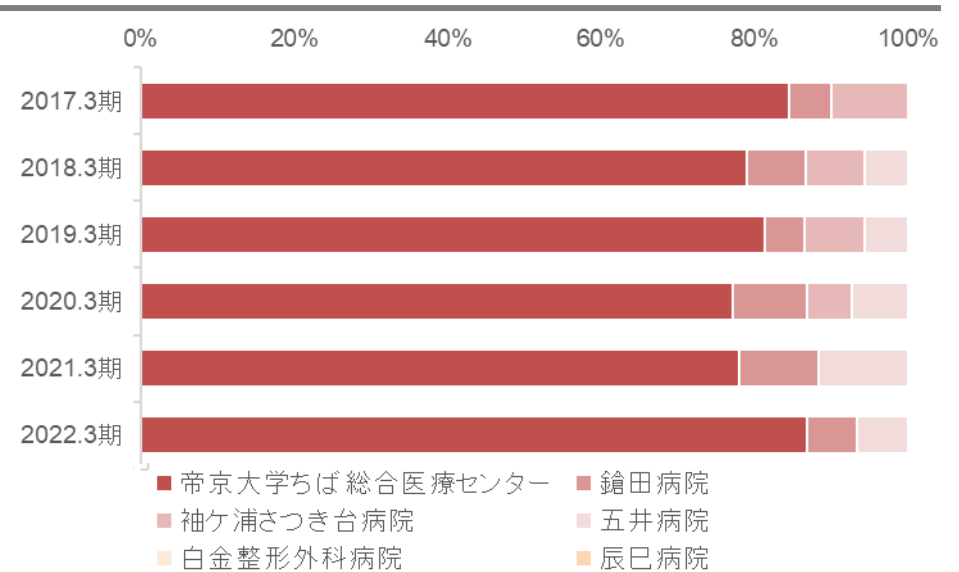
- 対象エリアに立地する4病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、対象病院が8割程度のシェアを占めています。

※4病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院を指す。

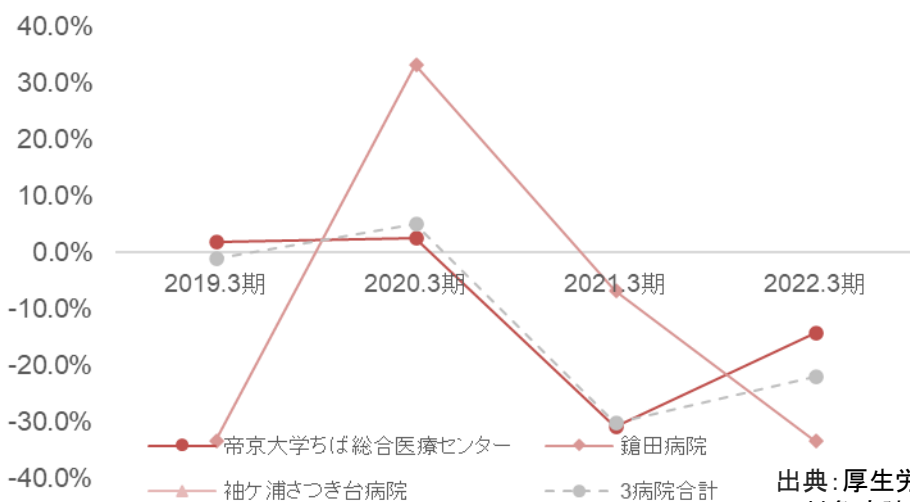
MDC件数推移(4病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(18.3期を起点とした場合)



➤ 対象病院が8割程度のシェアを占めています。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外

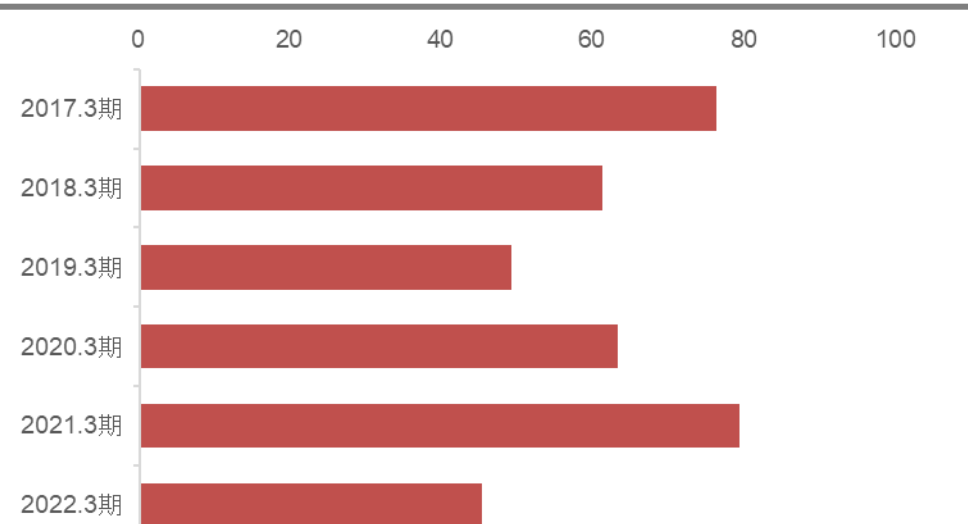
※五井病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類09 乳房系疾患

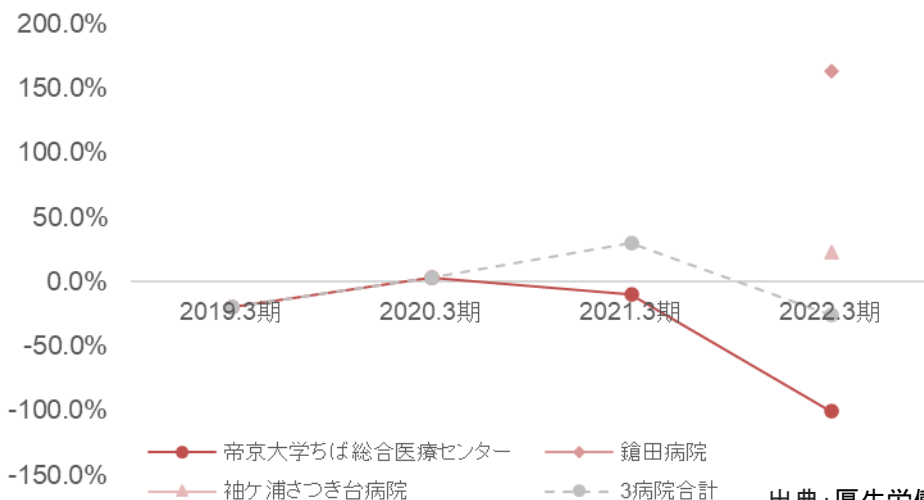
- 対象エリアに立地する3病院(※)の患者数は、21.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、17.3期から21.3期までは対象病院が独占状態でしたが、22.3期は鎗田病院が約6割、袖ヶ浦さつき台病院が約4割のシェアを占めています。

※3病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院を指す。

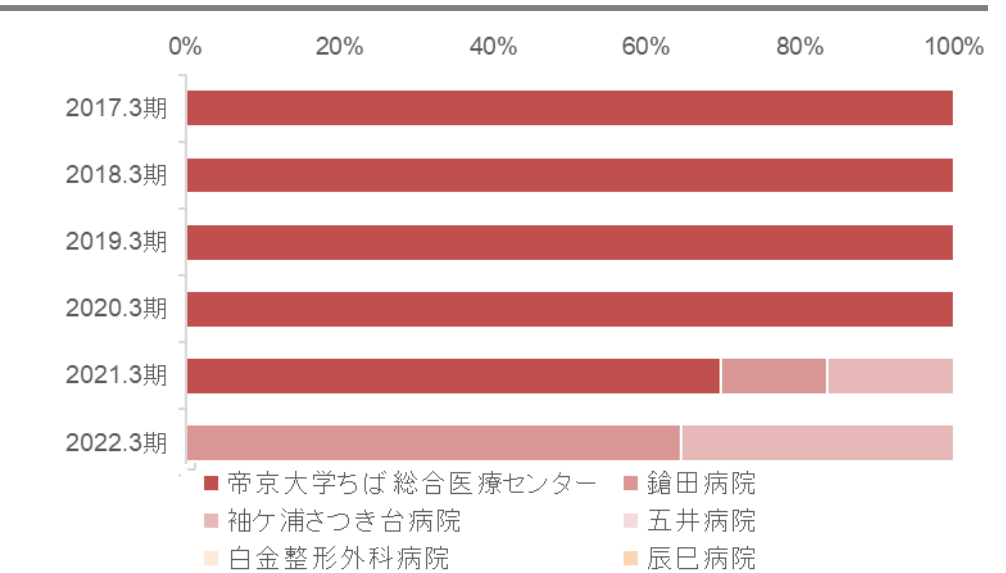
MDC件数推移(3病院合計)



医療機関別件数増減率(18.3期を起点とした場合)



MDC割合推移(医療機関別)



- 17.3期から21.3期まで対象病院が独占状態でしたが、22.3期には鎗田病院と袖ヶ浦さつき台病院がシェアを占めています。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

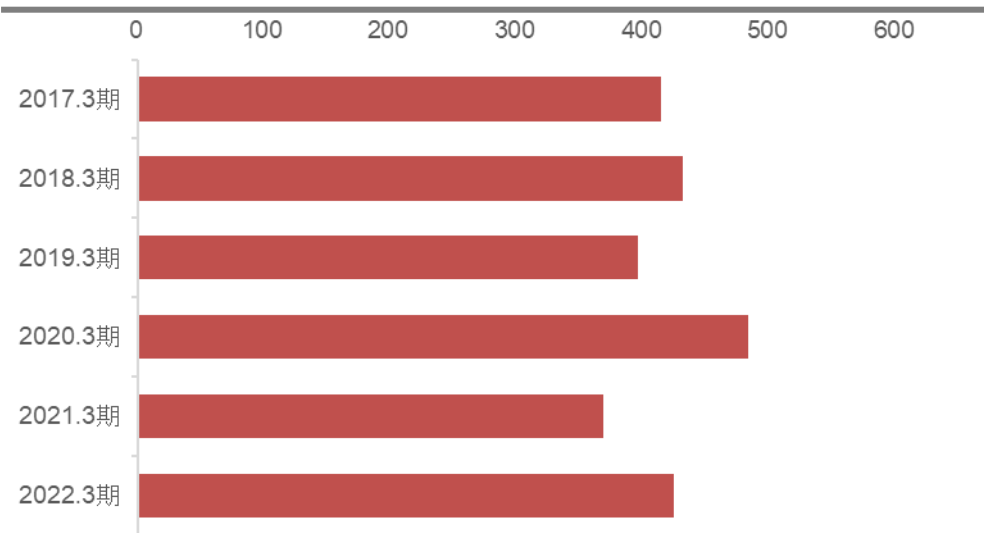
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外 31

(2) 近隣病院比較_MDC分類10 内分泌系疾患

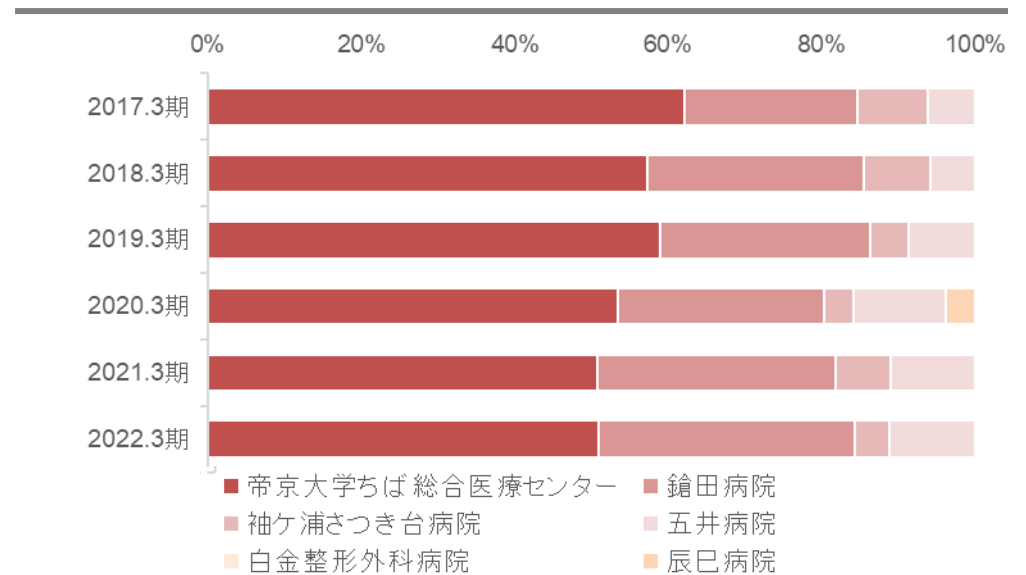
- 対象エリアに立地する4病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、17.3期以後は対象病院と鎗田病院で全体の8割のシェアを占めています。

※5病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、辰巳病院を指す。

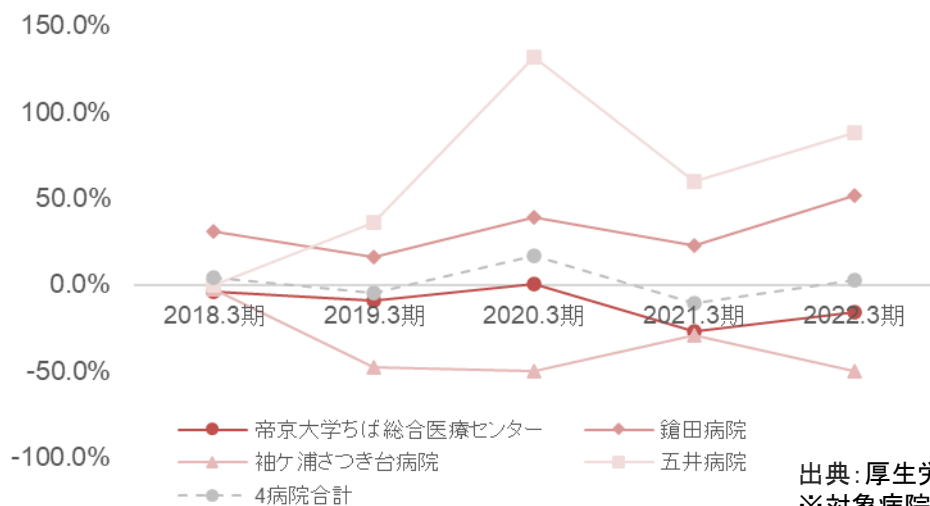
MDC件数推移(5病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 対象病院と鎗田病院で全体の8割のシェアを占めており、対象病院のシェアは減少傾向にある一方で、鎗田病院は増加傾向にあります。
- 対象病院の増減率は、18.3期以後横ばいとなっています。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

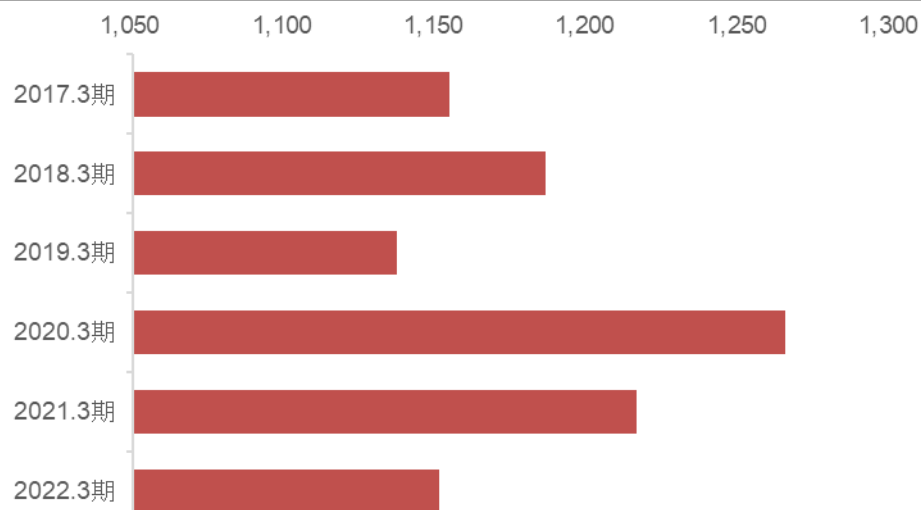
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外
 ※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類11 腎・尿路系疾患

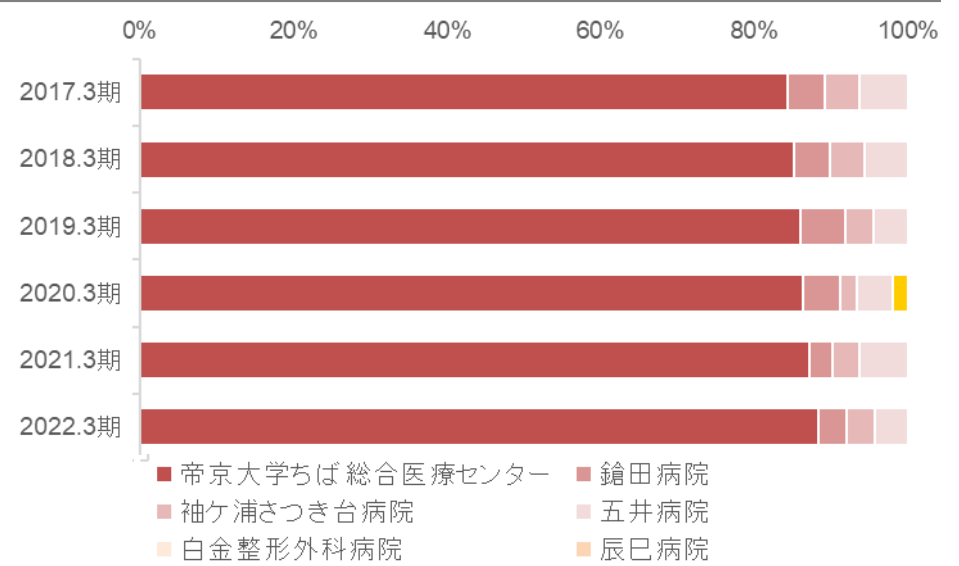
- 対象エリアに立地する4病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、対象病院が8割程度のシェアを占めています。

※4病院:対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院を指す。

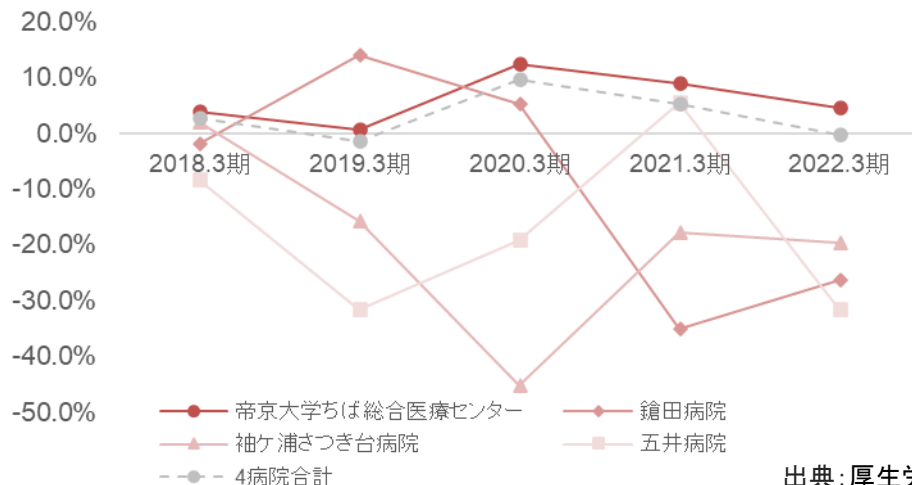
MDC件数推移(5病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 対象病院が8割強のシェアを占めています。
- 対象病院の増減率は、20.3期以後減少傾向にあります。

出典:厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

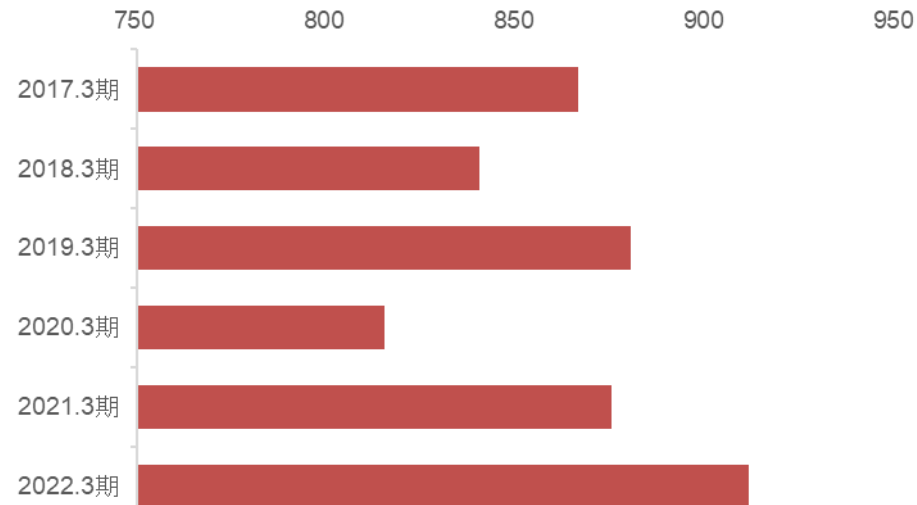
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外
 ※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類12 女性器生殖器系疾患

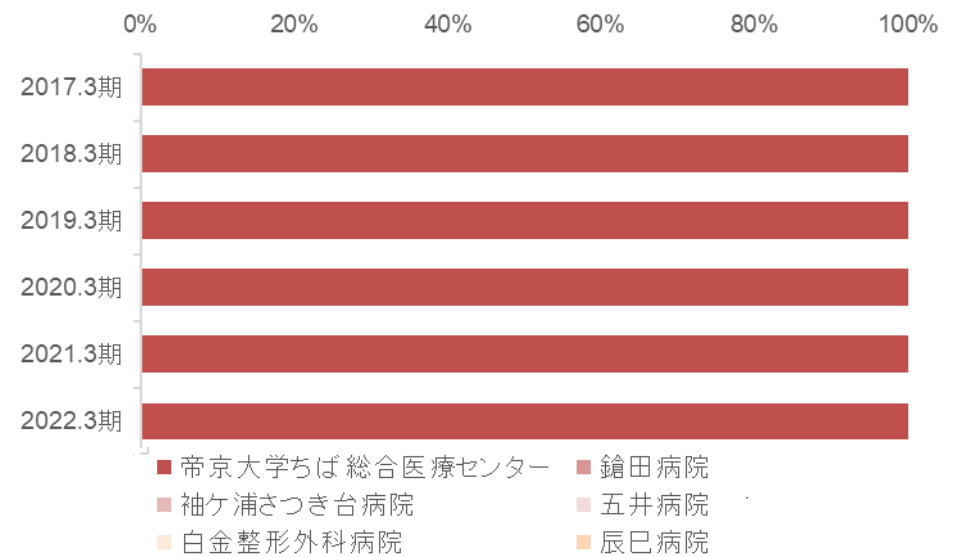
- 対象病院が独占状態であることが伺えます。
- 患者数は、20.3期から増加傾向にあります。

※1病院:対象病院を指す。

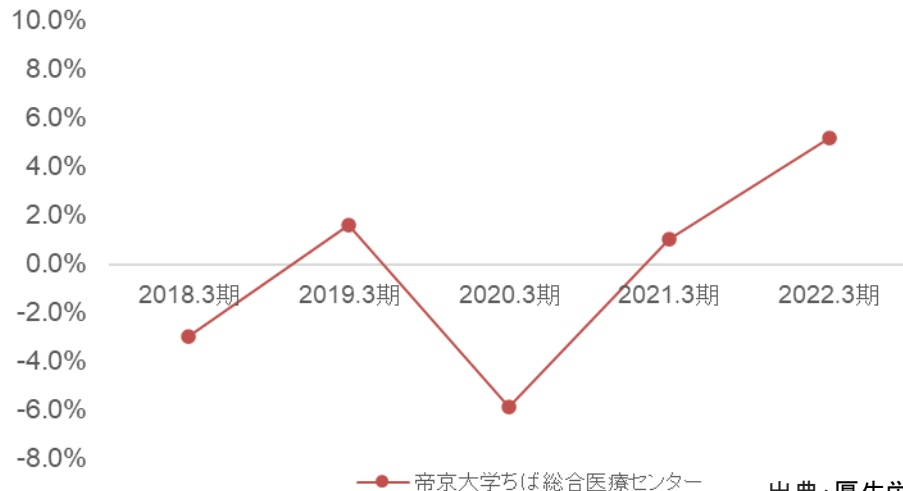
MDC件数推移(1病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 20.3期に減少したものの、21.3期から22.3期にかけて増加しています。
- 増減率は、17.3期比では5ポイントほど増加しています。

出典:厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

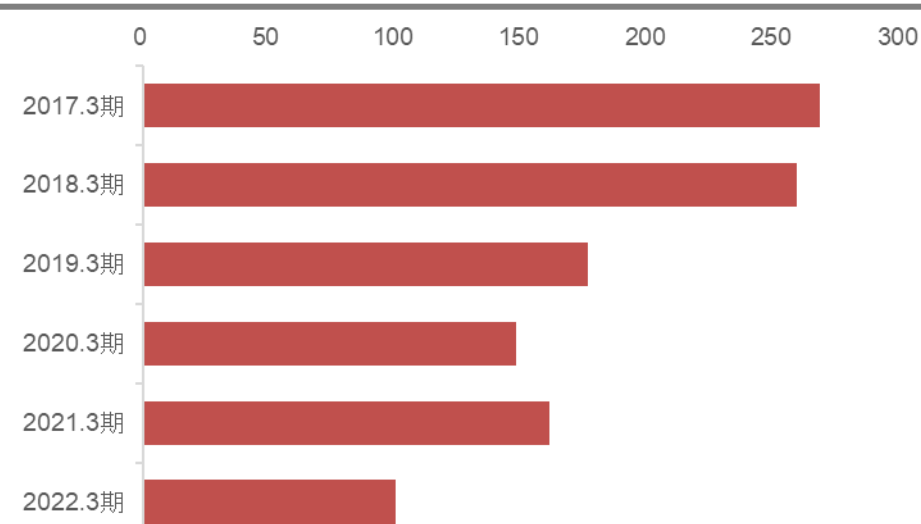
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外

(2) 近隣病院比較_MDC分類13 血液・造血器系疾患

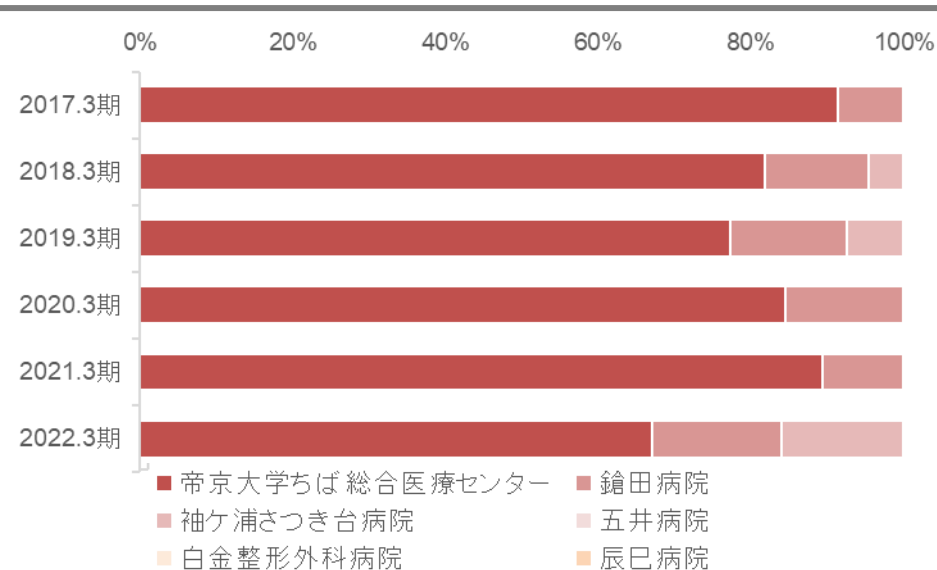
- 対象エリアに立地する4病院(※)の患者数は、17.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、17.3期から21.3期においては対象病院が約8～9割程度のシェアを占めています。

※4病院:対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院を指す。

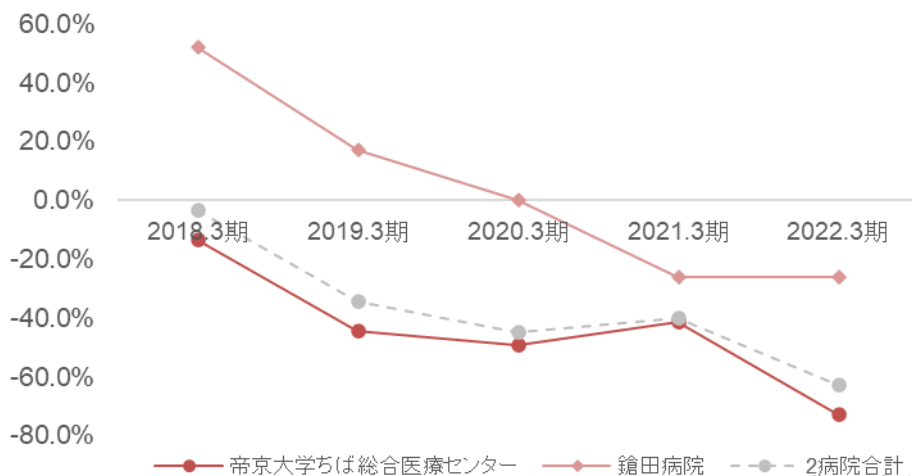
MDC件数推移(4病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 17.3期から21.3期においては対象病院が8～9割程度のシェアを占めています。
- 対象病院の増減率は、17.3期をピークに減少傾向にあります。

出典:厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外

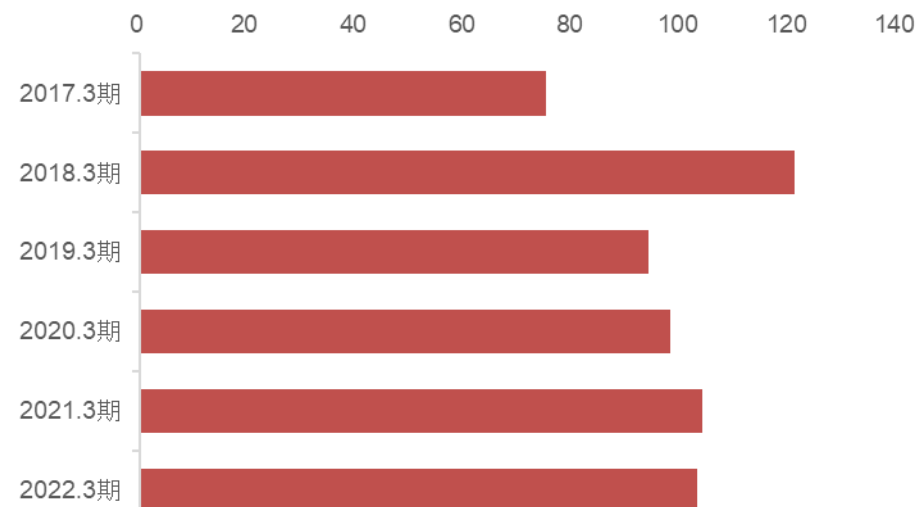
※袖ヶ浦さつき台病院、五井病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類14 新生児、先天性奇形系疾患

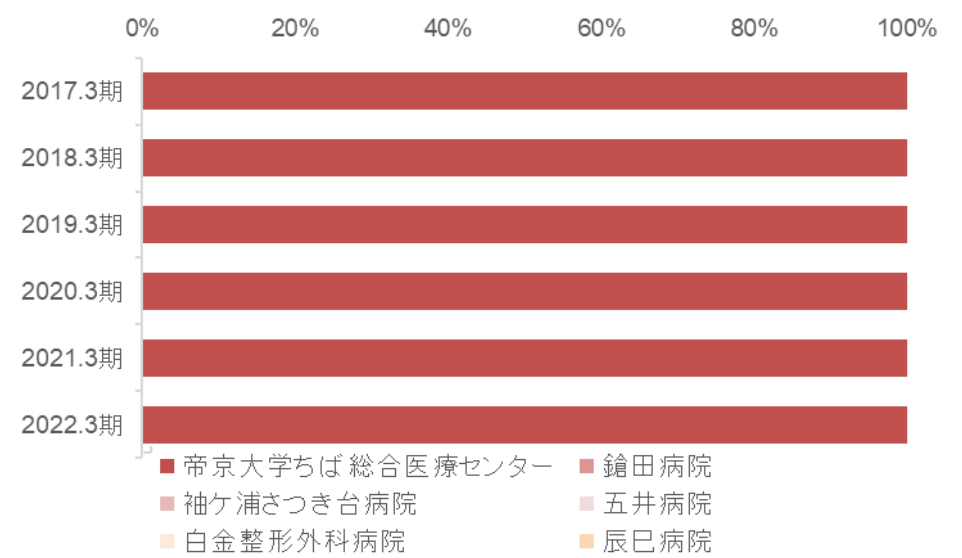
- 対象病院が独占状態であることが伺えます。

※1病院: 対象病院を指す。

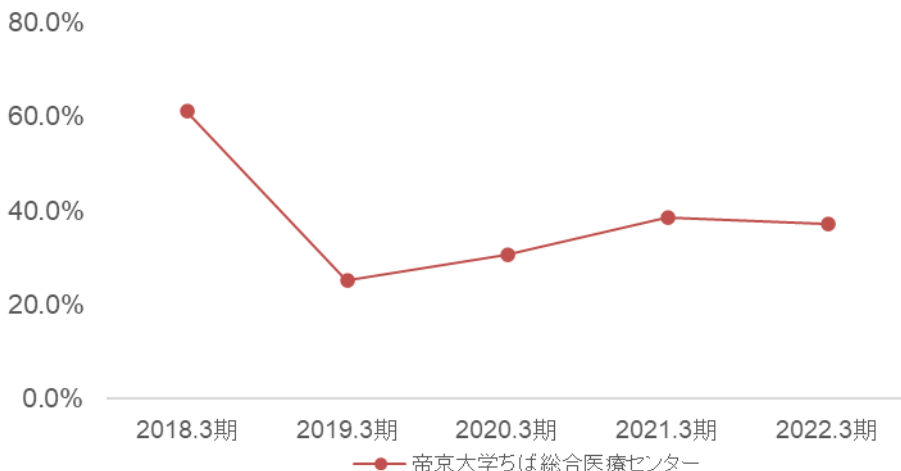
MDC件数推移(1病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



➤ 患者数は18.3期をピークに減少したものの、21.3期以後から回復傾向にあります。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

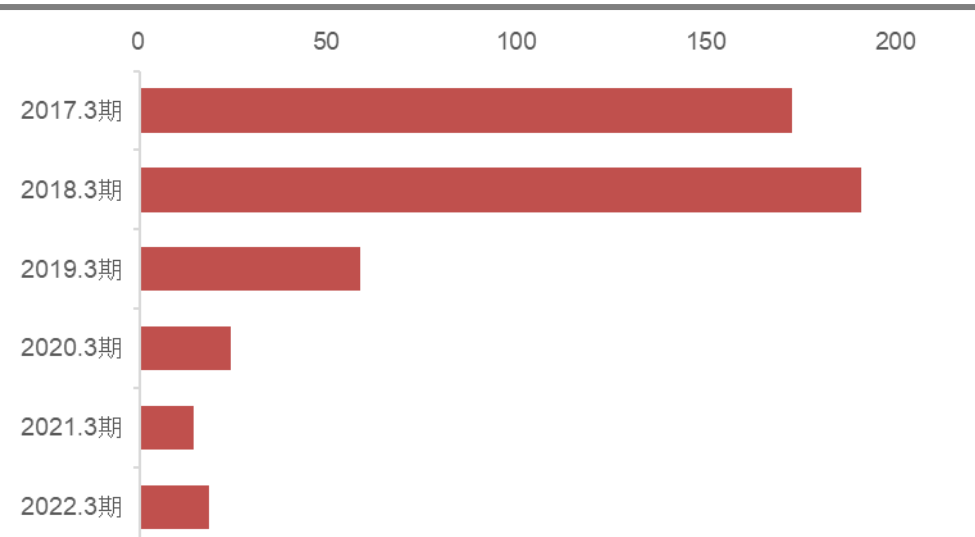
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外 36

(2) 近隣病院比較_MDC分類15 小児系疾患

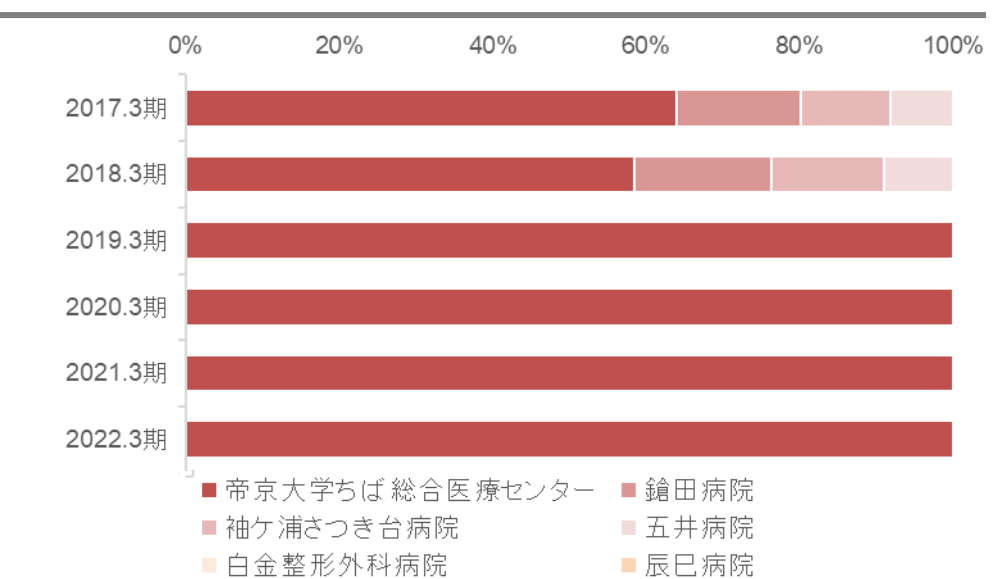
- 対象エリアに立地する4病院(※)の患者数は、18.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、19.3期以後は対象病院が独占状態です。

※4病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院を指す。

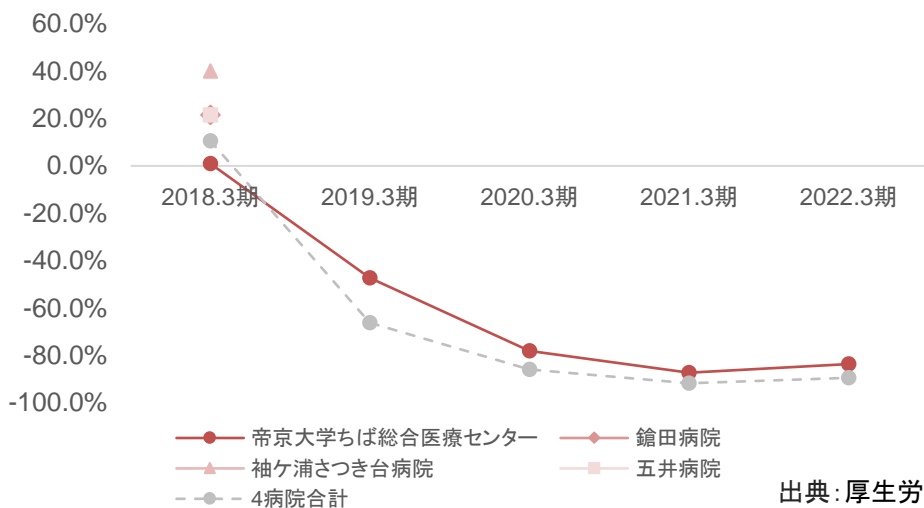
MDC件数推移(4病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



- 19.3期以後は対象病院が独占状態です。
- 対象病院の増減率は、19.3期以後は減少傾向にあります。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

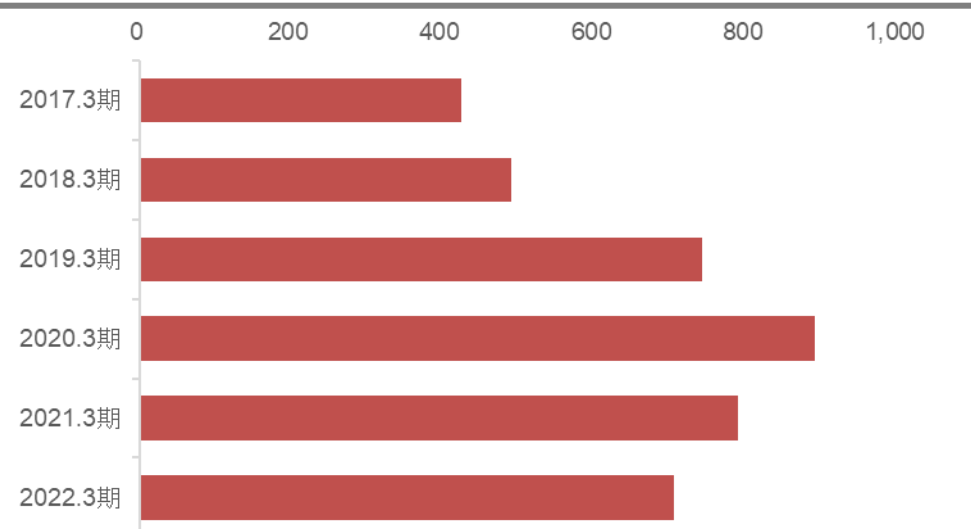
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外 37

(2) 近隣病院比較_MDC分類16 外傷・熱傷・中毒系疾患

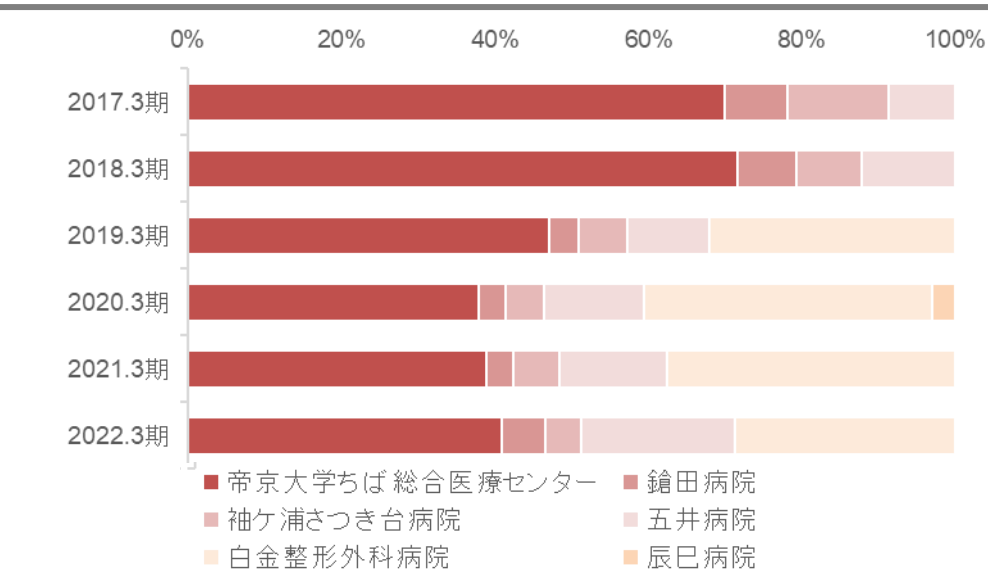
- 対象エリアに立地する5病院(※)の患者数は、20.3期をピークに減少しています。
- 医療機関別のシェアを見ると、19.3期から21.3期にかけて対象病院と白金整形外科病院が同等程度のシェア率です。

※5病院: 対象病院、鎗田病院、袖ヶ浦さつき台病院、五井病院、白金整形外科病院を指す。

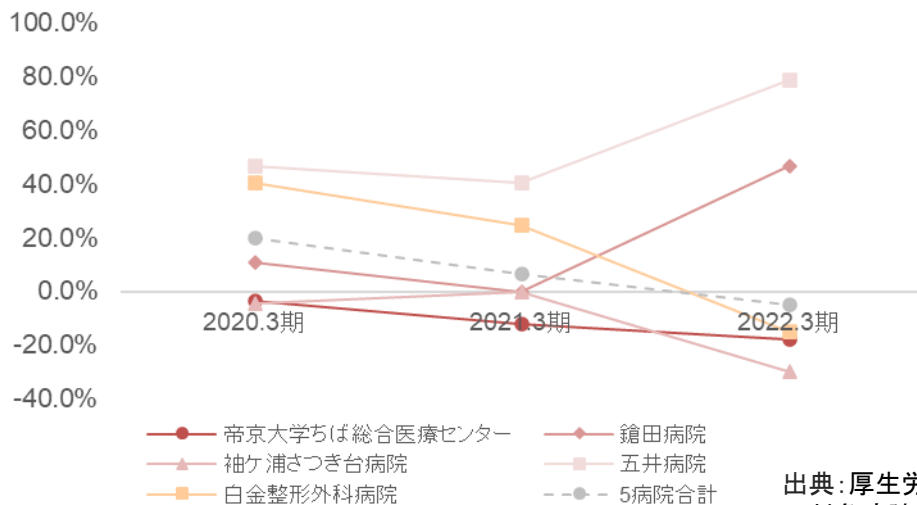
MDC件数推移(6病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(19.3期を起点とした場合)



- 19.3期から21.3期にかけて、対象病院と白金整形外科病院は同等程度のシェア率です。
- 鎗田病院と五井病院の増減率は、21.3期以後は増加傾向にあります。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

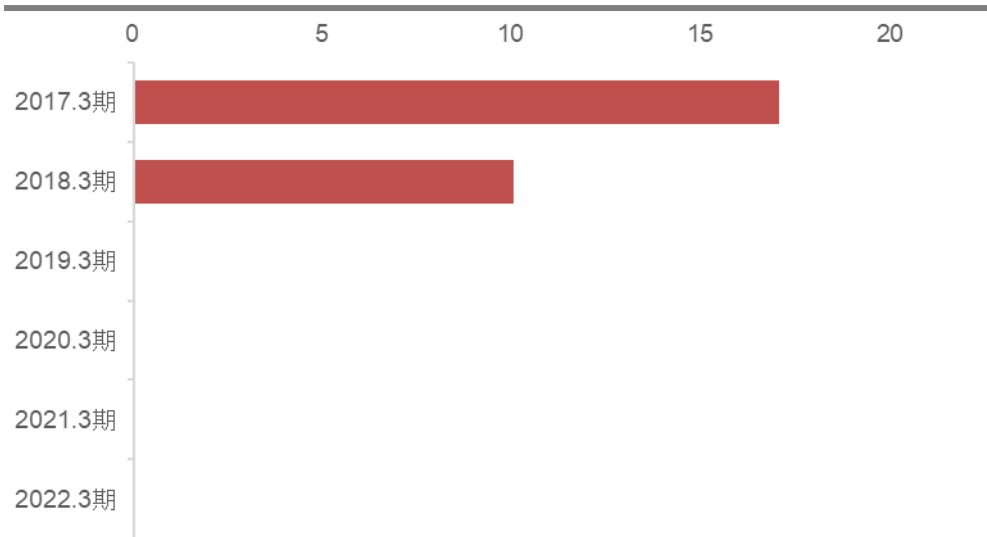
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外
 ※辰巳病院は件数が少ないため、医療機関別件数増減率のグラフからは削除

(2) 近隣病院比較_MDC分類17 精神系疾患

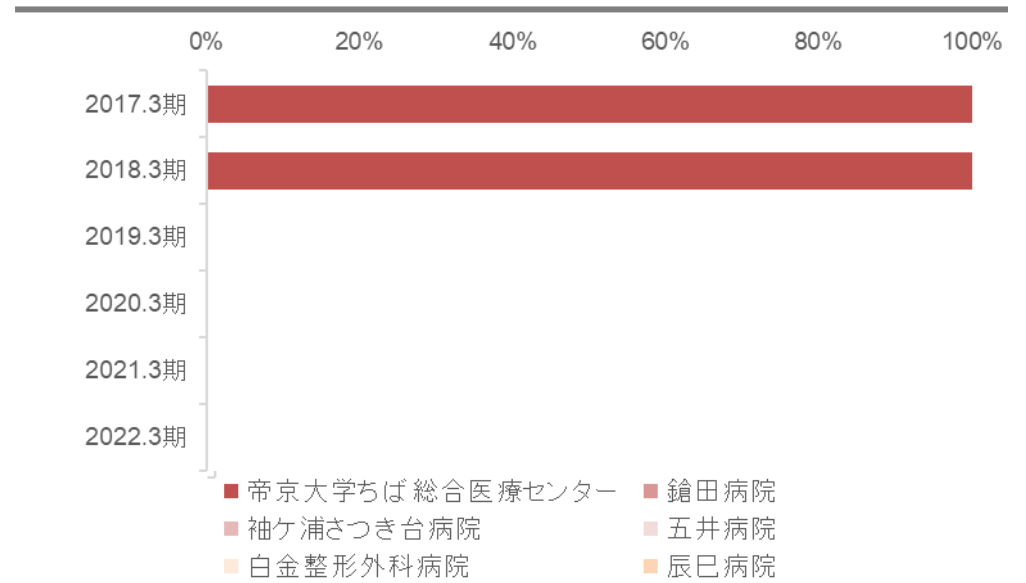
- 19.3期以後、入院の対応をしていないと考えられます。

※1病院: 対象病院を指す。

MDC件数推移(1病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



➤ 19.3期以後、入院患者の対応をしていないと考えられます。

出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

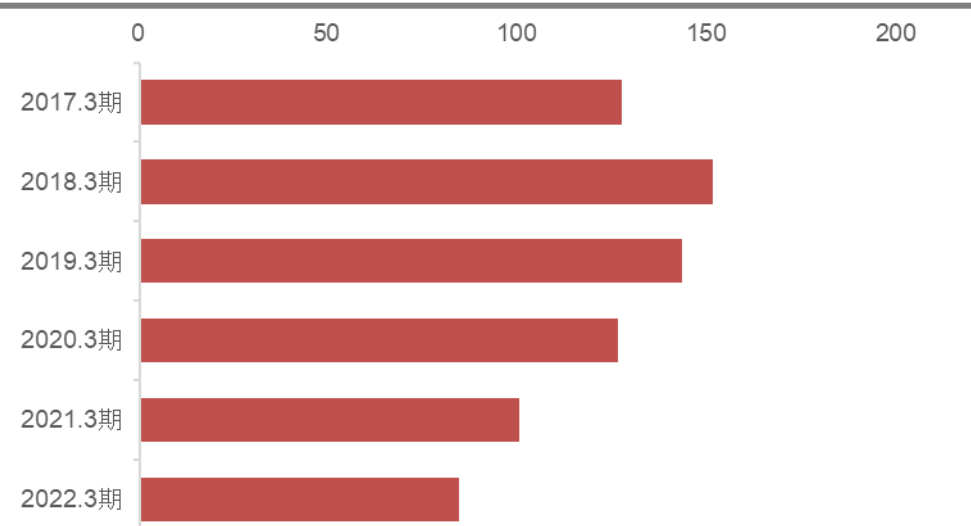
※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外

(2) 近隣病院比較_MDC分類18 その他の疾患

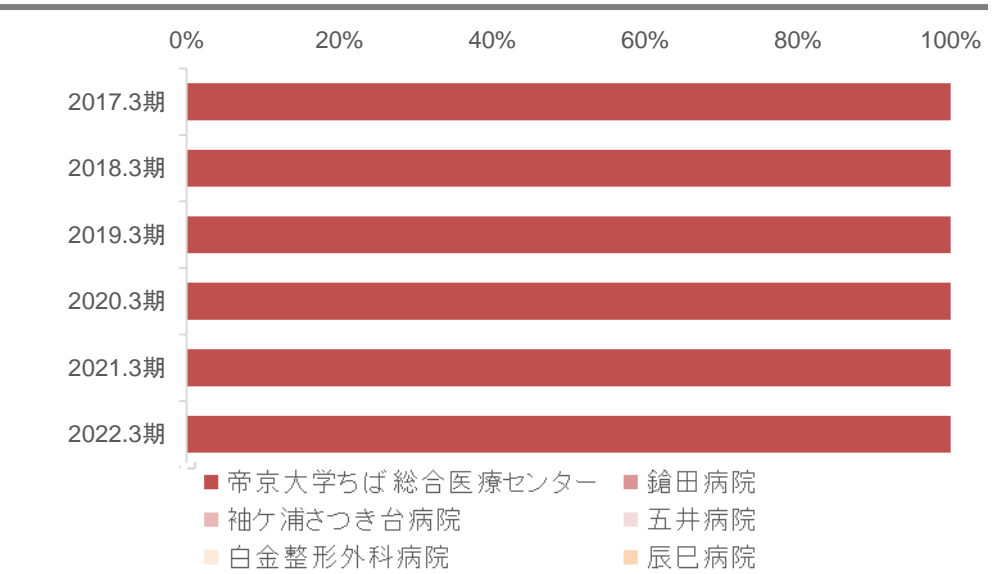
- 対象病院が独占状態であることがうかがえます。

※1病院: 対象病院を指す。

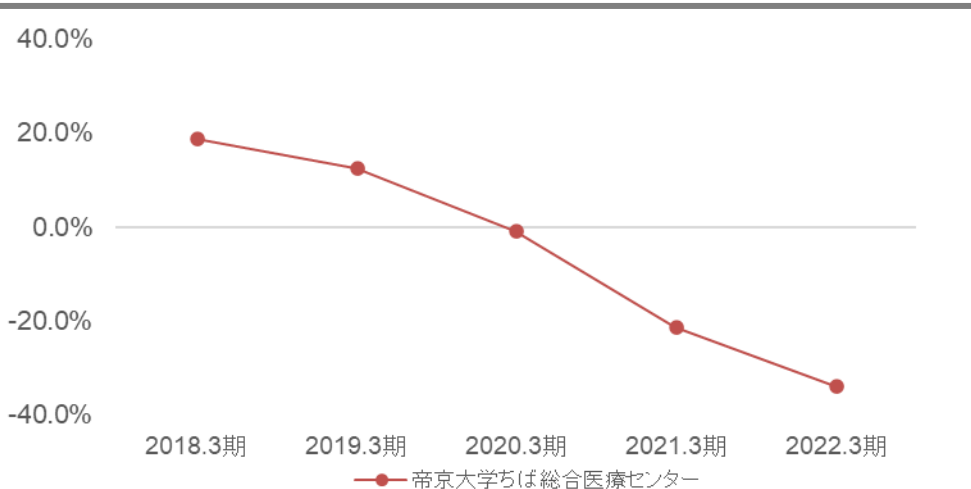
MDC件数推移(1病院合計)



MDC割合推移(医療機関別)



医療機関別件数増減率(17.3期を起点とした場合)



➤ 患者数は、18.3期をピークに減少傾向にあります。

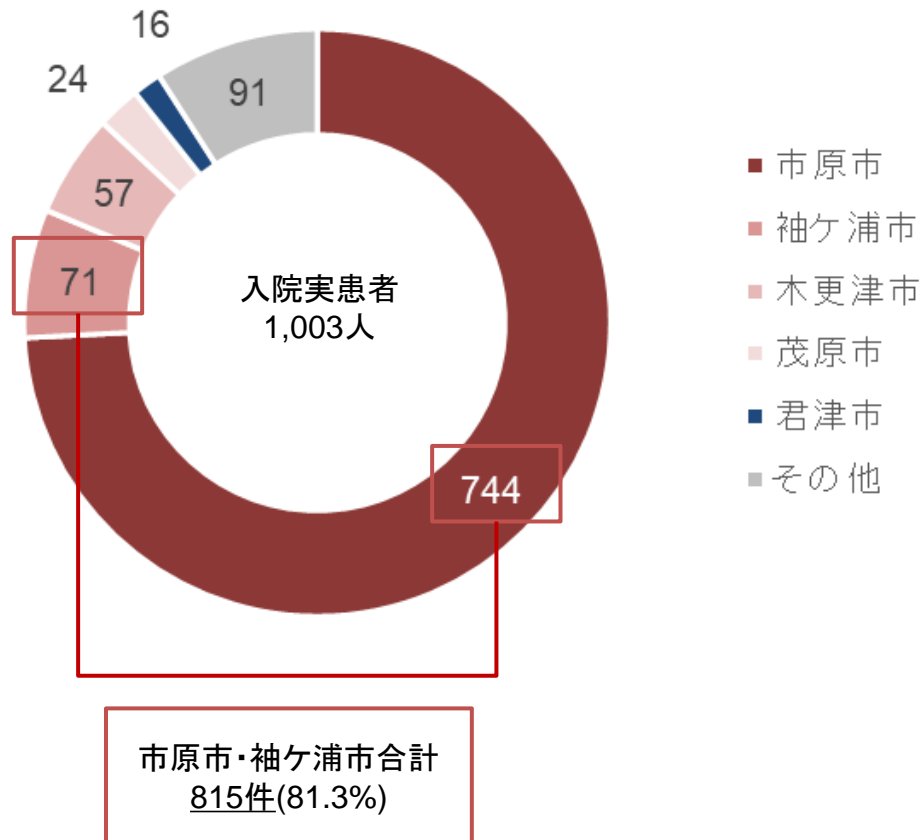
出典: 厚生労働省資料令和3年度「退院患者調査」より作成

※対象病院から半径10km圏内にある、姉崎病院、リハビリテーションさらしなはDPC対象病院ではないため除外 40

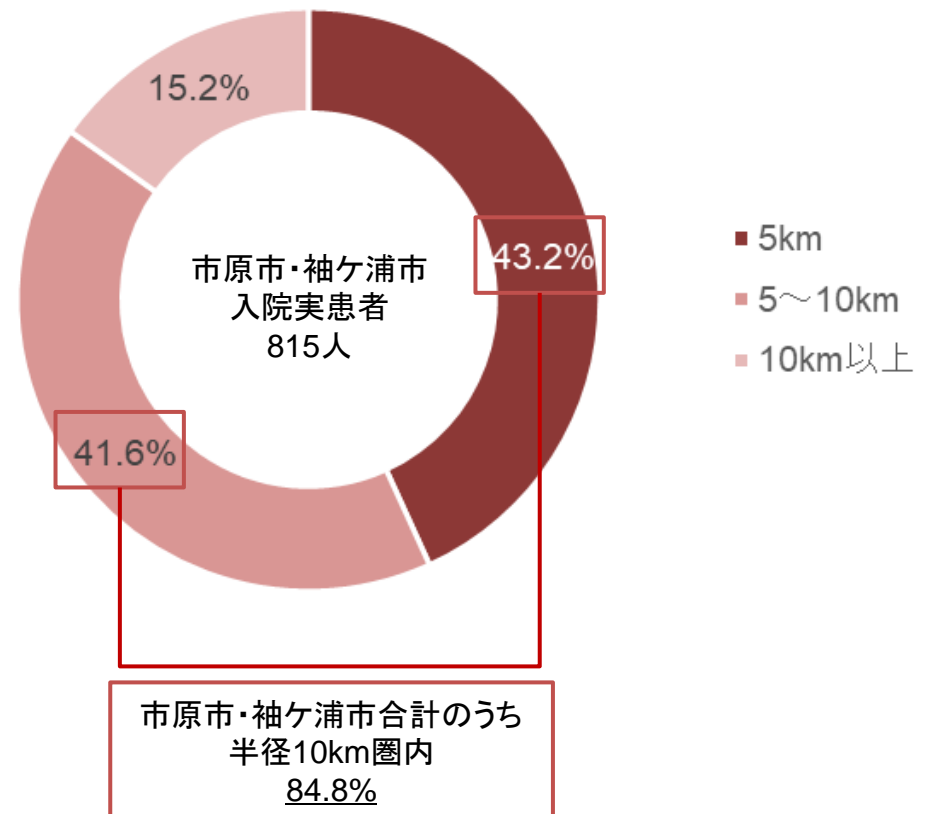
(3) 対象病院地区別・距離別受入実患者数(入院・2019年)

- 入院実患者1,003人に対して、744人が市原市からの入院患者です。対象病院のある市原市西部と隣接する袖ヶ浦市も加えると、815件(81.3%)を占めます。
- 半径10km圏内の入院件数は84.8%を占め、近隣からの入院が多くなっています。

地区別入院件数(19年12月実績)



距離別入院件数割合(19年12月実績)



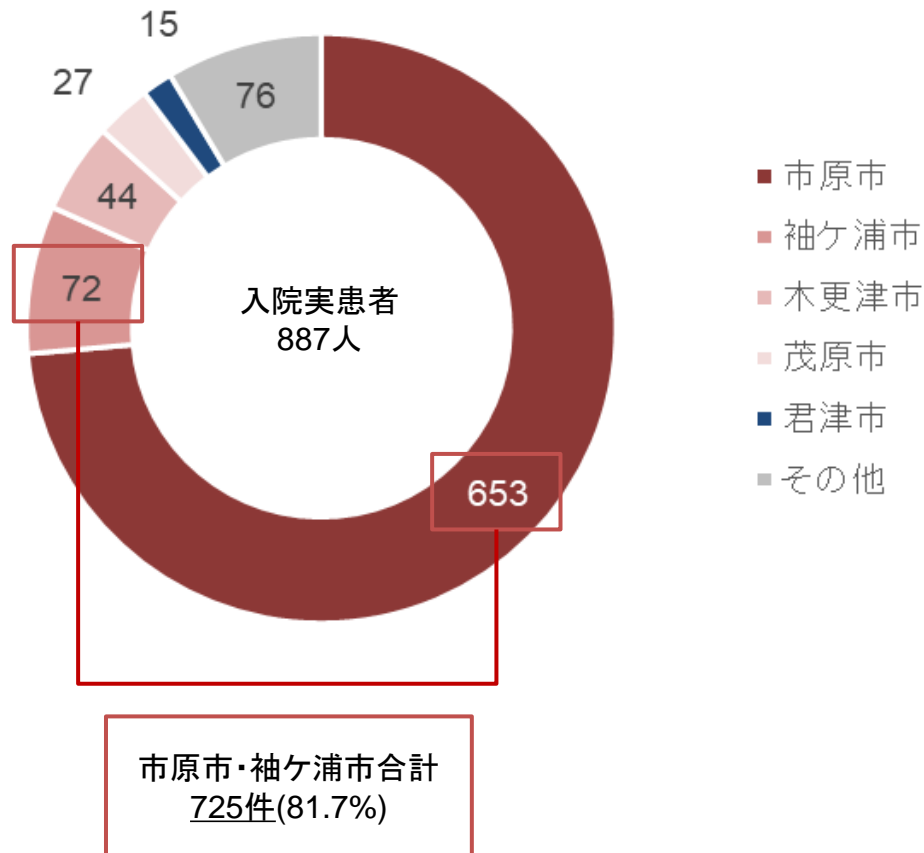
※新型コロナウイルスの影響により、患者動向が変化したことも鑑み、新型コロナウイルス流行前後の同月のデータを基に分析

出典：対象病院提供資料より作成

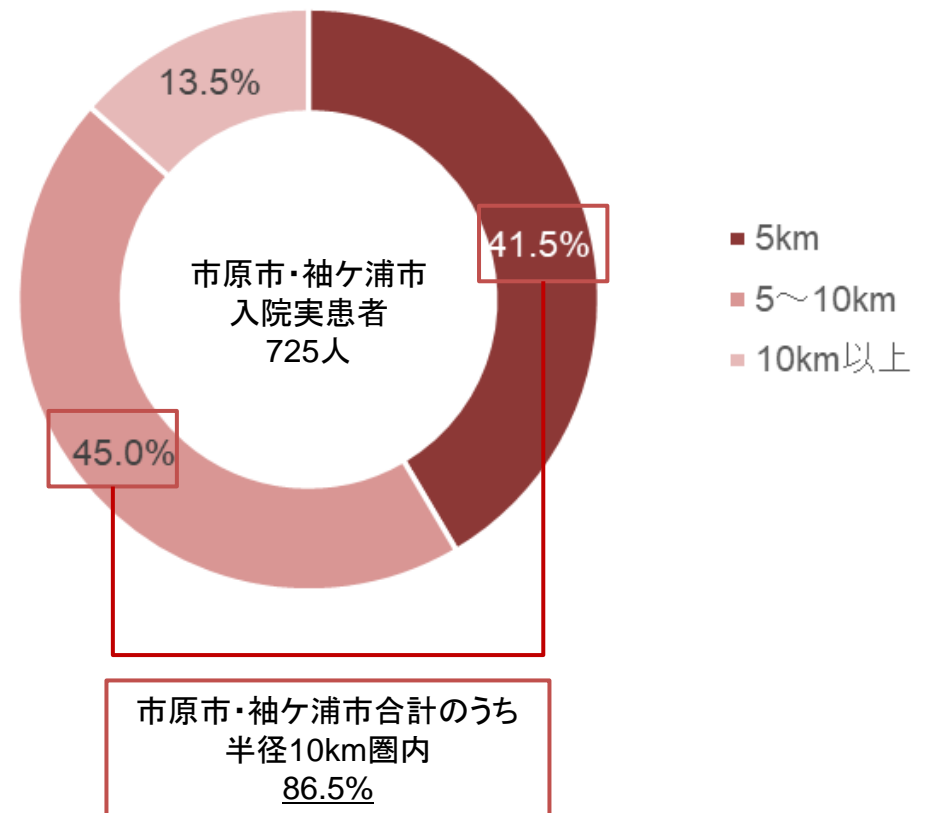
(3) 対象病院地区別・距離別受入実患者数(入院・2023年)

- 入院実患者887人に対して、653人が市原市からの入院患者です。対象病院のある市原市西部と隣接する袖ヶ浦市も加えると、725件(81.7%)を占めます。
- 半径10km圏内の入院件数は86.5%を占め、近隣からの入院が多くなっています。

地区別入院件数(23年12月実績)



距離別入院件数割合(23年12月実績)



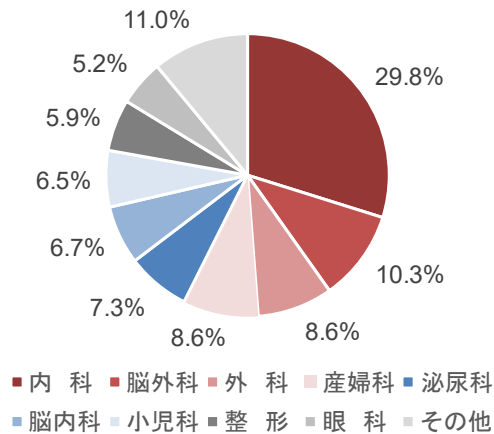
※新型コロナウイルスの影響により、患者動向が変化したことも鑑み、新型コロナウイルス流行前後の同月のデータを基に分析

出典：対象病院提供資料より作成

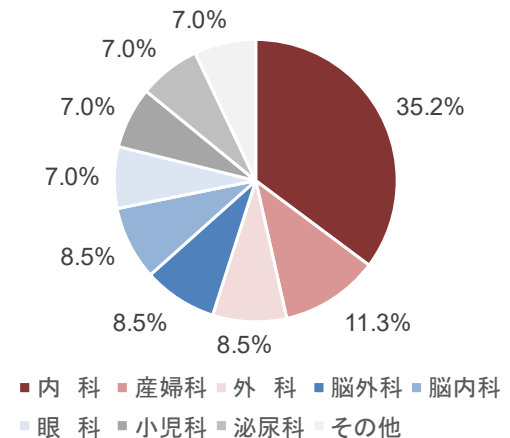
【参考】対象病院地区別・診療科別患者割合(入院)①

- 対象病院の内科部門は、両市の2019年及び2023年で共に高い比率を占めており、主力診療科であると考えられます。
- その他の診療科について、地区別、年別に診療科別患者率をみても、上位を占める診療科に差異はありません。

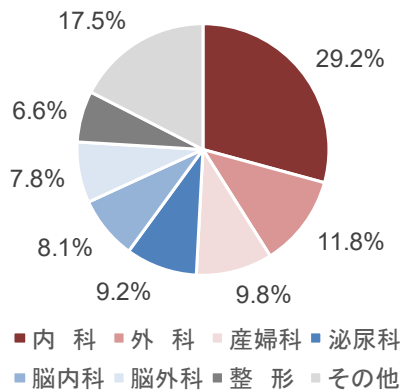
市原市診療科別患者割合(2019年12月実績)



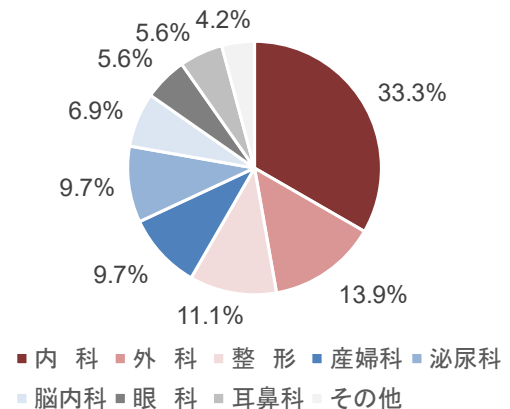
袖ヶ浦市診療科別患者割合(2019年12月実績)



市原市診療科別患者割合(2023年12月実績)



袖ヶ浦市診療科別患者割合(2023年12月実績)

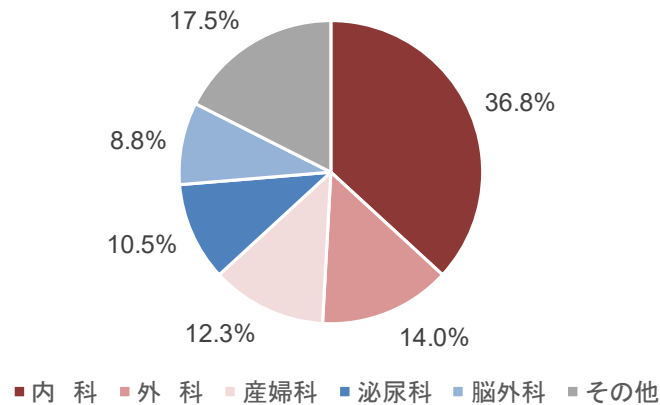


※各年、各市のデータにおいて5%未満の診療科をその他とした
出典:対象病院提供資料より作成

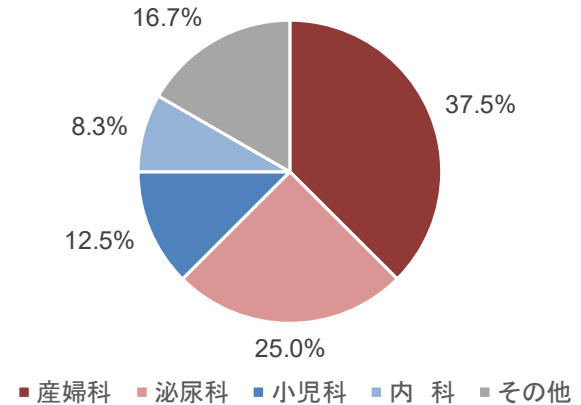
【参考】対象病院地区別・診療科別患者割合(入院)②

- 木更津市からの患者について、市原市、袖ヶ浦市と同様、内科、外科、産婦人科が主な診療科です。
- 茂原市からの患者は、他市と異なり、産婦人科、泌尿器科が主要な診療科です。

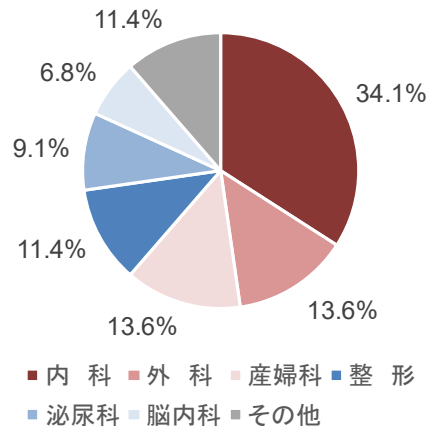
木更津市診療科別患者割合(2019年12月実績)



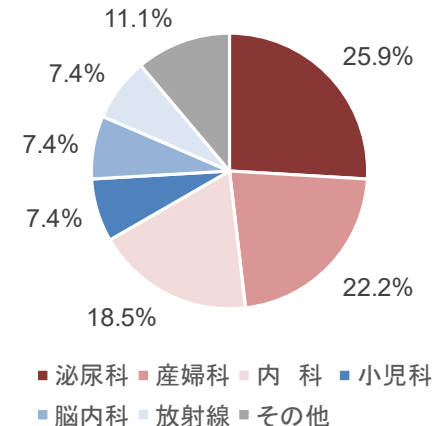
茂原市診療科別患者割合(2019年12月実績)



木更津市診療科別患者割合(2023年12月実績)



茂原市診療科別患者割合(2023年12月実績)



※各年、各市のデータにおいて5%未満の診療科をその他とした

出典:対象病院提供資料より作成

(4) 半径10km圏内の将来推計患者数(1日あたり入院患者数)

単位:名

- 対象病院から半径10km圏内において、2025年時点で1,544名いる患者数は、2035年にかけて1,638名まで増加します。
- 2035年をピークに、以降は人口減少に伴い将来推計患者数も減少傾向となる見込みです。

MDC コード	MDC 分類名称	将来推計患者数							増減					
		2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2025	2030	2035	2040	2045	2050
01	神経系疾患	331.9	364.3	390.7	401.5	384.6	368.3	362.8	32.4	26.4	10.8	-16.9	-16.3	-5.5
02	眼科系疾患	22.9	23.5	23.3	22.8	21.8	21.3	20.8	0.6	-0.2	-0.5	-1.0	-0.5	-0.5
03	耳鼻咽喉科系疾患	6.7	6.9	6.9	6.8	6.4	6.3	4.2	0.2	0.0	-0.1	-0.4	-0.1	-2.1
04	呼吸器系疾患	103.4	116.5	128	135	130.6	124.6	123.1	13.1	11.5	7.0	-4.4	-6.0	-1.5
05	循環器系疾患	74.4	84.8	94.2	100.1	97.6	92.7	91.1	10.4	9.4	5.9	-2.5	-4.9	-1.6
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	129.5	137.3	142.7	141.9	137.7	133.5	130.7	7.8	5.4	-0.8	-4.2	-4.2	-2.8
07	筋骨格系疾患	88.2	94.2	99.2	97.7	94.4	91.3	89.4	6.0	5.0	-1.5	-3.3	-3.1	-1.9
08	皮膚・皮下組織の疾患	15	16.9	18.2	18.5	18.2	17.6	17.1	1.9	1.3	0.3	-0.3	-0.6	-0.5
09	乳房の疾患	8.2	8.1	6.9	6.8	6.4	6	5.7	-0.1	-1.2	-0.1	-0.4	-0.4	-0.3
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	33.2	36.7	39.5	41.2	39.4	37.7	37	3.5	2.8	1.7	-1.8	-1.7	-0.7
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	68.7	74	79	79.7	77.8	75.4	74	5.3	5.0	0.7	-1.9	-2.4	-1.4
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	33.8	30.9	29.5	27.8	26.1	24.2	22.6	-2.9	-1.4	-1.7	-1.7	-1.9	-1.6
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	24.8	25.4	25.7	26.5	24.3	23.5	22.8	0.6	0.3	0.8	-2.2	-0.8	-0.7
14	新生児疾患、先天性奇形	3.3	3	3	2.8	2.7	2.4	1.2	-0.3	0.0	-0.2	-0.1	-0.3	-1.2
15	小児疾患	1.2	1.1	1.1	1	0	0	0	-0.1	0.0	-0.1	-1.0	0.0	0.0
16	外傷・熱傷・中毒	144.7	161	177.2	181.5	176.8	168	164.1	16.3	16.2	4.3	-4.7	-8.8	-3.9
17	精神疾患	316.9	310.9	303	295.9	280.5	267.5	253.1	-6.0	-7.9	-7.1	-15.4	-13.0	-14.4
18	その他の疾患	46.1	48.6	51.3	51.4	50	47.8	46.4	2.5	2.7	0.1	-1.4	-2.2	-1.4
	合計	1452.9	1544.1	1619.4	1638.9	1575.3	1508.1	1466.1	91.2	75.3	19.5	-63.6	-67.2	-42.0

※将来推計患者数は、エリア内の将来人口推計×各MDCコードの受療率で計算

なお、エリア内の将来人口推計は、市区町村別人口推計データを、エリア内におけるそれぞれの市区町村の面積で按分して計算している

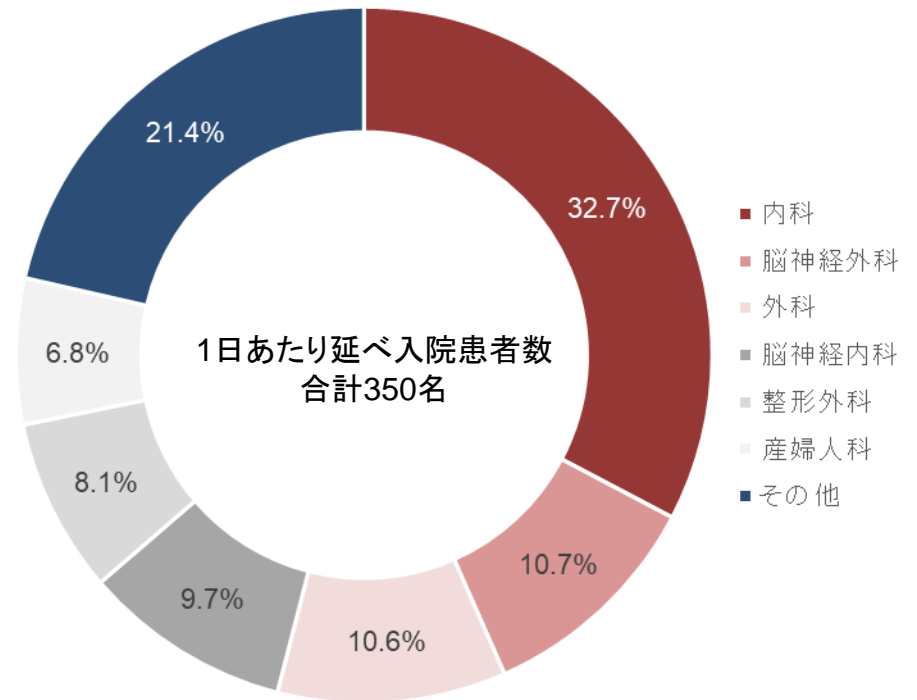
出典:厚生労働省「患者調査」の市区町村別「住基ベース傷病分類別推計患者数データ」、「市区町村別将来推計人口データ」、「人口10万人あたり受療率」より作成

(5) 対象病院 診療科別入院患者割合について(2019年)

- 対象病院の入院患者について、内科、脳神経外科、外科、脳神経内科、整形外科、産婦人科で入院の約8割を占めます。
- 対象エリア内において、当該診療科目が重要な医療機能であることが考えられます。

入院患者のうち、合計でおよそ8割の診療科目

診療科目	2019年 1日入院患者数	割合
内科	114	32.7%
脳神経外科	37	10.7%
外科	37	10.6%
脳神経内科	34	9.7%
整形外科	28	8.1%
産婦人科	24	6.8%
泌尿器科	17	5.0%
小児科	13	3.7%
心臓血管外科	11	3.2%
救急科	10	2.9%
眼科	6	1.8%
耳鼻咽喉科	6	1.8%
皮膚科	5	1.4%
形成外科	4	1.2%
歯科口腔外科	1	0.2%
放射線科	1	0.2%
合計	350	100.0%



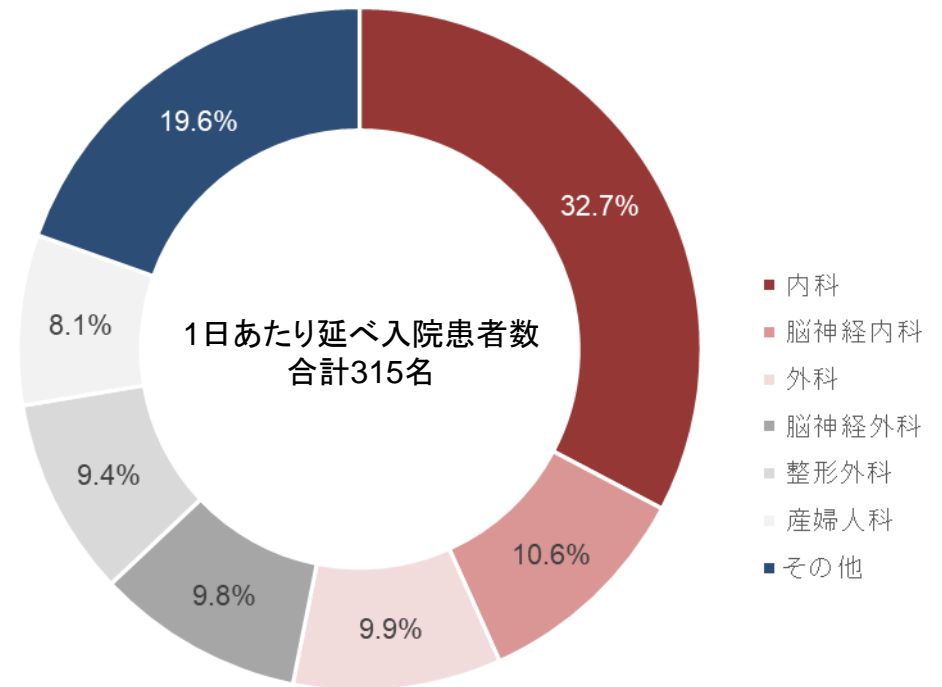
※19年1月～12月実績の平均値を使用
出典: 対象病院提供資料より作成

(5) 対象病院 診療科別入院患者割合について(2023年)

- 対象病院の入院患者について、内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科で入院の約8割を占めます。
- 対象エリア内において、当該診療科目が重要な医療機能であることが考えられます。

入院患者のうち、合計でおよそ8割の診療科目

診療科目	2023年 1日入院 患者数	割合
内科	103	32.7%
脳神経内科	33	10.6%
外科	31	9.9%
脳神経外科	31	9.8%
整形外科	30	9.4%
産婦人科	25	8.1%
泌尿器科	19	5.9%
救急科	10	3.3%
小児科	8	2.5%
形成外科	7	2.2%
眼科	5	1.5%
皮膚科	4	1.3%
耳鼻咽喉科	4	1.3%
歯科口腔外科	2	0.8%
放射線科	2	0.5%
心臓血管外科	1	0.2%
合計	315	100.0%



※23年1月～12月実績の平均値を使用
出典: 対象病院提供資料より作成

(6) 入院/病床機能に関する調査まとめ

対象病院が担う 病床機能	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院は、高度急性期、急性期をメインとする病院です。 日数が長期化している患者(回復期寄りの患者)が約3割入院している可能性が考えられます。 重症度が高く、特に医療資源を投入する必要がある患者割合は約2割であると考えられます。
対象病院移転後の 必要病床数	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院の1日入院患者数に対して、対象病院を中心に半径10km圏内に居住する患者割合、移転前後で診療圏が重複する範囲に居住する患者割合、大学病院の高度な医療を必要とする患者割合、を除いた、想定1日入院患者数を算出し、稼働率75%程度を想定した病床数を算出しました。 2019年と2023年の対象病院実績(コロナ前後)を使用して試算すると、対象病院移転後、200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。
近隣病陳との 病床機能の比較	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院の半径10km圏内には対象病院の他に、9病院あります。 このうち、機能区分が急性期で、急性期一般入院料を算定しているのは4病院のみです。



- 現状、対象病院は、高度急性期20床、急性期407床を稼働病床として運営しています。
- コロナ前後の対象病院の実績から、対象病院移転後、200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。

(7) 近隣病院比較_入院基本料別の病床数

- 対象病院の半径10km圏内には対象病院の他に、9病院あります。
- このうち、機能区分が急性期で、急性期一般入院料を算定しているのは4病院です。

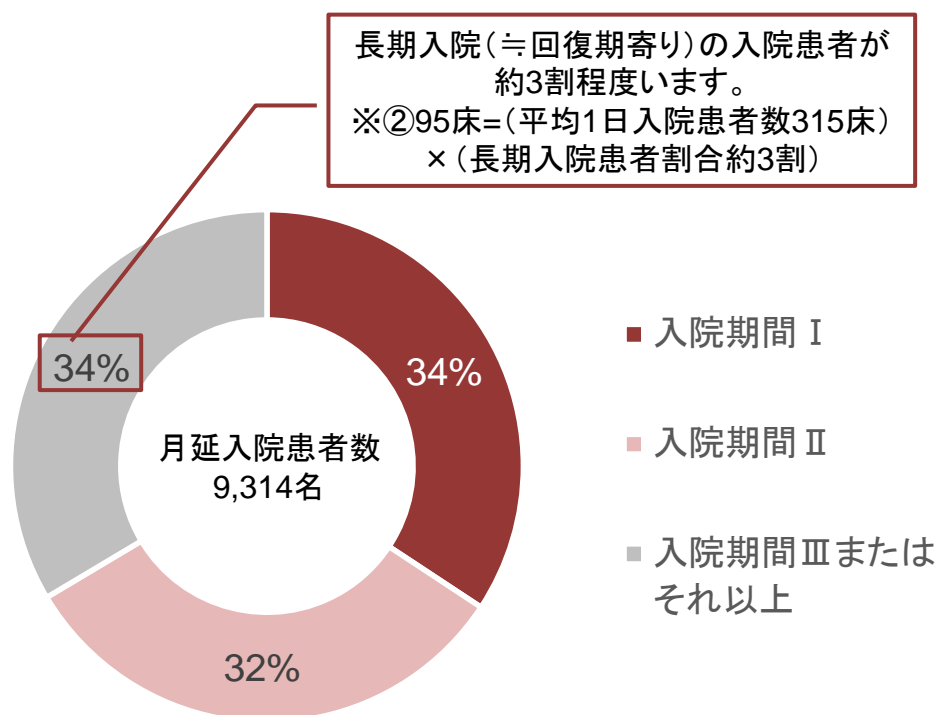
周辺病院一覧(半径10km圏内)

No.	病院名称	機能区分	入院基本料・特定入院料	病床数
1	帝京大学ちば総合医療センター	高度急性期	救命救急入院料1	12
		高度急性期	特定集中治療室管理料3	8
		急性期	急性期一般入院料1	407
		合計		427
2	五井病院	急性期	急性期一般入院料6	106
		回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料1	50
		回復期	地域包括ケア病棟入院料2	24
		慢性期	療養病棟入院料1	34
		合計		214
3	鎗田病院	急性期	急性期一般入院料4	159
		慢性期	療養病棟入院料1	40
		合計		199
4	袖ヶ浦さつき台病院	急性期	急性期一般入院料1	60
		急性期	地域包括ケア病棟入院料2	33
		回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料1	98
		合計		191
5	白金整形外科病院	急性期	急性期一般入院料4	50
		回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料3	78
		合計		128
6	リハビリテーション病院さらしな	回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料1	120
		合計		120
7	姉崎病院	慢性期	療養病棟入院料1	99
		合計		99
8	辰巳病院	回復期	急性期一般入院料4	56
		慢性期	療養病棟入院料1	25
		合計		81
9	永野病院	回復期	地域一般入院料3	60
		合計		60
10	長谷川病院	急性期	地域一般入院料3	37
		合計		37

(8) 対象病院 急性期病床の医療供給量

- 在院日数が長期化している患者(回復期寄りの患者)が約3割入院している可能性が考えられます。
- 重症度が高く、特に医療資源を投入する必要がある患者割合は約2割であると考えられます。

入院患者層の整理



看護必要度の状況

No.	項目	看護必要度の評価基準(23年1月～12月・月次平均)
1	A項目3点以上	13.6%
2	A項目2点以上かつB項目3点以上	9.3%
3	C項目1点以上	6.8%

A項目3点以上+C項目1点以上 20.4%

B項目以外で看護必要度を算定している患者が2割程度います。これは、急性期の中でも特に治療が必要な患者が割合を示します。

※看護必要度はA「モニタリング及び処置等」、B「患者の状況等」、C「手術などの医学的状況」の3項目で構成されています。特に、B項目は、患者のADL状況や意識レベルを評価します。この項目では、患者状態と介助の実施状況により点数が決定します。

※B項目について、例えば、食事摂取の介助実施、衣服の着脱の介助実施、などA項目、C項目と異なり実際の医療サービスの提供に関する内容ではなく、患者状態及び介助の実施状況を示します

出典:対象病院提供資料より作成

(9) 必要病床数及び基準病床数について

- 病床機能報告制度を通じて各医療機関が報告する現状の医療機能別の病床数は、地域医療構想において推計される病床の必要量(必要病床数)とは算定方法が異なり、差異が生じています。
- 2015年度の病床機能報告と2025年度の必要病床数の比較でも、高度急性期・急性期・慢性期のいずれかの病棟にも回復期に該当数患者が含まれていることが考えられます。

病床機能報告制度と地域医療構想の将来推計の違い

病床機能報告

様々な病期の患者が混在している一方で、一つの医療機能しか選択できない。

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

実際の病棟には様々な病期の患者が混在している。

高度急性期

病床機能報告制度では混在している中で一番多い、高度急性期病棟として報告される。

地域医療構想の将来推計

将来推計は、患者数をベースに病床数を算出している。

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

●●年度の入院受療率(患者数÷人口)

医療機能別に必要病床数の算出が可能。



▲▲年度の推計人口



▲▲年度の必要病床数

(参考)市原保健医療圏の場合

□令和4年病床機能報告(実績)
→病院からの届出情報より算出
高度急性期108名(5.2%)
急性期1,351名(64.8%)
回復期428名(20.5%)
慢性期198名(9.5%)

□地域医療構想(必要病床数)
→治療実績から推計
高度急性期284名(13.3%)
急性期826名(38.6%)
回復期695名(32.5%)
慢性期335名(15.7%)

病床機能別の推計患者数

※高度急性期+急性期1,110名(51.9%)

構想区域ごとに2015年度の病床機能報告による病床数と2025年における病床の必要量を比較すると、回復期では、336区域で病床不足(病床機能報告<病床の必要量)、5区域で病床過剰(病床機能報告>病床の必要量)となっています。これは、回復期機能が不足しているのではなく、高度急性期、急性期、慢性期のいずれかの病棟にも回復期に該当する患者が多数入院していることから生ずる違いです。

(10) 病床数の試算

- 対象病院の2023年と2019年のデータより、対象病院移転後の入院需要を試算しました。
- その結果、200～230床程度の需要があるものと考えられます。

試算方法

項目	単位	計算式	2023年 (コロナ後)	参照 ページ	2019年 (コロナ前)	参照 ページ
対象病院の年平均1日あたり延べ入院患者数	人	a	315	p49	350	p48
aのうち所在地の市原市及び隣接する袖ヶ浦市の割合	%	b	81.7	p44	81.3	p43
bのうち、半径10km圏内の割合	%	c	86.5	p44	84.8	p43
対象病院及び移転先の双方から半径10 km圏内(重複部分)の面積割合の半分 【100% - (24% ÷ 2)】(※) ※同距離の患者の半分が移転先に入院すると想定	%	d	88.0	-	88.0	-
大学病院としての高度な医療を必要とする患者を除いた割合 【100% - 20.4% = 79.6%】 ※高度医療を必要とする患者は移転先に入院すると想定	%	e	79.6	p52	79.6	p52
	人	$f = a \times b \times c \times d \times e$	155.9		169.0	
病床稼働率を勘案した割合※病床稼働率を75%と仮定 【100% ÷ 75% = 133.3%】	%	g	133.3	-	133.3	-
病床数(試算)	床	$h = f \times g$	207.9		225.3	

対象病院移転後、200～230床程度の入院需要があるものと考えられます。

※対象病院及び移転先の双方から半径10km圏内(重複部分)の面積割合24%は、重複対象地区をプロットして算出した76.56km²を半径10kmの円の面積314km²(円周率は3.14として計算)で除して算出

出典: 対象病院提供資料より作成

(1) 外来に関する調査まとめ

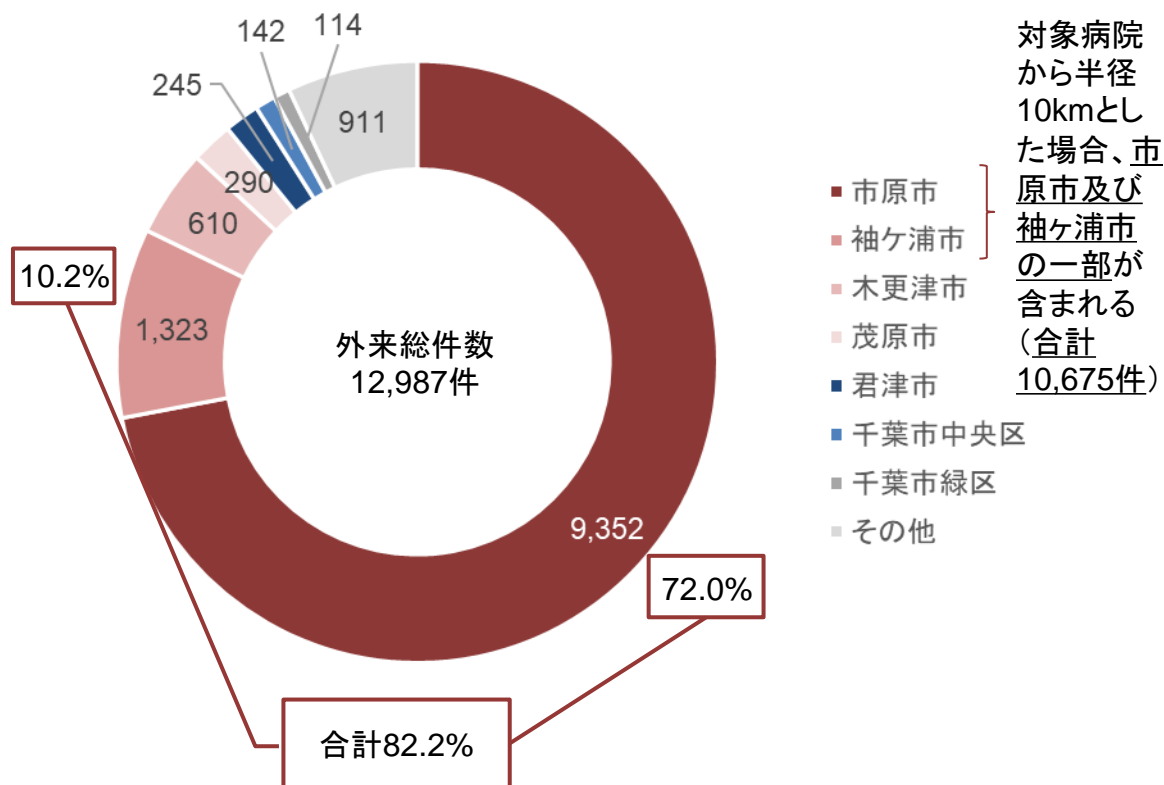
診療圏	<ul style="list-style-type: none"> 外来患者の居住エリアは、対象病院から半径5kmに住む患者が約4割、半径10km圏内に住む患者は約8割を占めます。
将来推計患者数	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院周辺の外来患者数は、2025年から2050年にかけて減少傾向にあり、2035年以降は傷病分類01~21の全疾患で患者が減少する見込みです。
人口10万人あたり診療所数	<ul style="list-style-type: none"> 市原保健医療圏の人口10万人あたり診療所数は、全国平均、千葉県平均と比較して、医療供給量が少ない状況です。そのため、現在対象病院が標榜している科目を引続き対応することは、地域ニーズがあるものと考えられます。
外来患者数の試算	<ul style="list-style-type: none"> 半径5km圏内の患者から、大学病院の高度な医療を必要とする患者を除いて、外来患者の需要を試算しました。 2019年と2023年の対象病院の実績(コロナ前後)を用いて試算すると、200~250名/日程度の需要があるものと考えられます。
病床数と外来患者数の相関関係	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に、病院の外来患者数は病床規模と相関していると考えられます。 前項で算出した、想定される病床規模(200床~230床程度)と外来患者数(200~250名/日程度)は、周辺医療機関と比較して妥当な水準であるものと考えられます。
対象病院内の主な診療科目	<ul style="list-style-type: none"> 2023年の対象病院データで検証すると、内科、泌尿器科、産婦人科、眼科、外科、皮膚科、整形外科、耳鼻科、脳神経内科で外来の約8割を占めます。

- 半径5km圏内の患者から、大学病院の高度な医療を必要とする患者を除いて、外来患者の需要を試算すると、200~250名/日程度の需要があるものと考えられます。
- 病床数と外来患者数の相関から、試算した病床数、外来患者数は妥当な水準であるものと考えられます。
- 人口減少に伴い、外来患者数の減少が懸念されるものの、人口10万人あたり診療所数は、全国及び千葉平均と比較して少なく、今後も必要な機能であるものと考えられます。

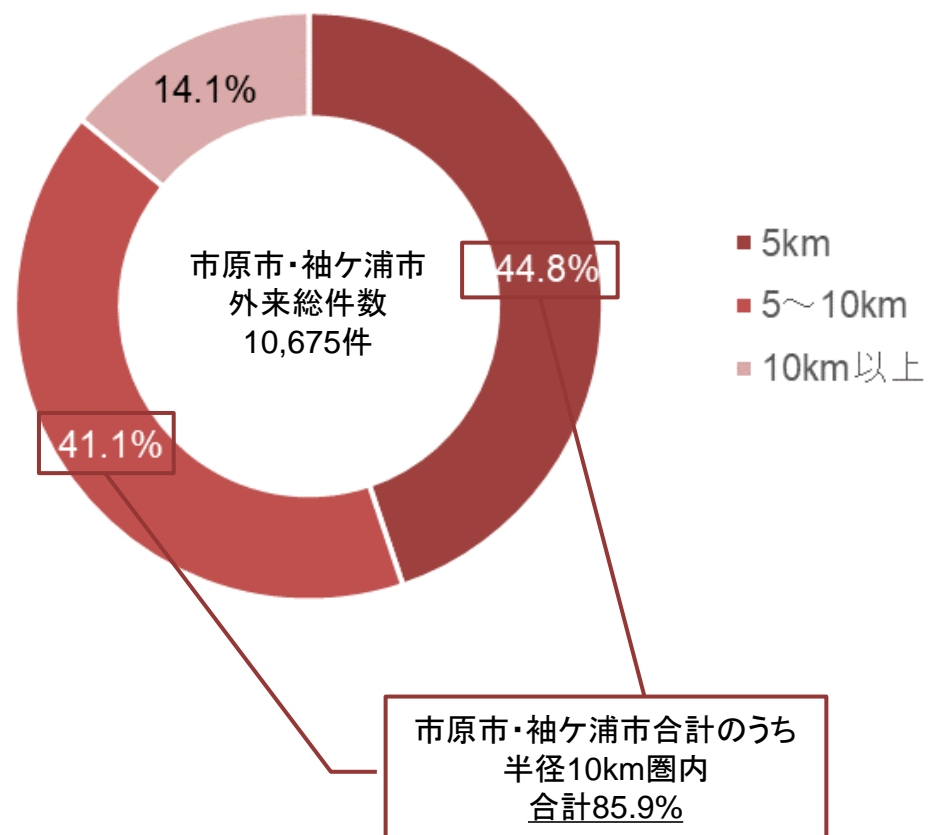
(2) 対象病院地区別・距離別受入患者数(外来・2019年)

- 対象病院の外来患者について、外来総件数12,987件のうち、市原市9,352名(72.0%)、隣接する袖ヶ浦市1,323名(10.2%)のエリアから通院しており、主に対象病院から半径10km圏内から通院しています。
- 実際に、対象病院からの通院距離別に整理すると、地区別の内容と同様に、半径10km圏内の患者割合が85.9%であり、退院後の経過観察のための通院など、入院に紐づいた患者層であることが考えられます。

地区別外来件数(19年12月実績)



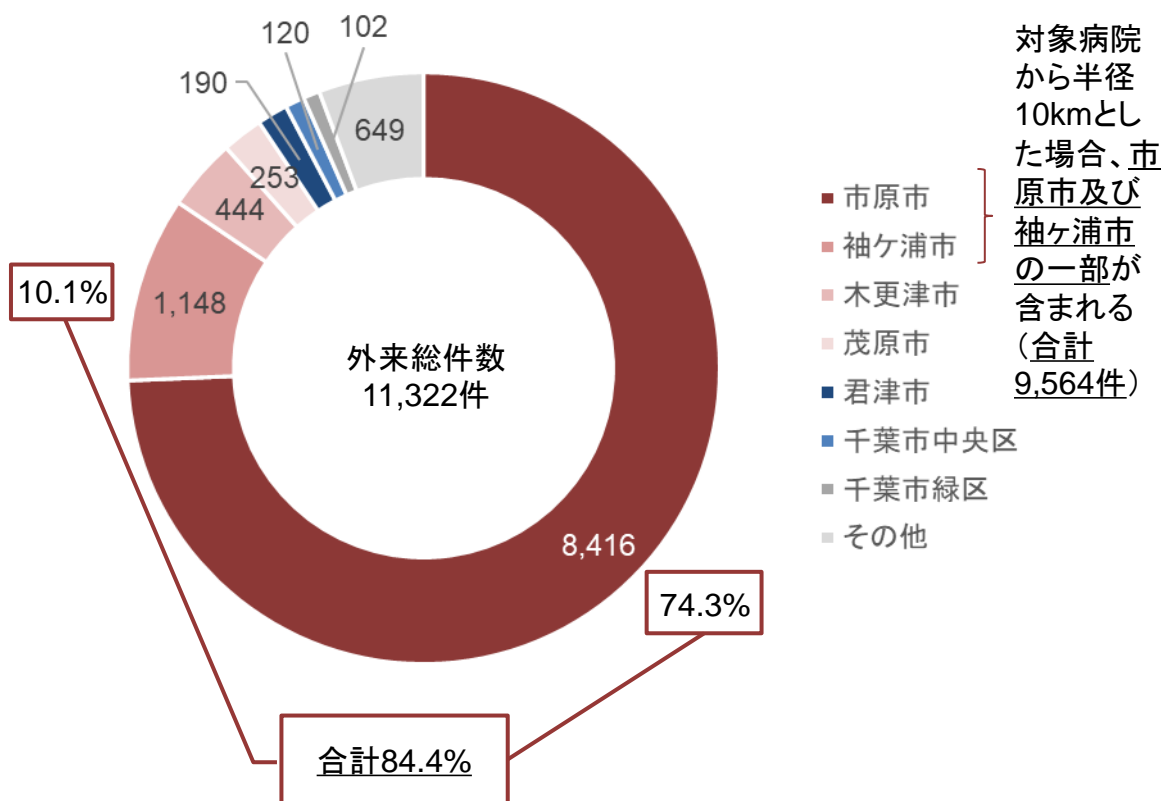
距離別外来件数割合(19年12月実績)



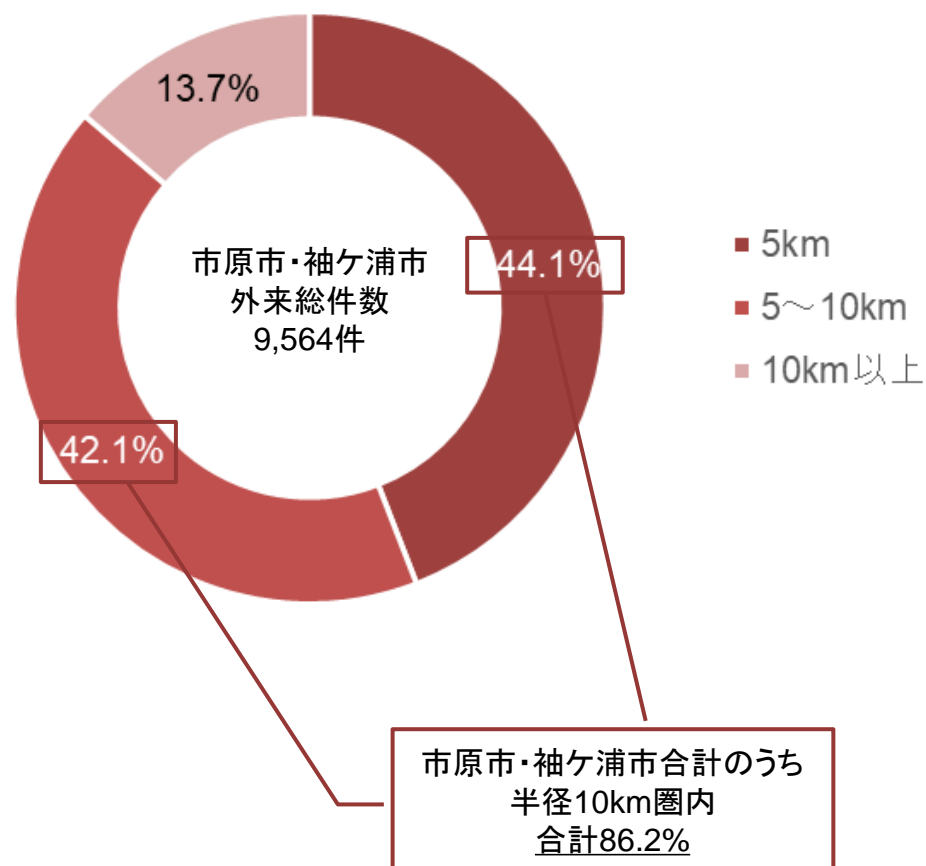
(2) 対象病院地区別・距離別受入患者数(外来・2023年)

- 対象病院の外来患者について、外来総件数11,322件のうち、市原市8,416名(74.3%)、隣接する袖ヶ浦市1,148名(10.1%)のエリアから通院しており、主に対象病院から半径10km圏内から通院しています。
- 実際に、対象病院からの通院距離別に整理すると、地区別の内容と同様に、半径10km圏内の患者割合が86.2%であり、退院後の経過観察のための通院など、入院に紐づいた患者層であることが考えられます。

地区別外来件数(23年12月実績)



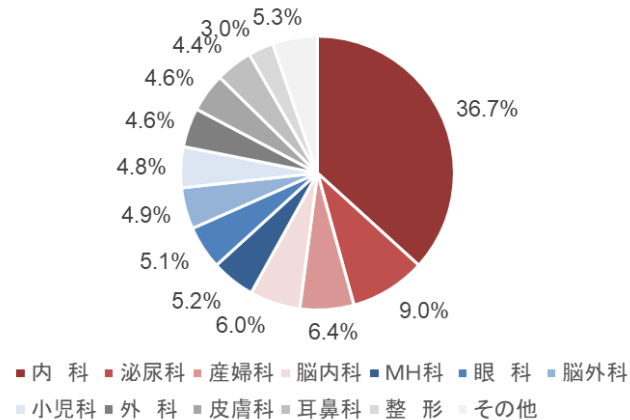
距離別外来件数割合(23年12月実績)



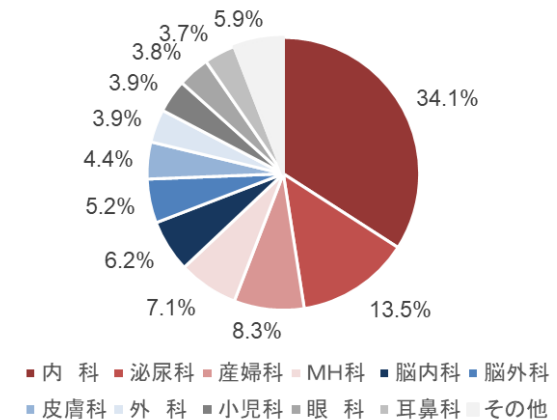
【参考】対象病院地区別・診療科別患者割合(外来)①

- 対象病院の内科部門、泌尿科、産婦人科は、市原、袖ヶ浦両市の2019年及び2023年で上位3診療科であり、対象病院の外来部門における主力診療科であると考えられます。
- 2019年と比較して、2023年はMH科(メンタルヘルス科)の割合が減少しています。

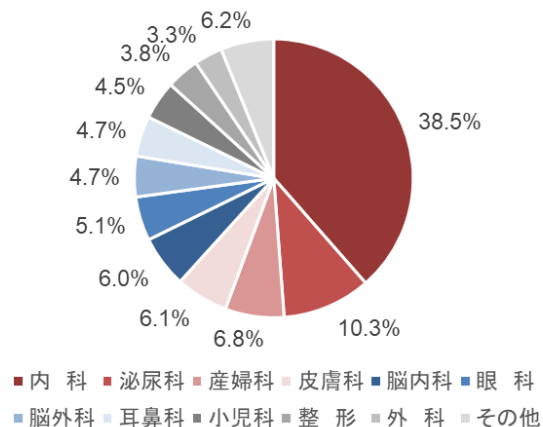
市原市診療科別患者割合(2019年12月実績)



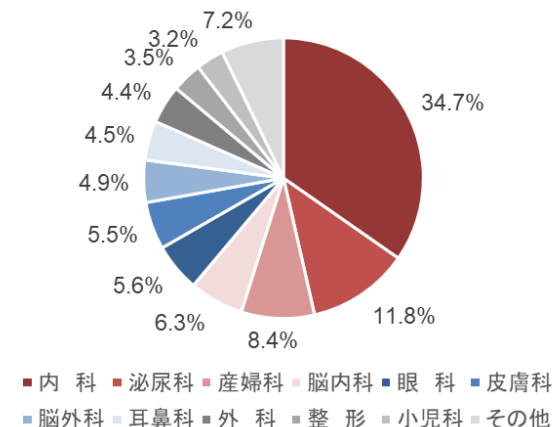
袖ヶ浦市診療科別患者割合(2019年12月実績)



市原市診療科別患者割合(2023年12月実績)



袖ヶ浦市診療科別患者割合(2023年12月実績)



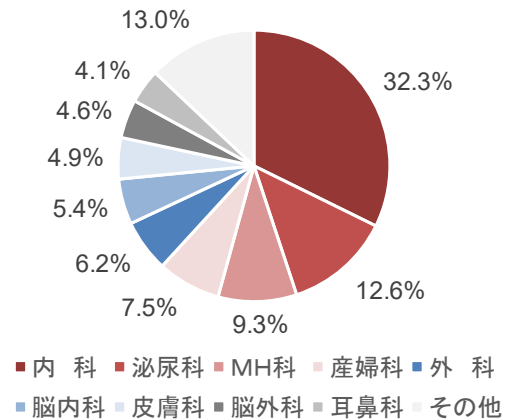
※各年、各市のデータにおいて3%未満の診療科をその他とした

出典: 対象病院提供資料より作成

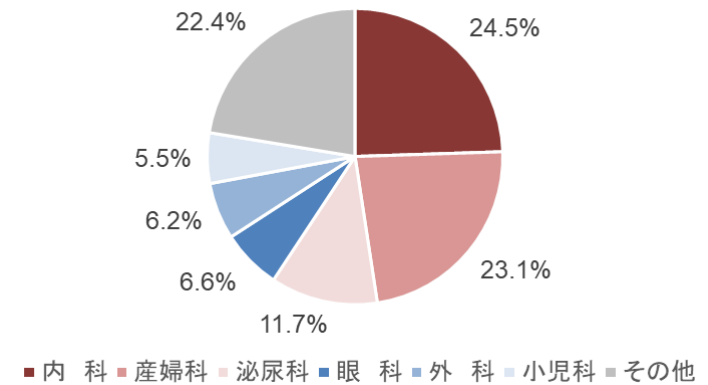
【参考】対象病院地区別・診療科別患者割合(外来)②

- 対象病院の内科部門、泌尿科、産婦人科は、木更津、茂原両市の2019年及び2023年においても上位の診療科であり、対象病院の外来部門における主力診療科であると考えられます。
- 木更津市からの患者について、2019年と比較して、2023年はMH科(メンタルヘルス科)の割合が減少しています。

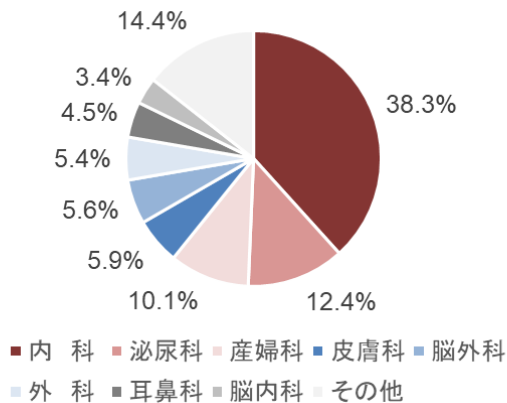
木更津市診療科別患者割合(2019年12月実績)



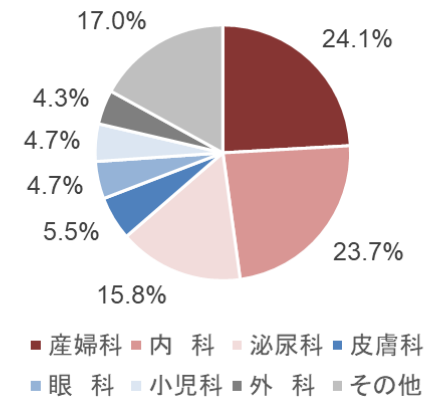
茂原市診療科別患者割合(2019年12月実績)



木更津市診療科別患者割合(2023年12月実績)



茂原市診療科別患者割合(2023年12月実績)



※各年、各市のデータにおいて3%未満の診療科をその他とした

出典:対象病院提供資料より作成

(3) 半径5km圏内の病院及び診療所一覧

- 対象病院から半径5km圏内における病院と診療所について、病院は対象病院を含めて2施設、診療所は29施設あります。

区分	No	病院名称	対象病院からの 直線距離【Km】	区分	No	病院名称	対象病院からの 直線距離【Km】
病院	1	帝京大学ちば総合医療センター	0.001		16	古川皮膚科医院	2.264
	2	姉崎病院	2.634		17	姉崎駅前クリニックカンティーン	2.33
診療所	1	茂久田診療所	0.363		18	望星姉崎クリニック	2.389
	2	ひまわりクリニック	1.303		19	蔵内医院	2.396
	3	泉台クリニック	1.496		20	四ツ谷医院	2.515
	4	飯島マザーズクリニック	1.836		21	高岡クリニック	2.542
	5	伊嶋整形外科	1.843		22	東京都千葉福祉園診療所	3.156
	6	有秋台医院	1.855		23	ちぐさクリニック	3.317
	7	内田医院	1.901		24	こいで脳神経外科クリニック	3.513
	8	坂本脳神経外科クリニック	1.964		25	けやき台眼科	3.553
	9	こしかわハートクリニック	1.967		26	もり小児科	4.716
	10	あさひガーデンクリニック	2.123		27	長浦泌尿器科クリニック	4.724
	11	市原メディカルキュア	2.128		28	KKクリニック市原	4.726
	12	素戔鳴 ちばENTクリニック	2.146		29	たむら医院	4.727
	13	五味クリニック	2.225				
14	あねさき林クリニック	2.225					
15	広松眼科	2.235					

出典:ちば医療なびより

(4) 半径5km圏内における将来推計患者数(1日あたり外来患者数)

単位:名

- 半径5km圏内における病院の外来患者数は5年刻みで減少傾向にあり、2035年以降は全ての疾患が減少傾向になる見込みです。
- 『循環器系』『筋骨格系』『消化器系』『腎・尿路生殖器系』は、1日あたり50名以上の外来患者数と規模が大きいです。

コード	傷病分類名	将来推計患者数							増減					
		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
01	感染症、寄生虫症	10.4	10.5	10.2	9.8	9.4	9	8.7	0.1	-0.3	-0.4	-0.4	-0.4	-0.3
02	新生物<腫瘍>	85	85	82.2	78.6	75.6	73.3	70.4	0	-2.8	-3.6	-3	-2.3	-2.9
03	血液、造血疾患、免疫障害	3.8	3.8	3.7	3.5	3.3	3.2	3	0	-0.1	-0.2	-0.2	-0.1	-0.2
04	内分泌、栄養、代謝疾患	49.7	49.6	48.3	46.6	45	43.2	41.2	-0.1	-1.3	-1.7	-1.6	-1.8	-2
05	精神、行動の障害	47.5	45.6	43.6	41.5	39.1	36.6	34.3	-1.9	-2	-2.1	-2.4	-2.5	-2.3
06	神経系の疾患	27.5	28.2	28.3	27.7	26.6	25.4	24.4	0.7	0.1	-0.6	-1.1	-1.2	-1
07	眼、付属器の疾患	21.6	22.2	21.9	21.2	20.4	19.8	19.1	0.6	-0.3	-0.7	-0.8	-0.6	-0.7
08	耳、乳様突起の疾患	4.1	4.2	4	3.8	3.7	3.5	3.5	0.1	-0.2	-0.2	-0.1	-0.2	0
09	循環器系の疾患	85.8	90.2	91.6	90.7	88.3	85.4	82.6	4.4	1.4	-0.9	-2.4	-2.9	-2.8
10	呼吸器系の疾患	24.3	24.1	23.3	22.2	21.2	20.3	19.5	-0.2	-0.8	-1.1	-1	-0.9	-0.8
11	消化器系の疾患	50.6	50.3	48.8	46.7	44.7	42.9	41	-0.3	-1.5	-2.1	-2	-1.8	-1.9
12	皮膚、皮下組織の疾患	18.9	18.7	18.3	17.6	16.8	16	15.2	-0.2	-0.4	-0.7	-0.8	-0.8	-0.8
13	筋骨格系、結合組織疾患	70.9	72.5	71.5	68.9	66.2	63.7	61.2	1.6	-1	-2.6	-2.7	-2.5	-2.5
14	腎尿路生殖器系の疾患	50.6	50.8	49.8	48.2	46.4	44.6	42.8	0.2	-1	-1.6	-1.8	-1.8	-1.8
15	妊娠、分娩、産じょく	2.6	2.4	2.2	2.1	1.9	1.8	1.6	-0.2	-0.2	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2
16	周産期に発生した病態	1.1	1	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	-0.1	-0.1	0	-0.1	0	-0.1
17	先天奇形、染色体異常	3.5	3.2	3.1	2.9	2.7	2.5	2.3	-0.3	-0.1	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2
18	他分類(症状、所見)	15.7	15.6	15.1	14.5	13.8	13.2	12.6	-0.1	-0.5	-0.6	-0.7	-0.6	-0.6
19	損傷、中毒、他外因の影響	35.1	35	34.4	33.2	31.7	30.1	28.6	-0.1	-0.6	-1.2	-1.5	-1.6	-1.5
20	保健サービス利用など	48.7	47.3	45.6	43.8	42.2	40.1	37.9	-1.4	-1.7	-1.8	-1.6	-2.1	-2.2
21	Ⅱ 特殊目的用コード	1.3	1.2	1.2	1.1	1.1	1	0.9	-0.1	0	-0.1	0	-0.1	-0.1
総計		658.7	661.4	648	625.5	600.9	576.4	551.5	2.7	-13.4	-22.5	-24.6	-24.5	-24.9

※将来推計患者数は、エリア内の将来人口推計×各MDCコードの受療率で計算。なお、エリア内の将来人口推計は、市区町村別人口推計データを、エリア内におけるそれぞれの市区町村の面積で按分して計算している。

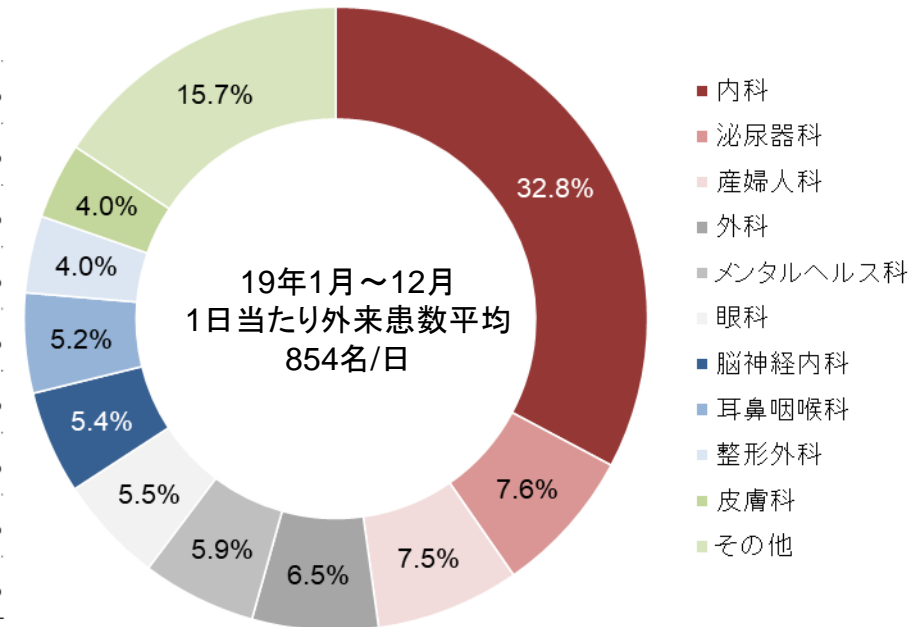
出典:厚生労働省「患者調査」の市区町村別「住基ベース傷病分類別推計患者数データ」、「市区町村別将来推計人口データ」、「人口10万人あたり受療率」より作成

(5) 対象病院 診療科別外来患者割合について(2019年)

- 対象病院の入院患者について、内科、泌尿器科、産婦人科、外科、メンタルヘルス科、眼科、脳神経内科、耳鼻咽喉科、整形外科、皮膚科で外来の約8割以上を占めます。
- 対象エリア内において、当該診療科目が重要な医療機能であることが考えられます。

外来患者のうち、合計で8割以上を占める診療科目

診療科目	2019年 1日外来 患者数	割合	診療科目	2019年 1日外来 患者数	割合
内科	280	32.8%	小児科	31	3.6%
泌尿器科	65	7.6%	脳神経外科	28	3.3%
産婦人科	64	7.5%	歯科口腔外科	25	2.9%
外科	56	6.5%	リハビリテーション科	19	2.3%
メンタルヘルス科	51	5.9%	形成外科	12	1.4%
眼科	47	5.5%	放射線科	11	1.2%
脳神経内科	46	5.4%	救急科	5	0.5%
耳鼻咽喉科	44	5.2%	心臓血管外科	4	0.5%
整形外科	34	4.0%	麻酔科	0	0.0%
皮膚科	34	4.0%	合計	854	100.0%



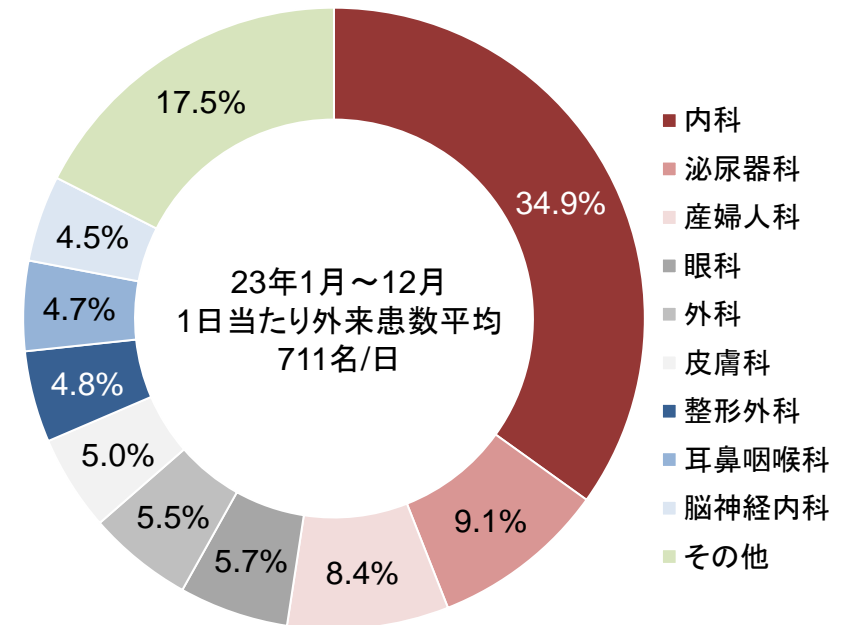
※19年1月～12月実績の平均値を使用
出典: 対象病院提供資料より作成

(5) 対象病院 診療科別外来患者割合について(2023年)

- 対象病院の入院患者について、内科、泌尿器科、産婦人科、眼科、外科、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、脳神経内科で外来の約8割以上を占めます。
- 対象エリア内において、当該診療科目が重要な医療機能であることが考えられます。

外来患者のうち、合計で8割以上を占める診療科目

診療科目	2023年 1日外来 患者数	割合	診療科目	2023年 1日外来 患者数	割合
内科	248	34.9%	脳神経外科	25	3.5%
泌尿器科	65	9.1%	歯科口腔外科	24	3.4%
産婦人科	60	8.4%	小児科	23	3.2%
眼科	40	5.7%	メンタルヘルス科	16	2.2%
外科	39	5.5%	放射線科	11	1.6%
皮膚科	35	5.0%	形成外科	11	1.5%
整形外科	34	4.8%	リハビリテーション科	9	1.3%
耳鼻咽喉科	33	4.7%	麻酔科	3	0.4%
脳神経内科	32	4.5%	救急科	2	0.3%
			心臓血管外科	1	0.1%
			合計	711	100.0%



※23年1月～12月実績の平均値を使用
出典: 対象病院提供資料より作成

(6) 外来患者の需要調査

- 対象病院の2023年と2019年のデータより、対象病院移転後の外来患者需要を試算しました。
- その結果、200～250名程度の外来需要があるものと考えられます。

試算方法

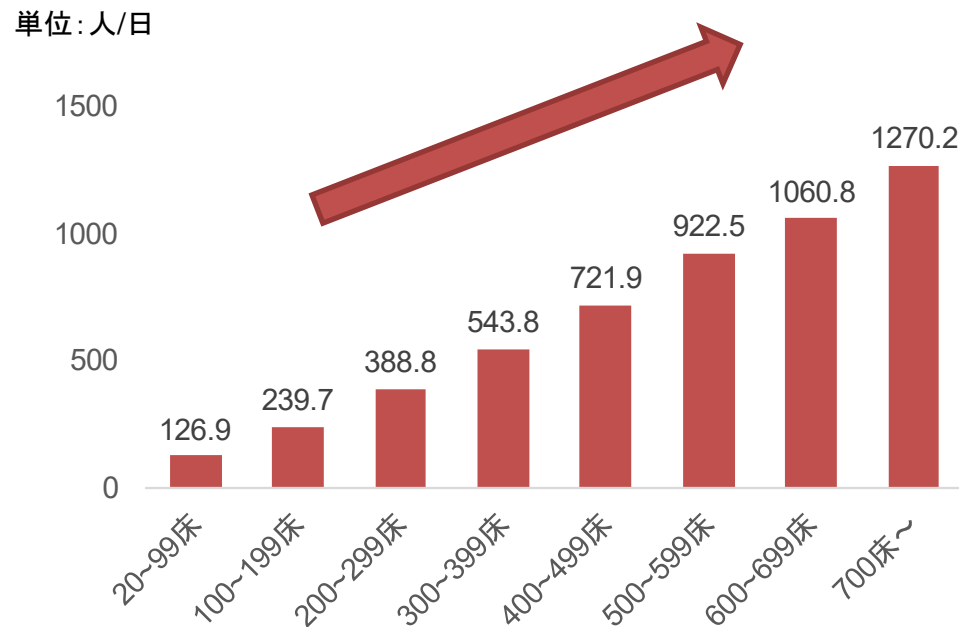
項目	単位	計算式	2023年 (コロナ後)	参照 ページ	2019年 (コロナ前)	参照 ページ
対象病院1日あたり外来患者数平均	名/日	a	711	p63	854	p62
aのうち所在地の市原市及び隣接する袖ヶ浦市の割合	%	b	84.4	p57	82.2	p56
bのうち、半径5km圏内の割合	%	c	44.1	p57	44.8	p56
大学病院としての高度な医療を必要とする患者を除いた割合 (100%－20.4%=79.6%) ※高度医療を必要とする患者は退院後の経過観察等で移転先に 通院すると想定	%	d	79.6	p52	79.6	p52
外来需要(試算)	名/日	$e = a \times b \times c \times d$	210.7		250.3	

対象病院移転後、200～250名程度の外来需要があるものと考えられます。

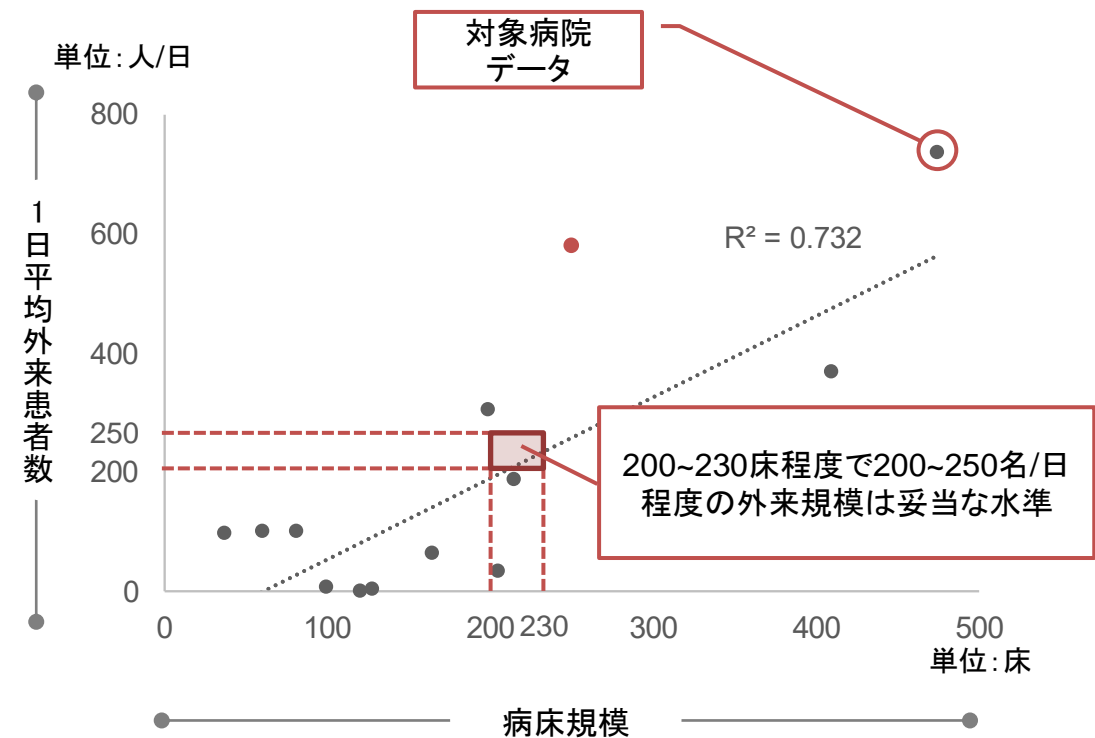
(7) 病床数と外来患者数の相関関係

- 病床規模に比例して、1日外来患者数は一般的に増加します。
- 病床規模を200～230床程度とした場合、1日外来患者数の200～250名程度の水準は妥当なものと考えられます。

病床規模と1日平均外来患者数(全国)



病床規模と1日平均外来患者数(周辺医療機関との分布)

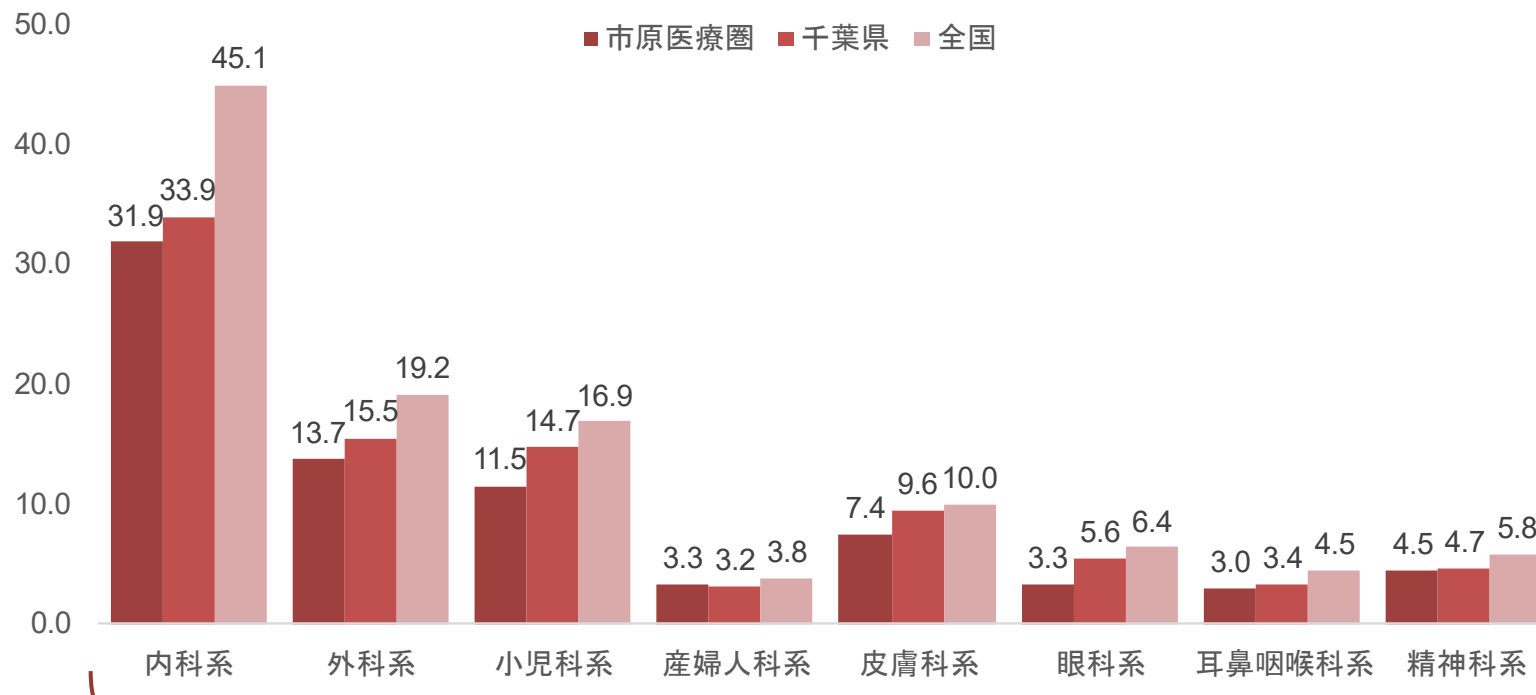


(8) 市原保健医療圏の人口10万人あたり診療所数

単位:件

- 市原保健医療圏の人口10万人あたり診療所は、千葉県、全国と比較して少ない状況です。

人口10万人あたり診療所数



全て対象病院が標榜する
診療科

【参考】半径10km圏内の病院及び診療所一覧

- 対象病院から半径10km圏内において、病院は対象病院を含めて12施設、診療所は111施設あります。

区分	No	病院名称	対象病院からの 直線距離【Km】	区分	No	病院名称	対象病院からの 直線距離【Km】	区分	No	病院名称	対象病院からの 直線距離【Km】
病院	1	帝京大学ちば総合医療センター	0.001	診療所	20	四ツ谷医院	2.515	診療所	51	市原健康クリニック	5.789
	2	姉崎病院	2.634		21	高岡クリニック	2.542		52	宮沢眼科クリニック	5.793
	3	鎗田病院	5.144		22	東京都千葉福祉圏診療所	3.156		53	志村胃腸科外科医院	5.795
	4	袖ヶ浦さつき台病院	5.59		23	ちぐさクリニック	3.317		54	やりたクリニック	5.814
	5	リハビリテーション病院さらしな	5.628		24	こいで脳神経外科クリニック	3.513		55	皮フ科竹松クリニック	5.817
	6	五井病院	6.303		25	けやき台眼科	3.553		56	河野医院	5.828
	7	市原鶴岡病院	6.769		26	もり小児科	4.716		57	飯倉整形外科クリニック	5.837
	8	永野病院	6.783		27	長浦泌尿器科クリニック	4.724		58	山崎整形外科	5.838
	9	白金整形外科病院	7.729		28	KKクリニック市原	4.726		59	平山医院	5.842
	10	磯ヶ谷病院	8.093		29	たむら医院	4.727		60	相川クリニック	5.857
	11	長谷川病院	8.715		30	こうふう台眼科医院	5.24		61	市原在宅診療所	5.859
	12	辰巳病院	9.301		31	五井クリニック	5.307		62	宗田マタニティクリニック	5.882
診療所	1	茂久田診療所	0.363	32	京業内科	5.379	63	ゆむら内科循環器科	5.884		
	2	ひまわりクリニック	1.303	33	大木眼科クリニック	5.381	64	野崎医院	5.903		
	3	泉台クリニック	1.496	34	市原メンタルクリニック	5.457	65	三愛記念市原クリニック	6.022		
	4	飯島マザーズクリニック	1.836	35	大倉産婦人科医院	5.517	66	長浦眼科クリニック	6.058		
	5	伊嶋整形外科	1.843	36	大倉耳鼻咽喉科医院	5.517	67	林クリニック	6.087		
	6	有秋台医院	1.855	37	イルカ耳鼻咽喉科	5.55	68	麻薙眼科	6.114		
	7	内田医院	1.901	38	光クリニック	5.552	69	五井病院グラッククリニック	6.133		
	8	坂本脳神経外科クリニック	1.964	39	五井中央診療所	5.556	70	市原市急病センター	6.158		
	9	こしかわハートクリニック	1.967	40	みずき整形外科医院	5.598	71	さつき台クリニック	6.162		
	10	あさひガーデンクリニック	2.123	41	五井在宅クリニック	5.605	72	Kenクリニック	6.211		
	11	市原メディカルキュア	2.128	42	三和医院	5.609	73	ながたクリニック	6.403		
	12	素戔鳴 ちばENTクリニック	2.146	43	徳政内科クリニック	5.657	74	五井レディースクリニック	6.485		
	13	五味クリニック	2.225	44	山越整形外科	5.661	75	袖ヶ浦メディカルクリニック	6.493		
	14	あねさき林クリニック	2.225	45	斎賀医院	5.664	76	横山医院	6.544		
	15	広松眼科	2.235	46	博仁会眼科齊藤医院	5.69	77	石井内科小児科医院	6.628		
	16	古川皮膚科医院	2.264	47	大木医院	5.704	78	田部整形外科	6.771		
	17	姉崎駅前クリニックカンティーン	2.33	48	中山耳鼻咽喉科医院	5.706	79	よしだ胃腸内科クリニック	6.78		
	18	望星姉崎クリニック	2.389	49	原村医院	5.733	80	蔵波台ハートクリニック	6.848		
	19	蔵内医院	2.396	50	クリニック五井	5.774	81	犬丸内科皮膚科クリニック	6.916		
									82	五井病院ホームケアクリニック	7.14
									83	いちばら協立診療所	7.375
									84	いまい皮膚科クリニック	7.726
									85	白金整形外科クリニック	7.757
									86	平岡医院	8.205
									87	御所クリニック	8.406
									88	清水クリニック	8.644
									89	和田耳鼻咽喉科医院	8.683
									90	せき内科クリニック	8.791
									91	八幡宿整形外科内科	8.798
									92	小野木医院	8.873
									93	若宮中央医院	9.294
									94	若宮中央医院 皮膚科クリニック	9.312
									95	いまい内科・循環器クリニック	9.312
									96	倉持泌尿器科クリニック	9.32
									97	若宮渡部医院	9.335
									98	清川眼科医院	9.34
									99	日高クリニック	9.394
									100	ストレスケアふるや心療クリニック	9.438
									101	山口医院	9.497
									102	あさりクリニック	9.549
									103	たつみだいいMM泌尿器科	9.626
									104	やまみ医院	9.724
									105	寺嶋医院	9.816
									106	若宮クリニック	9.865
									107	八幡クリニック	9.867
									108	遠藤医院	9.875
									109	奥田外科医院	9.886
									110	辰巳台クリニック	9.912
									111	斉藤クリニック	9.981

出典:ちば医療なびより

【参考】半径10km圏内における将来推計患者数(1日あたり外来患者数)

単位:名

- 半径10km圏内における病院の外来患者数は5年刻みで減少傾向にあり、2035年以降は全ての疾患が減少傾向になる見込みです。
- 『新生物<腫瘍>』『循環器系』『筋骨格系、結合組織疾患』は、1日あたり200名以上の外来患者数と規模が大きいです。

コード	傷病分類名	将来推計患者数							増減					
		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
01	感染症、寄生虫症	33.6	34.3	33.8	32.7	31.3	30.5	29.5	0.7	-0.5	-1.1	-1.4	-0.8	-1
02	新生物<腫瘍>	275.6	277.9	270.5	260.7	251.5	245.9	237.9	2.3	-7.4	-9.8	-9.2	-5.6	-8
03	血液、造血疾患、免疫障害	12.4	12.4	12.1	11.7	11.1	10.7	10.4	0	-0.3	-0.4	-0.6	-0.4	-0.3
04	内分泌、栄養、代謝疾患	161.1	162	158.9	154.8	149.6	145.1	139.3	0.9	-3.1	-4.1	-5.2	-4.5	-5.8
05	精神、行動の障害	155	150.4	144.9	139.3	131.7	124.7	117.5	-4.6	-5.5	-5.6	-7.6	-7	-7.2
06	神経系の疾患	89.3	92.4	93.5	92.3	88.9	85.5	82.9	3.1	1.1	-1.2	-3.4	-3.4	-2.6
07	眼、付属器の疾患	70.1	72.6	72.2	70.3	67.8	66.3	64.7	2.5	-0.4	-1.9	-2.5	-1.5	-1.6
08	耳、乳様突起の疾患	13.5	13.7	13.4	12.8	12.2	12	11.8	0.2	-0.3	-0.6	-0.6	-0.2	-0.2
09	循環器系の疾患	277.7	294.2	300.7	300.4	292.9	285.3	278	16.5	6.5	-0.3	-7.5	-7.6	-7.3
10	呼吸器系の疾患	79.2	79.4	77.5	74.5	71.2	68.9	66.5	0.2	-1.9	-3	-3.3	-2.3	-2.4
11	消化器系の疾患	164.3	164.6	161	155.4	148.9	144.3	138.8	0.3	-3.6	-5.6	-6.5	-4.6	-5.5
12	皮膚、皮下組織の疾患	61.7	61.6	60.5	58.8	56.3	54.2	51.9	-0.1	-1.1	-1.7	-2.5	-2.1	-2.3
13	筋骨格系、結合組織疾患	230.1	237.3	235.5	229.2	220.7	214.6	207.8	7.2	-1.8	-6.3	-8.5	-6.1	-6.8
14	腎尿路生殖器系の疾患	164.1	166.3	164	160	154.2	149.5	144.6	2.2	-2.3	-4	-5.8	-4.7	-4.9
15	妊娠、分娩、産じょく	8.7	8	7.5	7.1	6.7	6.3	5.8	-0.7	-0.5	-0.4	-0.4	-0.4	-0.5
16	周産期に発生した病態	3.8	3.4	3.2	3.1	2.9	2.7	2.5	-0.4	-0.2	-0.1	-0.2	-0.2	-0.2
17	先天奇形、染色体異常	11.7	11	10.4	9.9	9.3	8.9	8.4	-0.7	-0.6	-0.5	-0.6	-0.4	-0.5
18	他分類(症状、所見)	51	51.2	50	48.3	46.3	44.6	42.9	0.2	-1.2	-1.7	-2	-1.7	-1.7
19	損傷、中毒、他外因の影響	114.2	114.9	113.9	111.3	106.3	101.8	97.4	0.7	-1	-2.6	-5	-4.5	-4.4
20	保健サービス利用など	158.9	155.9	151.4	146.9	141.9	136.3	129.9	-3	-4.5	-4.5	-5	-5.6	-6.4
21	Ⅱ 特殊目的用コード	4.1	4	3.9	3.8	3.6	3.3	3.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	-0.2
総計		2140.1	2167.5	2138.8	2083.3	2005.3	1941.4	1871.6	27.4	-28.7	-55.5	-78	-63.9	-69.8

※将来推計患者数は、エリア内の将来人口推計×各MDCコードの受療率で計算。

なお、エリア内の将来人口推計は、市区町村別人口推計データを、エリア内におけるそれぞれの市区町村の面積で按分して計算している。

出典:厚生労働省「患者調査」の市区町村別「住基ベース傷病分類別推計患者数データ」、「市区町村別将来推計人口データ」、「人口10万人あたり受療率」より作成

(1) 救急に関する調査まとめ

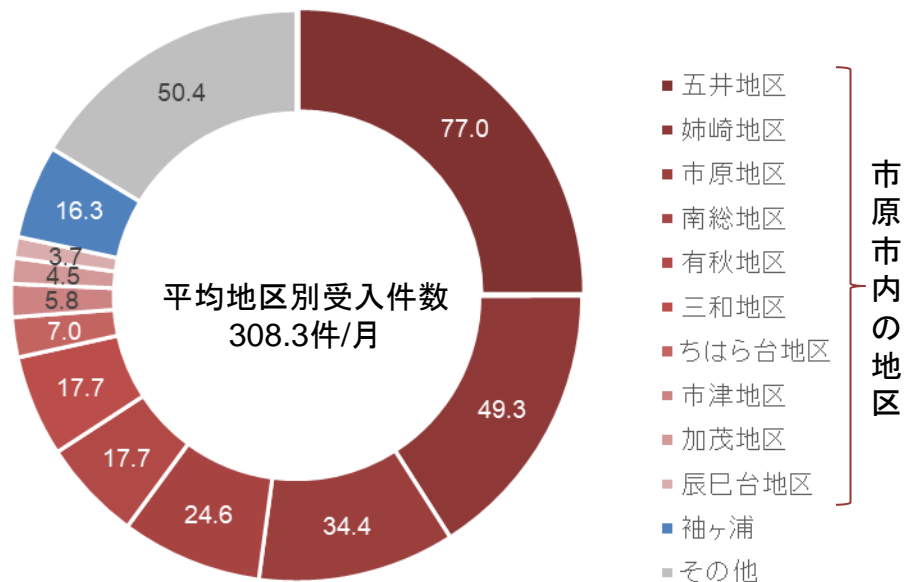
救急対応エリア	<ul style="list-style-type: none"> • 一般的に、対象病院を中心に半径10km圏内が主な対応範囲です。 • 対象病院に関しても、三次救急に対応しているものの、半径10km圏内のエリアからの搬送が70%を超えており、主な対応範囲となっています。
対象病院移転に伴う影響	<ul style="list-style-type: none"> • 現在、市西部地区において、三次救急機能を持つ病院として、対象病院は重要な役割を担っています。 • 対象病院が移転することで、市西部地区周辺には、救急対応が可能な医療機関がなくなり、地域住民に対して影響があるものと考えられます。
救急搬送の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 市原保健医療圏において、覚知から現場到着までの時間や、医療機関交渉回数は千葉県平均を下回っているのに対し、現場出発から病院収容までの時間が千葉県平均より長いため、全体の時間が千葉県平均より長くなっています。 • 対象病院の移転により、救急医療体制の偏在化(特に市西部地区)が懸念されます。

- 対象病院はエリア内において、重要な救急対応可能な医療機関です。
- 対象病院の移転に伴い、対象エリア内において救急対応可能な医療機関がなくなることとなります。
- 今後は、市原保健医療圏全体における二次救急体制の再構築が求められます。

(2) 対象病院救急受入れ件数

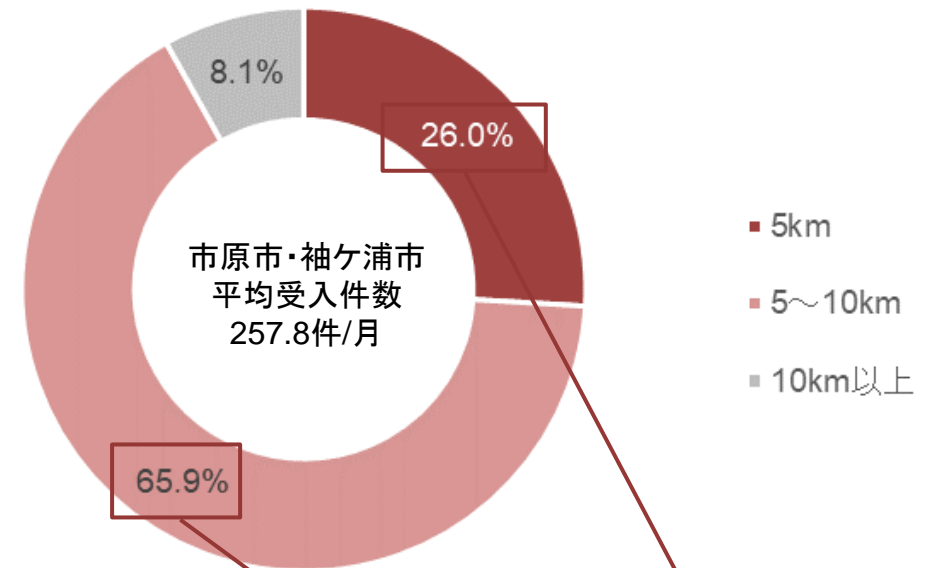
- 対象病院の救急受入れについて、月平均件数308.3件のうち257.8件が市原市、袖ヶ浦市からの受入であり、10km圏内の患者は91.9%を占めています。
- 対象病院は、三次救急の医療機関ですが、地域に根差した救急医療を実施しています。

地区別救急件数



市原市内(赤色)、袖ヶ浦市(青色)
合計257.8件/月(83.6%)

距離別救急件数



市原市・袖ヶ浦市合計のうち
半径10km圏内
合計236.9件
(91.9%)

(3) 対象病院移転後の救急対応病院の分布

- 対象病院移転後、対象エリアにおける救急体制機能の空洞化が発生することが予想されます。
- そのため、二次救急医療体制の再構築が求められます。

市原保健医療圏の救急病院(移転前)



市原保健医療圏の救急病院(移転後)



病院一覧

No	病院名称
1	永野病院
2	千葉県循環器病センター
3	帝京大学ちば総合医療センター
4	姉崎病院
5	辰巳病院
6	リハビリテーション病院さらしな

No	病院名称
7	鎗田病院
8	千葉労災病院
9	五井病院
10	白金整形外科病院
11	長谷川病院

※上記一覧以外に、白金整形外科クリニック(診療所)が二次救急を担当

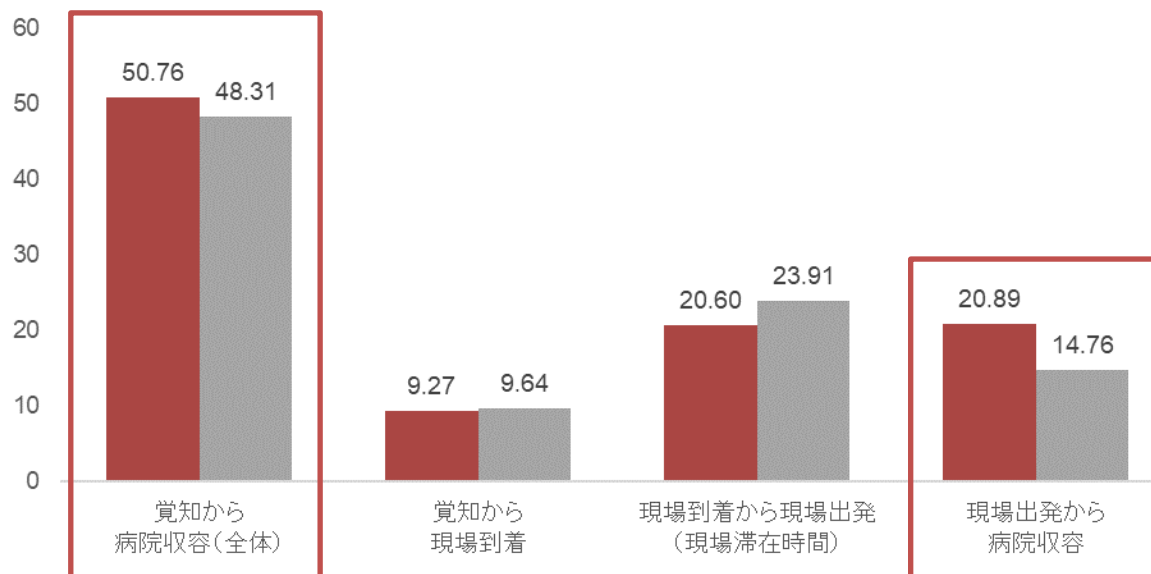
【参考】覚知から現場到着までの時間

- 市原保健医療圏において、覚知から現場到着までの時間や、医療機関交渉回数は千葉県平均を下回っているのに対し、現場出発から病院収容までの時間が千葉県平均より長いいため、全体の時間が千葉県平均より長くなっています。
- 対象病院の移転により、救急医療体制の偏在化(特に市西部地区)が懸念されます。

救急搬送平均時間

単位:分

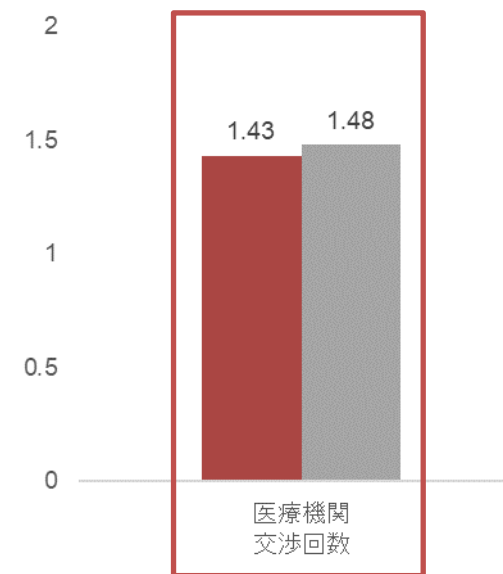
■市原保健医療圏 ■千葉県全体



医療機関平均交渉回数

単位:回

■市原保健医療圏 ■千葉県全体



出典: 令和3年救急搬送実態調査結果より作成

終章

1 調査結果総括

今回、対象病院の移転に伴う影響範囲を入院・救急が10km、外来が5kmと設定し、同病院が担っている役割や市原保健医療圏の人口、既存医療資源等を要素に分析してきました。

この結果、市西部地区においては、入院は200～230床程度、外来は200～250人/日程度の需要があること。また、市原保健医療圏における二次救急体制の再構築が求められることの方角性を得ました。

また、人口の動向をみると、医療需要の大きい年齢層である75歳以上人口は2040年にかけて横ばいしないし逡減しさらに2045年以降は増加に転じることが予想されています。

従って、2040年を超え2050年頃も視野に入れた中長期的な視点からも、同地区に新たな医療体制を確保することに合理性があるものと総括します。

2 今後の取り組み

今回の調査により得られたデータに加え、千葉県が策定した保健医療計画及び保健医療圏ごとに分析した「地区診断」等を参考としながら、本市の地域医療体制の適正化について検討します。

検討にあたっては、市内の医療関係機関及び千葉県等の関係者と意見交換を進めていきます。

用語の説明

用語の説明

用語名	説明																																						
MDC (Major Diagnostic Category)	<p>WHOが制定しているICD-10分類「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」に基づく18の主要診断群を示す。この主要診断群を表すコードがMDCコードである。</p> <table border="1" data-bbox="837 432 1995 1469"> <thead> <tr> <th data-bbox="837 432 1095 507">主要診断群</th> <th data-bbox="1095 432 1995 507">MDC日本語表記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td data-bbox="837 507 1095 560">01</td><td data-bbox="1095 507 1995 560">神経系疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 560 1095 612">02</td><td data-bbox="1095 560 1995 612">眼科系疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 612 1095 665">03</td><td data-bbox="1095 612 1995 665">耳鼻咽喉科系疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 665 1095 718">04</td><td data-bbox="1095 665 1995 718">呼吸器系疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 718 1095 770">05</td><td data-bbox="1095 718 1995 770">循環器系疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 770 1095 823">06</td><td data-bbox="1095 770 1995 823">消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 823 1095 876">07</td><td data-bbox="1095 823 1995 876">筋骨格系疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 876 1095 928">08</td><td data-bbox="1095 876 1995 928">皮膚・皮下組織の疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 928 1095 981">09</td><td data-bbox="1095 928 1995 981">乳房の疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 981 1095 1034">10</td><td data-bbox="1095 981 1995 1034">内分泌・栄養・代謝に関する疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1034 1095 1086">11</td><td data-bbox="1095 1034 1995 1086">腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1086 1095 1139">12</td><td data-bbox="1095 1086 1995 1139">女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1139 1095 1192">13</td><td data-bbox="1095 1139 1995 1192">血液・造血器・免疫臓器の疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1192 1095 1244">14</td><td data-bbox="1095 1192 1995 1244">新生児疾患、先天性奇形</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1244 1095 1297">15</td><td data-bbox="1095 1244 1995 1297">小児疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1297 1095 1350">16</td><td data-bbox="1095 1297 1995 1350">外傷・熱傷・中毒</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1350 1095 1402">17</td><td data-bbox="1095 1350 1995 1402">精神疾患</td></tr> <tr><td data-bbox="837 1402 1095 1469">18</td><td data-bbox="1095 1402 1995 1469">その他の疾患</td></tr> </tbody> </table>	主要診断群	MDC日本語表記	01	神経系疾患	02	眼科系疾患	03	耳鼻咽喉科系疾患	04	呼吸器系疾患	05	循環器系疾患	06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	07	筋骨格系疾患	08	皮膚・皮下組織の疾患	09	乳房の疾患	10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	14	新生児疾患、先天性奇形	15	小児疾患	16	外傷・熱傷・中毒	17	精神疾患	18	その他の疾患
主要診断群	MDC日本語表記																																						
01	神経系疾患																																						
02	眼科系疾患																																						
03	耳鼻咽喉科系疾患																																						
04	呼吸器系疾患																																						
05	循環器系疾患																																						
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患																																						
07	筋骨格系疾患																																						
08	皮膚・皮下組織の疾患																																						
09	乳房の疾患																																						
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患																																						
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患																																						
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩																																						
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患																																						
14	新生児疾患、先天性奇形																																						
15	小児疾患																																						
16	外傷・熱傷・中毒																																						
17	精神疾患																																						
18	その他の疾患																																						

用語の説明

用語名		説明
二次医療圏		医療法の規定により、都道府県において設定される区域(概ね広域市町村圏)で、主として一般の入院医療を提供する病院の病床の整備を図るべき区域
医療機能	高度急性期	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて「診療密度が高い医療」を提供する機能
	急性期	疾病や怪我などが急激に進行する段階で行われる医療機能
	回復期	急性期治療を終えた患者に対して提供される医療であり、患者の回復と日常生活への復帰を支援することが目的とする機能
	慢性期	患者が急性期治療を終えた後に提供される医療機能であり、慢性的な疾患や症状に対する治療やケアを含む
入院		一般的には、患者が医療機関において一定期間以上の治療やケアを受けることを指す
外来		医療機関において患者が予約なしで診察や治療を受けることを指す
実患者数		ある期間内に医療機関を実際に利用した患者の総数を指す。この数値は、患者が複数回診療を受けた場合でも、個々の患者を1人としてカウントするため、重複を排除した患者数を示す
延べ患者数		ある期間内に医療機関で治療した患者数合計を示す
病床稼働率		医療機関の病床が実際に利用されている割合を示す

用語の説明

用語名	説明
エリア内シェア	対象エリア内において、MDC別の治療実績合計の対象病院の割合を指す(対象病院の該当MDC別の治療実績÷該当MDC別の対象エリア内の総治療実績より算出)
患者数成長率	2025年から2035年の患者増減率を示す(「(2035年患者数÷2025年患者数)-1」より算出)
地域医療支援病院	患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を行い、かかりつけ医等への支援を通じて地域医療の確保を図る病院
重症度、医療・看護必要度	重症度、医療・看護必要度はA項目・B項目・C項目からなる。 「A項目:モニタリング及び処置等」では、医学管理や処置等の実施状況を評価。 「B項目:患者の状況等」では、患者のADL状況や意識レベルを評価。 「C項目:手術等の医学的状況」では、2万点以上の手術や検査の実施状況を評価。
病床機能報告	病床(一般病床及び療養病床)を有する病院・診療所が、その病床において担っている現在の医療機能と今後の方向について、病棟単位で自ら選択し、毎年都道府県に報告する仕組み
地域医療構想	将来人口推計をもとに2025年に必要となる病床数(病床の必要量)を4つの医療機能ごとに推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取組み

2024年4月発行

発行：市原市保健福祉部保健福祉課

〒290 - 8501 市原市国分寺台中央1丁目1番地1

電話：0436-23-9768

ホームページ：<https://www.city.ichihara.chiba.jp/1stCategory?categoryId=30300000>